

令和7年度

# 研究 くり た

研究主題

児童生徒が生き生きと学ぶ姿を目指した授業づくり



秋田県立栗田支援学校

## 目 次

◇はじめに	校 長 神 部 守	
◇全校研究	-----	1
◇小学部研究	-----	7
◇中学部研究	-----	26
◇高等部 普通科研究	-----	45
◇高等部 総合サービス科研究	-----	62
◇寄宿舎研究	-----	78
◇資料 研究のあゆみ	-----	86
◇おわりに	副校長 田 中 紀 和	

## はじめに

障害のある子どもたちへの教育が特別支援教育と呼ばれるようになって、まもなく20年になろうとしています。

それまでの障害児教育は特殊教育と呼ばれ、「障害の種類と程度」に着目して指導を行っていました。平成19年に始まった特別支援教育では、「障害の種類と程度」だけでなく、障害のある子ども一人一人の「特別な教育的ニーズ」を的確に把握し、指導と支援を行っていこうとする新しい考え方に大きく転換されました。

それから今日まで、学習指導要領は2度改訂され、現行学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」が要点として挙げられています。令和3年1月には、中教審答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』が出され、共生社会の実現に向けて、地域で豊かに生きていく力を育成するために、学力の三要素(思考力、判断力、表現力)を大切に、開かれた教育課程を具現化していく実践が必要とされました。また、令和の時代になってすぐに起こったコロナ禍では、教育におけるICT活用の重要性が一層注目されました。このように、私たちを取り巻く社会はめまぐるしく変化しており、その変化する時代を生き抜く子どもたちを育てる私たち教員も変化への対応が求められています。

一方、「不易流行」という言葉があります。「不易」はいつまでも変わらないものの、「流行」は変化していくものを意味します。時代の流れや社会の情勢によって育成すべき資質・能力や、それらを育成するための学びの在り方は変化しますが、一方で、目の前の子どもたちを理解することから指導を始め、積み重ねていくことは、私たち特別支援教育に携わる者の基本であり、不変の営みであると考えます。

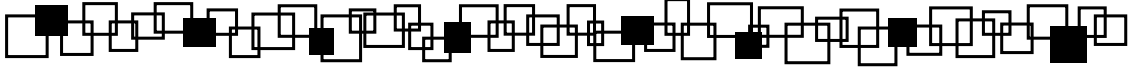
本校では、昨年度まで「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり」をテーマとした3か年計画の研究に取り組みました。その中で、授業づくりに必要な視点を整理して、改めて全校の教職員で確認することができました。当たり前のことを当たり前に行うことの大切さを確認しただけだったかもしれません。しかし、めまぐるしく変化する社会の「流行」に対し、授業を通して子どもを育てるという私たちの「不易」に迫る価値のある取組であったと思います。

今年度からの2年間は、昨年度までの成果を受け、授業の中で児童生徒の「生き生きと学ぶ姿」を引き出すための方策を研究することにしました。各学部等で「生き生きと」とはどんな姿を指すのか、またそのように学ぶためにはどんな手立てが必要か、など授業実践を通して考えています。本研究紀要をお読みいただき、この1年目の取組について、忌憚のない御意見や御感想をお寄せください。

今年度も、研究の推進に当たっては、秋田県総合教育センターの先生方をはじめ、多くの皆様の御協力をいただきました。この場を借りて心から感謝を申し上げます。

校長 神部 守

# 全校研究



# 今年度の研究について

秋田県立栗田支援学校

## 1 主題

児童生徒が生き生きと学ぶ姿を目指した授業づくり(1年次/2年次)

## 2 主題設定理由

### (1) 学校の現状から

本校の児童生徒数は257名(小学部82名、中学部69名、高等部106名)、職員数も150名を超える。各学部の学年集団も大きく、多様な学習集団の中で様々な学習活動を展開することができる。

一方で、本校には、自宅からだけでなく、寄宿舎、障害児施設、児童養護施設からの通学生も多く、多様な背景をもつ児童生徒が在籍している。児童生徒が抱える困難さも多様化しており、授業づくりにおいて学習活動の設定に難しさやもどかしさを感じている職員が多い。

また、昨年度実施した職員アンケートでは、学年集団が大きいと、職員間での授業の意図が伝わりづらく、ねらいや手立ての共有が難しいという意見があった。学級では共有されている児童生徒の個別の実態や支援方法について、学年や学部で情報を共有及び検討することに時間を要する。そのため、児童生徒に関わる複数の職員がチームとして授業づくりを進めていくうえで、一人一人の実態把握と指導方法の工夫を職員間で共有することが難しい。

児童生徒の実態を職員が十分に把握し、児童生徒に寄り添いながら、一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりを十分に検討し進めていくことが重要であると考えます。

### (2) これまでの研究から

令和4年度から、「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり」をテーマとし、3年計画で研究を進めてきた。1年目は、学校教育目標に沿った「各学年で目指す姿」を基に、キャリア教育の視点で学部間・学年間のつながりを確認した。また、個別最適な学びと地域の特性を生かした活動等による協働的な学びを意識した単元計画や学習活動、実態に応じた支援の工夫等による授業づくりを行い、「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント」を導き出した。2、3年目は、そのポイントを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、教師同士の対話を通じて児童生徒の学びを丁寧に見取り、各学部の課題に基づいた授業実践を積み重ねた。成果として、本校の実践から導き出した「自ら学び続ける子どもの姿」が明確になり、授業づくりに必要な視点を整理できた。その中でも「学びの必然性」と「学びによる達成感」が重要であること、土台として「多角的な視点から捉えた児童生徒理解」が大切であることを全校で共有できた。

## 3 研究の目的

本研究の目的は、的確な実態把握に基づき、児童生徒観、題材観、指導観の流れで授業を捉えることが、授業の意図の明確化と学習環境の充実につながり、児童生徒が生き生きと学ぶ姿を生み出す上で有効であるかを明らかにすることである。

## 4 研究仮説

的確な実態把握に基づき児童生徒観、題材観、指導観の流れで授業を捉えることで、「何を、どのように学ぶか」が明確になり、授業者全員が授業の意図を根拠に基づき説明できる授業が成立し、児童生徒一人一人が分かりやすく学びやすい学習環境が実現することで、児童生徒が生き生きと学ぶ姿につながるであろう。

## 5 研究の内容と方法

### (1) 1年次の研究の内容と方法

的確な実態把握に基づき、「このような実態の児童生徒だから、この題材でこんな力を付けたい、そのためにこんな指導をしたい」というように児童生徒観、題材観、指導観の流れで授業を捉えるために、以下の①～⑤の内容を段階的に進める。研究対象授業の授業づくりについて、研究部がコーディネーターとなり、チームとして授業を考えていけるようにする。

#### ①児童生徒の思いや願いを含めた実態把握の充実

実態把握の一つとして、児童生徒の興味・関心、思いや願いを把握する。学校での生活や学習から見取ったり、保護者面談や生徒との個別面談から聞き取ったりして年間を通して変容が分かるように、学部に応じた様式や方法を検討する。

#### ②児童生徒の実態の整理と捉え直し

対象児童生徒を抽出し、複数の職員で実態を再整理し、客観的な視点で捉え直す。児童生徒の実態把握を自立活動の6区分 27項目を意識して整理し、表面的な行動だけでなく、背景にある学習上の困難さを明らかにする。それを基に、一人一人に応じた手立て・配慮を考え、授業の指導上の留意点や個別の手立てに反映させる。

#### ③「何を学ぶか」の明確化

実態把握を基に、この学習で何を学ぶのかを明確にするため、学習指導要領の各教科の目標と内容を指導者で確認、共有する機会を設定する。また、単元・題材目標、本時のねらい、めあてとまとめに整合性があるかを検討し、授業シミュレーションを行い授業の流れに沿って確認する。

#### ④教材研究の充実と、児童生徒にとって必然性のある学習活動の検討

教材研究の充実では、教材がもつ「価値」や「学びの可能性」を探るため、指導する目標や学習内容に迫れるものであるか、個別のねらいの達成に迫ることができる教材であるか、子どもが「やりたい」「知りたい」と思える教材であるかを事前検討で吟味する。

また、学習活動の検討では、昨年度の研究成果である「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント」を活用するとともに、めあての提示と関連する教師の発問を指導案に記入する。

#### ⑤児童生徒の具体的な姿に基づいた学びの評価の実施

1単位時間の学習過程に沿った児童生徒の具体的な姿は、学部授業研究会を活用し評価する。単元のねらいに沿った評価は、定期的開催する学年会を活用し、評価を重ねる。学部に応じた評価方法を検討し、研究部が主体となり進めていくことで、職員の話し合いを深め、記録として積み重ねていく。

## (2) 2年次の研究の内容と方法

1年次で取り組んだ内容と方法を「授業づくりのシステム」として視覚化し、普段の授業づくりに活用した授業実践を継続する。また、個々の児童生徒の学びの成果を、研究対象授業以外においても活用できるような評価の在り方、方法を検討していく。

## (3) 研究の日程

月	学部研究会	研究全体会及び学部授業研究会
4		25日(金) ○第1回研究全体会 ・研究の方向性の確認
5	23日(金) ○今年度の学部での取組について説明	
6	18日(水) ○対象児童生徒の実態の整理と捉え直し	
7	16日(水) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	16日(水)高等部普通科授業研究会 17日(木)中学部授業研究会(授業提示) 18日(金)中学部授業研究会(授業協議)
8	22日(金) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	21日(木) ○第2回研究全体会 ・各学部の研究経過報告
9	22日(月) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	22日(月)中学部授業研究会 24日(水)高等部普通科授業研究会 26日(金)小学部授業研究会 29日(月)高等部総合サービス科授業研究会
10	15日(水) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	
11	19日(水) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	28日(金)小学部授業研究会(授業提示)
12	12日(金) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	1日(月)小学部授業研究会(授業協議)
1	9日(金) ○今年度の取組の成果と課題についての共有	21日(水) ○第3回研究全体会 ・全校研究及び学部研究のまとめの報告
2	20日(金) ○来年度の取組についての検討	

## 6 研究の実際

### (1) 児童生徒の思いや願いを含めた実態把握の充実

児童生徒の思いや願い、得意なことや苦手なことなどを、各学部の児童生徒の実態に応じて、本人から聞き取ったり、児童生徒の行動から見取ったりしたことで、児童生徒の思いや願いを含めた内面の理解を深めることにつながった。以下は、各学部や寄宿舎で行ったことである。

- ・小学部では、ワークショップ形式で職員同士が日常の児童の姿から見取った思いや願い、興味や関心、学び方等、児童の内面を見取りを伝え合った。
- ・中学部では、個別面談を定期的実施した。聞き取り内容を学部で項目化し、面談で取り上げる内容を統一した。
- ・高等部普通科では、ワンステップシート、高等部総合サービス科では、目標達成シートを作成し生徒本人が書き込む形のシートを作成した。
- ・寄宿舎では、自立生活実習に向けての話合いで、生徒本人からニーズを聞く機会をもった。

特に、中学部の個別面談の実施や、寄宿舎の自立生活実習に向けた生徒との話合いでは、生徒の思いや願いだけでなく、これまでの学習の成果や本人の頑張りや変容を伝えるとともに、これから頑張りたいことや目標について取り上げ、次の面談で評価をした。「生徒本人がめあてをもち、取り組み、振り返り、次の学びにつなげる」というサイクルを引き出すことができた。



写真1 自立生活実習に向けた話し合いの様子

### (2) 児童生徒の実態の整理と捉え直し

複数の職員で児童生徒の実態を再確認して整理するため、自立活動の流れ図（簡易版）を活用した。各学年で設定した対象児童生徒の実態を自立活動の6区分27項目を意識して書き出し、再整理しながら、行動の背景を含めて話し合う機会を設定した。職員研修会でも取り上げ、実態を捉える際には行動の背景にある困難さや児童生徒の得意な部分に目を向けるよう、自立活動アドバイザーや教育専門監から助言を受けた。

また、対象児童生徒が参加する授業場面では、実態の整理と捉え直しの話合いから導き出した有効的な手立てや支援を取り入れた。学習グループの設定や、学習環境の整理などを見直すきっかけとなった。児童生徒の実態を多面的に捉えることへつながった。

自立活動の指導事例		生徒の実態の整理と捉え直し		秋田県立薬田支援学校 高等部総合サービス科1年生 —学生・氏名—	
① 実態把握 学習・生活の中で見られる長所や課題、動機に生かせる情報を把握する					
障害の状況 特性・関心 発達・経験等	指示どおりに動く	①初めてのことが苦手(固まる)	卓球		
	規範意識が高い	②体力がない	動物観察		
	正確性	③自分からの表現	スイーツづくり		
	文章で表現できる	④気分の浮き沈みがある	パソコン		
やるべきことを考えて動く	⑤思い込みが強い				
分からないことを質問できる					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	雇用の把握	身体の動き	コミュニケーション
②運動の機会が少ない	①見通しがもてない不安になる	③伝えることを整理することが難しい(自信がない)	①具体的な指示がないと動くことが難しい	②運動の機会が少ない	①③⑤様々な場や相手と関わる経験不足
②③食食べていないことがある	③自己肯定感が低い	④自己の心情理解が難しい			⑤他者の気持ちを考える力に課題
②食事が少ない	④場面によって切り替えて動くことが難しい				

図1 自立活動の流れ図を活用した実態の再整理

### (3) 授業者同士で授業の意図を検討・共有することを目的とした事前検討会の実施

研究対象授業の授業づくりについて、研究部がコーディネーターとなり、事前検討会の日程、目的、メンバーを明示して計画、実施した。検討会では、児童生徒の思いや願いを含め、対象児

童生徒の再整理した実態も加味し、児童生徒観について主に授業者同士で共有した。また、学部によっては、単元構想シート等を活用し、題材を選定した理由、単元（題材）計画や単元（題材）目標について、この授業でどんな力を、どのような理由で育てたいのかを整理し、授業者が段階的に考えていけるように工夫した。



写真2 研究部がコーディネーターとなった事前検討会の様子

#### （4）児童生徒の具体的な姿に基づいた学びの評価の実施

主に対象児童生徒について、職員同士で授業場面での具体的な姿を挙げながら学びの評価をした。また、学年会や職員アンケートを活用し、「学年で育てたい力」の評価とともに、対象児童生徒の学びについても単元ごとに評価を行った学部もあった。寄宿舎では、ショートミーティングを定期的実施し、対象生徒の変容を職員同士で共有した。事前検討会で「何を学ぶのか」について教職員間で共有しておくことで、評価の観点が明確になり、具体的な姿と結び付けながら評価することへとつながった。

## 7 まとめ

### （1）成果

#### ①児童生徒の思いや願いを反映した授業づくり

個別面談の定期的な実施をはじめ、各学部の実態に応じた様々な方法で児童生徒の思いや願いを含めた児童生徒の内面への理解を深めることができた。そのことが、児童生徒本人の「やりたい」や「知りたい」という思いを起点にした主体的に取り組める授業を構想することへとつながったのではないかと考える。また、対象児童生徒の実態の整理においても、自立活動の6区分27項目を意識した実態の捉えや、行動の背景を探る過程を職員同士で共有したことで、児童生徒が安心して活動できる環境、学びやすい環境を整える手立てや支援へとつながった。児童生徒の思いや行動の背景を含めた多面的な実態把握が、各学部が設定した生き生きと学ぶ姿へとつながったのではないかと考える。

#### ②児童生徒の学びを価値づける視点の共有

各学部の児童生徒の変容から、「自分が頑張るポイントを児童が理解して発表できた」、「頑張りを積み重ねたファイル（みちしるべ）が、生徒自身が自分の成長に気付くきっかけとなった」、「自己理解が深まった」など、何を学んだのか、学びをどのように生かしたいのか、児童生徒自身が意識しつつある姿が見られた。その背景には、児童生徒本人が、この授業で何を学ぶのかが分かり、何を頑張りたいかが明確になる仕掛けや手立てがあったと考えられる。それは、研究部がコーディネーターとなり、児童生徒の実態に加えて、「何を、どのように学ぶのか」を授業者同士で十分検討したこと、児童生徒の具体的な姿に基づいた学びの評価を共有する機会を定期的にもったことが要因ではないかと考えられる。児童生徒一人一人の学びを価値づけるための視点について、事前検討会で言語化し教職員間で共有する方法を、次年度も継続して深めていきたい。

## (2) 2年次に向けて

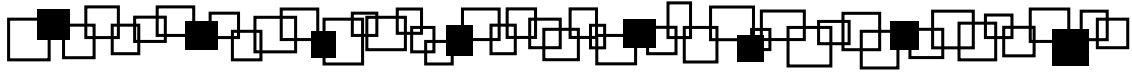
### ①今年度の実態把握のための取組を、個別の教育資料作成の手順へ位置付ける

今年度の成果とした児童生徒の思いや行動の背景を含めた多面的な実態把握は、既存の個別の教育資料に十分活用できると考える。様々な方法で把握した実態を、個別の教育資料作成時の情報及び指導の根拠として活用し、日々の授業づくりにつなげていけるようにしたい。

### ②授業の評価の観点を明確にし、ねらいやめあてに沿った指導及び支援の工夫を図る

今年度行った事前検討会では、児童生徒の実態を把握し、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を、単元全体を見通して検討した。「何をどのように学ぶのか」を十分検討できたが、授業研究会後、授業者からは「めあてとまとめのつながりが難しかった」「教師の発問の重要性に気付いた」など、実際の授業場面に関わる意見や感想が挙げられた。めあてを想起させる教師の発問、児童生徒が分かりやすい板書計画など、一単位時間の授業の流れを踏まえ、指導や支援の工夫についても検討する機会を設定していきたい。授業で何を評価するのか、個々の児童生徒がねらいを達成した姿はどんな姿か、授業の評価の観点を2、3段階で示すことで、ねらいを明確にし、ねらいやめあてに即した指導・支援の工夫につなげていけるようにしたい。

# 小学部研究



## 小学部研究

～児童が「できた」と達成感を味わい、自ら学習に取り組む姿を目指して～

### 1 学部研究テーマ設定理由

昨年度小学部では、全校研究テーマにある「自ら学び続ける子ども」を『自分で』『自分たちで』『誰かのために』活動する子どもと捉え、『やりたい』『できた』『もっとやってみよう』と児童が感じ、自ら取り組もうとする姿を目指して」を研究テーマに取り組んできた。授業づくりのポイントを「自分で」「自分たちで」「誰かのために」の三つのキーワードで整理したことで、各教師の児童の捉えや学びについての解釈を伝え合って検討でき、指導の妥当性が向上した。

しかし昨年度の研究の気付きとして、児童が自ら次の学びに向かおうとする姿を引き出すためには、「できた」という達成感を十分に感じられる場面が必要であることが分かった。そこで今年度は、全校研究テーマにある「児童生徒が生き生きと学ぶ姿」を小学部では「児童が『できた』という達成感を味わい、自ら学習に取り組む姿」と捉え、研究に取り組むこととした。研究対象授業は、遊びの指導と生活単元学習とする。

小学部の児童は、経験したことや見通しをもった活動には自分から取り組むことができる。そのため、児童が「少し頑張ればできる活動」を授業内に設定し、「できた」と児童が感じられる経験を積み重ねていくとともに、「できた」と児童が達成感を得ることができるよう、児童にとって分かりやすいゴールを設定する。教師がねらいを達成する児童のイメージを明確にもち、教師間で共有して授業づくりに取り組むことで、児童が自分の学びを実感し、達成感を得て次の学びに向かう姿を引き出すことができるのではないかと考え、以上の取組により児童が「できた」の経験を積み重ねることで、自ら学習に取り組む姿へつながっていくと考え、学部研究テーマを「児童が『できた』という達成感を味わい、自ら学習に取り組む姿を目指して」と設定した。

### 2 研究仮説

児童の思いや願いを含めた適切な実態把握と、教師が育てたいと考える力を基に、「何をどのように学ぶか」を明確にし、「できた」という達成感を児童が積み重ねられるような授業づくりを行うことで、児童は自分の学びを実感し、生き生きと自ら学習に取り組む姿の育成を図ることができるだろう。

### 3 研究の内容と取組の実際

#### (1) 児童の思いや願いを含めた実態把握の充実と指導内容の検討

##### ①児童の思いや願いと教師が育てたいと考える力をすり合わせた指導内容の検討

児童が意欲をもって取り組み、達成感を味わえるような活動を設定するために、学年会等の機会に個別の教育支援計画を活用し、児童の姿や思いや願い、興味関心を把握し、「学年で育てたい力」とすり合わせて指導内容を検討し「何をどのように学ぶか」を明らかにした。学年で対象児童を一人設定し、日常の児童の姿から、思いや願い、興味関心、学び方等の各教師が見取ったことを、付箋で模造紙に貼って検討するワークショップ形式で行った。各教師の捉えを学年の教師間で伝え合

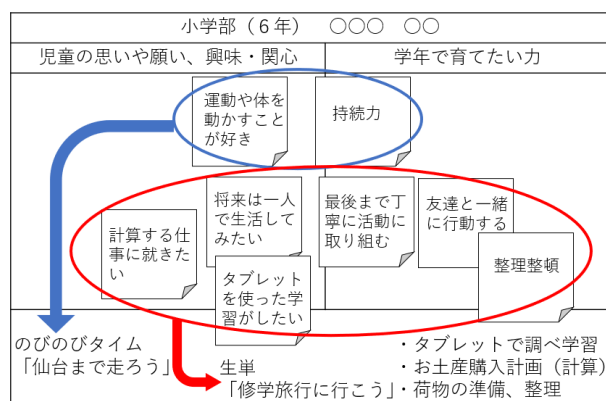


写真1 指導内容検討シート

い検討することで、児童理解が深まり、より必然性のある学習活動を設定できた。

## ②児童の実態の整理と捉え直し

対象児童の学習上の困り感や困難さ、障害特性などについて、学年の教師で自立活動の視点で整理し、児童の実態の捉え直しを行った。児童の行動の背景を複数の教師による多角的な視点で検討することで、児童の姿の捉えの客観性が高まり、支援方法の妥当性が向上した。

## (2) 児童が達成感を十分に味わうための授業づくりの工夫

### ①ゴールを明確にした「少し頑張ればできる活動」の設定

児童の思いや願いと教師が育てたいと考える力とをすり合わせて明らかになった指導内容について、児童の詳細な実態把握を基に「児童が目標を達成する具体的な姿」を学年の教師間で共有し、児童にとって「少し頑張ればできる活動」を検討した。提示授業を行う2、3年生では単元構想検討会や授業シミュレーションを実施し、授業内で予想される児童の姿を具体的にイメージして教師間で共有した。また、明確になったゴールを教師と児童で共通理解できるように、児童にとって分かりやすい本時のゴールの提示の仕方について検討した。

### ②児童の学びの価値付け

児童が「できた」「頑張った」と自分の学びを振り返って実感し、達成感を味わうことができるように、児童の行動や取組を教師がどのように意味付け、どのような機会を設定して認めるか、学年の教師間で検討した。

## 4 授業の実際

### (1) 第2学年 遊びの指導「わくわくすいぞくかん」9月26日(金)

本題材では、校外学習で行った水族館をテーマに遊びを展開する。自分で好きなコーナーを選んだり、教師や友達と関わったりしながら遊ぶことをねらいとし、初めてのことが苦手な児童も安心して遊べるように、前題材「わくわくどうぶつえん」で経験した遊びや、ダイナミックに体を動かす遊びを取り入れた。遊びへの期待感を高め、自分で考えて遊具を選んだり遊んだりする姿を引き出すために、遊びに用いる遊具も児童が制作した。また、友達と関わる姿を期待して、遊びの展開の中に、友達と二人以上で遊ぶコーナーや、みんなで協力してミッションに挑戦する活動を設定した。本時は、「自分の好きなコーナーを選んだり、教師の誘いを受けたりして、時間いっぱい遊ぶ」「教師や友達と一緒に、ミッションをクリアしたり、悪者をやっつけたりする」をねらいとし、活動に取り組んだ。

### ①事前授業検討から

グループ協議では、「児童が視覚的に自己評価したり、次時への期待感を高めたりできるように、写真や動画を活用してはどうか」、「コーナーで遊ぶとポイントとしてシールを獲得できるなどの報酬があってもよい」といった提案が挙げられた。また、楽しさや達成感を全員で共有し必然性のある活動になるように、「全員でやっつけないとワニを倒せない」というルールを設定してはどうかという提案もあった。

### ②授業協議から

#### <児童の興味・関心に応じた遊具、活動>

- ・児童の好きな感触の素材で作られていたり、楽しく体を動かすことができたりと、遊具が児童の興味・関心に応じて工夫されていたことで、どの児童も好きなコーナーを選んで時間いっぱい遊ぶ姿

が見られた。

- ・教師も衣装を着たり、遊びの助言をしたりする博士役になったりと場を盛り上げる仕掛けの一つとなることで、児童が遊びに夢中になれる雰囲気を作っていた。

#### <友達との自然な関わりが生まれる遊びの設定>

- ・複数人で乗れる乗り物や、大きな魚と一緒に釣りを上げるコーナーなど遊具が工夫されていたことで、友達との自然な関わりが生まれていた。
- ・友達と協力して行うミッションが設定されていたことで、児童が自分から友達を誘う姿が見られた。
- ・体育館いっぱいに多数の遊具が設置されており、児童がいろいろな場所に分かれて遊んでいる。遊具を精選・整理し、児童が必然的に関わる場面を増やせるようにできるとよい。

#### <達成感を味わえる工夫>

- ・ミッションをクリアするとシールを獲得できるようにしたことで、うれしくて教師にシールを見せに来る児童の姿があった。
- ・活動の終盤、全員でワニを倒すミッションにより、一体感が生まれていた。
- ・自分で遊びを工夫したり広げたりした児童に気づき、教師が言葉を掛けられるとよい。また、児童が考えるような場面を設定できるとよい。



写真2 ミッションを確認する児童



写真3 全員で取り組むミッション

### ③指導助言から

- ・体育館いっぱいに多くの遊具が準備されており、またその素材や仕掛けに児童の興味・関心に応じた様々な工夫がされていた。たくさんの工夫があるのだから、教師が働き掛けを控え「見守る」「待つ」時間も必要だったのではないか。
- ・児童はとても楽しそうで、満足感でいっぱいだったと思う。だが満足感と達成感は同じか。達成感を得るためには、「できた」という児童の実感が必要。教師が目標を達成した児童の姿を具体的にイメージすることで、評価規準が明確になり、児童が達成感を味わえるような言葉掛けや称賛といった学びの価値付けができる。
- ・児童が楽しいと感じる遊び、遊び方とはどのようなものか、学年の教師全員で今一度考えてみてほしい。教師の「きっと楽しい」という思い込みを児童に押し付けることのないように、教師の主観ではなく、客観性を高めて授業づくりを進めてほしい。

#### <学部授業研究会における学部研究テーマと関連するキーワード>

「本時のゴールの明確化と、教師と児童との共有」  
「児童理解や支援の方法の客観性を高めた授業づくり」

### (2) 第3学年 生活単元学習 単元名「さんさんしあたーⅡ～ぞうくんのさんぼ～」11月28日(金)

本単元は、年間を通して取り組む絵本を題材にした劇遊びとその発表活動の2回目であり、絵本「ぞうくんのさんぼ」を題材としている。登場する動物たちを模倣してせりふを話したり動作で表したりすることや、友達と一緒に活動することが主なねらいである。自信をもって自分の役割を

果たしたり新しい活動に興味をもって取り組んだりできるように、児童の実態に応じた役を友達と楽しく関わりながら果たせるよう、友達と言葉の掛け合いをする活動を設定した。本時は3グループに分かれて練習に取り組み、最後にお互いの練習の成果を見せ合う活動を行った。

### ①事前授業検討から

事前授業検討では、単元構成や学習活動の工夫のほか、「児童が学びを実感できるような『分かりやすい本時のゴールの提示』と『振り返り』とは」という点を中心に協議を行い、以下のような意見が挙げられた。

- ・めあてを提示するときは動画や写真を活用し児童に分かる表現で伝えるようにしたい。
- ・お互いの発表を見合うときは「評価の視点」があると、児童が互いに評価できるようになるのではないかと。

### ②授業協議から

#### <実態に応じた役割と活動の設定>

- ・分かりやすいせりふや動きで劇が構成されており、児童に提示する「せりふカード」なども効果的だった。児童が自分の動きやせりふが分かり、自信をもって取り組んでいた。



写真4 友達と一緒にせりふを言う

#### <「頑張りポイント」の提示>

- ・発表のポイントがイラストと文字で具体的に提示されており、児童にとって「何を頑張ればよいか」「どこに注目すればよいか」が分かりやすかった。
- ・声の大きさを段階で示したイラストを提示し、「3の声で言おう」と目標設定していたが、「3」という声の大きさの基準が曖昧だった。全員で「3の声の大きさ」を出してみ確認し合ったり、動画や声の大きさを測れるアプリを活用したりするのはどうか。



写真5 「頑張りポイント」の提示

#### <学びの価値付け>

- ・T1が良かったところを児童が分かる言葉で具体的に褒めたことで、児童が笑顔になった。注目するポイントが分かりやすかったことで、友達を「〇〇さんのせりふが上手」と評価でき、褒められた児童もとてもうれしそうだった。

### ③指導助言から

- ・本時のめあてが文字とイラストで分かりやすく提示されており、工夫されていた。文字やイラストの提示で理解が難しい児童には、個別の支援や繰り返しの経験が大切である。
- ・「注目ポイント」は、「どこを見ればよいか」を焦点化し、また文字とイラストで視覚化されており良かった。グループの発表が終わるごとに、自分や友達が評価したり、T1が評価したりする場面があったが、それが即時評価に当たる。児童の実態から考えると最後の全体の振り返りは必要だったか。また大小の花丸で評価していたが、小さい花丸をもらった児童たちがプラスの気持ちで学習を終われるように、活動の過程を褒めてあげるといった視点もあるとよい。

#### <学部授業研究会における学部研究テーマと関連するキーワード>

「児童にとって分かりやすい本時のゴールの提示」  
「学びの価値付け」

## 5 まとめ

### (1) 今年度の成果

#### ①本時のゴールを明確にした「少し頑張ればできる活動」の設定

児童の思いや願い、興味・関心と教師が育てたいと考える力をすり合わせて指導内容を検討した。そして児童の詳細な実態把握を基に、その中で児童の「できること、できつつあること、まだ難しいこと」や、できるための支援や児童にとっての「できる環境」を明らかにし、「少し頑張ればできる活動」を設定した。興味・関心が反映され、児童に応じた難易度が設定された学習活動により、児童の意欲が喚起され活動への期待感が高まった。また、本時のめあてや活動について動画や写真、イラストを活用したことで、児童にとって「今日頑張ること（ゴール）」を分かりやすく提示でき、主体的な行動に結びついた。

#### ②児童の学びの価値付け

2年生の遊びではコーナーで遊ぶことでシールやパズルのピースを獲得できたり、3年生の生単では発表後すぐにT1が児童の様子を具体的に称賛したりと、教師による即時評価が児童の意欲喚起に有効だった。2年生では、シールが増えたりパズルが出来上がったりして児童の頑張りが積み重ねられていく様子を視覚的に示したことで、児童が達成感を味わい自分から教師に獲得したシールを見せに行く姿が見られた。また3年生の発表活動では、「頑張りポイント」として注目するポイントを示したことで、児童が自分が頑張ることを理解できただけでなく、友達を具体的に評価することができた。称賛された児童の意欲喚起や次時への期待感につながった。小さな声で話していた児童が自信をもち、大きな声でせりふを話そうとするようになるなどの変容が見られた。

### (2) 次年度に向けて

#### ①児童が学びを実感できる工夫

今年度の研究では、児童が学びを実感できる機会として学習の「まとめ」「振り返り」の活動に注目し、工夫してきた。しかし児童が達成感を得て活動を終えるためには、活動の結果の出来だけではなく、活動の過程（活動に取り組む姿）を教師が認めることも大切だと分かった。児童の頑張りを教師が認めることで、「次はもっと頑張る」という意欲や次時への期待感につながると考える。

#### ②本時のゴールの提示と評価のポイントの共有

教師からの評価や自己評価だけでなく、友達からの評価という「仲間からの価値付け」により、児童が学びの実感を高める姿が見られた。次年度は「本時のゴール」と、それを評価する具体的なポイント（評価規準）を教師と児童で共有できるようにしていく。

#### ③友達との関わりを通した学びの工夫

「友達と一緒にミッションを達成できた」、「自分の頑張りを友達に認めてもらえた」という経験が、活動への満足感や達成感、次時への期待感につながる姿が見られたことから、活動内容やグルーピング、ペアリング等学習方法を工夫し、友達との関わりを通した学びが実現できるようにしていく。

## 小学部2年 遊びの指導 学習指導案

日 時：令和7年9月26日（金）10：40～11：25  
場 所：小学部2年3組、小体育館  
児 童：男子13名、女子6名、計19名  
指導者：藤原真美（T1） 石川 瞳（T2）  
伊藤和美（T3） 齋藤美奈子（T4）  
首藤真理（T5） 佐々木里恵子（T6）  
久慈由起子（T7） 野内枝里子（T8）  
大山万里子（T9）

### 1 題材名

わくわくすいぞくかん

### 2 児童と題材

#### （1）児童について

本学年は、男子13名、女子6名の計19名である。表情や発声、身振り、自分なりの発語で自分の思いを表す児童や、友達や教師と言葉でやり取りを楽しむ児童と実態は様々である。他者との関わりにおいては、友達や教師と自ら関わる児童、教師の働き掛けを受け入れて関わりを楽しむ児童と多様であるが、どの児童も友達に関心をもち、自分から近寄り顔をのぞき込んだり、行動をまねたり、名前を呼んだりして関わる場面が見られる。また、初めての活動や場所、集団に戸惑いや不安を感じ、参加が難しくなったり、気持ちが不安定になったりする児童がいる。写真や動画などの視覚情報を活用し、事前に活動場所や内容を確認したり、スモールステップの目標を設定して繰り返し称賛したりしていくことで、落ち着いた気持ちで活動に参加できるようになってきた。

多くの児童は体育館や公園でダイナミックに体を動かして遊ぶことを好むが、素材の感触をじっくりと楽しむ児童もいる。これまでの遊びでは、紙・段ボール遊び、遊具の自由遊び、コーナー遊び等を経験し繰り返し遊ぶ中で自分の好きな遊びを見付け、自分から遊び場に向かうようになってきたり、簡単なルールを守ったりして遊ぶ場面が見られるようになってきた。また、友達と乗り物と一緒に乗ったり、キャスターカーのロープを一緒に引っ張ったりと遊具を介して関わりながら遊ぶ姿も見られるようになってきた。さらに、遊びを積み重ねることで自分の好きなコーナーだけで完結せず遊びの経験を広げたり、友達を自分から誘って遊んだりする姿を目指したい。

#### （2）題材設定理由

前題材の「わくわくどうぶつえん」では、大森山動物園での校外学習の経験を生かして、動物の餌を制作したり、動物の動きや特徴を取り入れたコーナーで遊んだりした。体験的な活動から制作活動やコーナー遊びに展開したことで、どの児童もイメージを膨らませながら遊ぶことができた。また、コーナー遊びには児童の好きな遊び方や素材等を取り入れたことで、自分の好きなコーナーに向かいじっくりと遊ぶ姿が見られた。

本題材では、水族館をテーマに遊びを展開し、前題材で経験した遊びやダイナミックに体を動かす遊びを取り入れることで、初めてのことが苦手な児童も安心して遊べると考える。水族館で見聞きした海の生き物の色や形などを制作活動に生かしたり、前題材同様に生き物の動きや特徴をコーナー遊びに反映したりすることができる。制作活動では児童の実態に応じてグルーピングや活動、材料を準備することで、コーナー遊びに期待感をもち、制作したり自分で考えて選択、実行したりする姿を引き出したい。また、コーナー遊びの遊具の数や配置を工夫したり、難易度の異なる遊びを取り入れたりとすることで、自分から遊び場に向かう姿や、遊び場を変えて遊ぶ姿を期待する。さらに、遊びの展開の中に、友達と二人以上で遊ぶコーナーや、悪者（ワニやサメなど）が登場しみんなで倒す活動など意図的に関わり合う場面を設定することで、活動への意欲の高まりや、友達に声を掛けながら活動したり友達と力を合わせたりする姿も期待し、本題材を設定した。

(3) 指導について(下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て)

【児童一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり】

- ・見通しをもち安心して学習に参加できるように、学習の流れを固定する。また、本時の活動が分かるように、導入において活動内容を動画で提示する。
- ・児童が存分に遊ぶことができるように、T1やT2も一緒に遊び、児童が遊びを広げる手掛かりを示す。また、達成感をもち意欲を高められるよう、夢中になって遊ぶ児童を称賛したり、周囲の児童に楽しんでいる様子や遊び方を紹介したりする。
- ・児童が考えたり工夫したりして遊べるように、各コーナーの近くに踏み台やミニトランポリンなど、児童が自由に使える様々な道具を用意する。
- ・児童が意欲を高めたり満足感を味わったりしながら遊べるように、難易度の異なる遊びをミッションとして提示する。
- ・安全面を最優先にし、児童の興味・関心が高い遊びのコーナー、様々な素材を取り入れたコーナー、活発な身体活動を目指したコーナーを設置し、前時の様子に応じて内容や遊具の数、配置を決める。

【自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫】

- ・制作活動では、グループで活動を行い、実態に応じた活動や材料を準備する。
- ・全員が共通の目的に向かっていて一体感や活動に気持ちを高めるために、ダンスをしたり、衣装を身に付けたりする。
- ・二人乗りの乗り物や二人で力を合わせないと釣れない魚など、児童同士や児童と教師が、必然的にやり取りしたり、複数人で力を合わせて遊んだりするコーナーや遊具を設ける。
- ・毎時間、全員で力を合わせる活動を取り入れ、互いに意識し合ったり、声を掛け合ったりする場面や関わり合う場面を設定する。

【多様な場や人材の活用】

- ・男鹿水族館で実際に見聞きしたり体験したりしたことを遊びに結び付け、児童のイメージを膨らませる。

3 題材目標 知: 知識及び技能 思: 思考力・判断力・表現力等 学: 学びに向かう力・人間性等

- (1) 海の生き物に関するコーナーや遊具の遊び方が分かり、好きなコーナーで遊ぶ。知
- (2) 好きな素材や道具を選んだり、どうやって作るかを考えたりして、海の生き物や魚釣りに必要な遊具を制作する。思
- (3) 誘い掛けを受けたり、物の貸し借りなどのやり取りをしたりして、教師や友達と関わりながら遊ぶ。学

4 題材計画 (総時間数 35 時間／本時 24・25 時 体育館遊びの 3 回目)

小単元名と活動内容	主なねらい ( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> )	時数	学習活動	単元で扱う各教科等
校外学習に行こう ・オリエンテーション ・シールラリー ・事前、事後学習	・水族館にいる生き物に興味をもち、様々な生き物がいることを知る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> ・「友達と一緒に」の約束が分かり、シールラリーをしたり、校外学習に行ったりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span>	9	・校外学習の活動や持ち物等について知る。 ・学級の友達と一緒に水族館で水辺の生き物を見る。 ・楽しかったことについて、教師と話をしたり、みんなに発表したりする。	生活科 国語科
みんなで作ろう ・背景の色塗り ・海の生き物作り ・魚釣りの道具作り	・好きな素材や道具を選んだり、テーマに合わせて工夫したりして制作遊びをする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span>	14	・海や生き物をイメージして、大きな布や紙に色を塗る。 ・好きな素材や得意な方法を生かし、海の生き物を作る。 ・コーナーに必要な遊具に気付き作り方を考えて作る。	生活科 図画工作科

<p>みんなで遊ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーナー遊び</li> <li>・海の生き物集め</li> <li>・ミッションクリア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーナーの遊び方が分かり、時間いっぱい遊ぶ。<b>知</b></li> <li>・やり方が分かり、教師や友達と力を合わせ海の生き物を集めたり、悪者を倒したりする。<b>知 学</b></li> <li>・ミッションに自分から挑戦したり、友達の誘いを受けて取り組んだりして遊ぶ。<b>思 学</b></li> </ul>	<p>12 (本時 / 5・6 時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水族館の生き物に関するコーナーで遊ぶ。</li> <li>・コーナーで遊んでもらった海の生き物を巨大水槽に入れる。</li> <li>・教師や友達と力を合わせて「二人で大きな魚を釣る」などのミッションをクリアする。</li> <li>・ミッションをクリアしてもらったピースを合わせて、パズルを完成させる。</li> <li>・ボールを投げて悪者（ワニ・サメ）を倒す。</li> </ul>	<p>生活科 体育科 国語科 算数科</p>
---	---	------------------------------------	--	------------------------------------

※「みんなで作ろう」と「みんなで遊ぼう」は、同時に進行していく。

### 5 児童の実態と目指す姿（太枠部分は対象児童）

氏名・性別	実 態	単元を通して目指す姿
A (男)	乗り物が好きで、ミニカーや新幹線の玩具を並べたり、走らせたりして遊ぶ。動物カーに友達と乗って遊んだ。	ミッションの意味を理解したり、好きなコーナーを見付けたりして教師や友達と一緒に遊ぶ。
B (男)	紙や紐、すずらんテープなどの特定の素材をうちわで扇いで遊ぶことを好む。動物カーを気に入り、友達と一緒に乗ることを楽しんだ。	教師の誘いを受け入れて、友達と一緒に様々なコーナーで遊ぶ。
C (男)	三輪車に乗るなど、体を動かす遊びを好む。動物カーを気に入り、乗ったり、手で押したりして時間いっぱい遊んだ。教師の誘いを受け入れて、他のコーナーで遊ぶ姿もあった。	遊び方が分かり、友達や教師とやり取りして様々なコーナーで遊ぶ。
D (女)	ダンスや風船、うさぎが好き。かわいい物を身に着きたい。制作コーナーで教師と一緒にうさぎのお面を作ったり、草原コーナーでうさぎになりきったりして遊んだ。	教師の誘いを受け入れて、友達や教師と一緒に好きなコーナーで時間いっぱい遊ぶ。
E (男)	追い掛けてくる友達から逃げて遊ぶなど、走り回って遊ぶ。前題材では川コーナーで走ったり、乗り物に乗ったりして友達と遊び場や遊具を共有して時間いっぱい遊んだ。	好きなコーナーで教師や友達とやり取りしながら遊んだり、教師の働き掛けを受けて友達とミッションに取り組んだりする。
F (男)	友達の遊ぶ様子を見ることを好む。教師の誘いを受け入れて、いろいろなコーナーで遊んだ。動物カーに乗って足で床を蹴って前に進めるようになった。	好きなコーナーを選び、教師や友達と一緒に一定時間同じ場所で遊ぶ。
G (女)	好きなアニメなどを思い浮かべて、独り言を言ったり、歌ったりしながら歩き回ることが好き。場に慣れてくると芝生の休み場所や風船クッションで自分から遊んだ。	教師の誘い掛けを受けながら、様々なコーナーで時間いっぱい遊ぶ。
H (男)	休み時間は鬼ごっこなどで友達と遊ぶ。自分なりのやり方を考えながらコーナー遊びをするようになってき	友達と言葉でやり取りしながら、協力して魚を釣ったり、ミッションをクリアしたりする。

	た。風船クッションを大きく揺らし友達が喜ぶ様子を楽しんでいた。	
I (男)	振ると音が鳴る玩具や、網戸などのざらざらとした感触の物が好き。遊びたい物に自分から触れる場面が増えてきた。人工芝を手でなでたり、動物カーを足でこいだりして遊んだ。	自分から好きなコーナーに向かって遊んだり、教師の誘い掛けに応じて様々な遊びを経験したりする。
J (男)	ダンスや歌が好き。教師や友達の様子を見て、まねをしながら遊ぶことが多い。キャスターボードのロープを引っ張り、自分で動かして遊んだ。	教師の働き掛けを受けて、友達や教師と様々なコーナーで一緒に遊ぶ。
K (女)	好きなカードやおままごとなどの玩具を並べることを楽しむ。動物が好きで「きりんさん」など名前を呼びながら何度も動物カーに乗って遊んだ。	好きなコーナーを見付け、教師や友達からの働き掛けを受け入れながら遊ぶ。
L (女)	お絵描きをしたり、ボールなど好きな物を集めたりして遊ぶ。気に入ったコーナー(動物カー)でじっくりと遊んだが、前題材の後半は他のコーナーでも遊べるようになった。	教師の働き掛けを受け入れ、様々なコーナーでの遊びを経験する。
M (男)	パンダが好きで毎日パンダの本を見る。ザリガニや小魚が動く様子を教師にも手招きをして教えてくれる。動物カーが気に入り何度も遊んだ。慣れると、一人でいろいろなコーナーを回って遊んだ。	友達の様子を見て遊び方を知り、好きなコーナーを見付けて繰り返し遊ぶ。
N (男)	制作活動を好み、自分なりに工夫しながら取り組む。コーナー遊びでは、特定の友達の後を追うようにして遊び場を回るが、教師の誘いを受け入れて、キャスターカーに一人で乗って遊んだ。	ミッションをクリアする楽しさを感じ、一人でコーナーに向かったり、友達や教師を誘ったりして遊ぶ。
O (女)	制作活動を好み、はさみやのりなどの道具を使い、工夫して制作する。鬼ごっこやボール遊びなど体を動かすことも好む。様々なコーナーに向かい遊んだり、友達とキャスターカーに乗ったりして遊んだ。	友達や教師とやり取りをしながら遊んだり、力を合わせてミッションをクリアしたりして一緒に遊ぶ。
P (男)	恐竜や生き物を好み、一人で絵を描いて楽しむ。好きなコーナーで一人で遊ぶことが多く、動物の制作コーナーを気に入り何度も遊んだ。	好きなコーナーを見付けて、教師の働き掛けを受けながら友達と一緒に遊ぶ。
Q (男)	玩具や絵カードで床や机を叩き、音や感触を楽しんでいる。教師の誘いに応じ、様々なコーナーに取り組めるようになってきた。キャスターカーに乗り、教師と一緒にロープを引っ張って遊んだ。	教師の誘いに応じて、いろいろなコーナーで教師と一緒に遊ぶ。
R (女)	自分の好きな遊び場に向かい一人で遊ぶことが多いが、友達の遊んでいる様子を見てコーナーを変えて遊ぶ様子が見られる。友達と一緒に動物カーやキャスターカーに乗って遊んだ。順番を守り、並んで待つことができ	コーナーを変えて遊んだり、友達と力を合わせてミッションをクリアしたりして一緒に遊ぶ。

	た。	
S (男)	感触遊びやキャスターカーが好きで、自分で近付いたり指さしたりして遊びたい物を選ぶ。自分から好きな動物カーのコーナーに向かい、何度も乗り物に乗って遊んだ。	自分から好きなコーナーに向かい、自分から遊具に手を伸ばして触れたり遊んだりする。

## 6 本時の計画 (35 時中の 24・25 時 体育館遊びの 3 回目)

### (1) 本時のねらい

- ①自分の好きなコーナーを選んだり、教師の誘いを受けたりして、時間いっぱい遊ぶ。知
- ②教師や友達と一緒に、ミッションをクリアしたり、悪者をやっつけたりする。思 学

### (2) 個別のねらい (太枠部分は対象児童)

氏名・性別	ねらい	手立て
A (男)	・好きなコーナーで時間いっぱい遊ぶ。	・自分なりに工夫して遊べるように自由に使える踏み台や積み木などの道具を準備する。
B (男)	・教師の誘いを受け入れて、魚釣りやワニ退治をして遊ぶ。	・様々な遊びに興味をもつことができるように、気に入った遊びが落ち着いた頃合いを見計らって、他の遊びに誘う。
C (男)	・友達や教師と一緒に、魚を釣って遊ぶ。	・「〇〇いるね」「一緒に釣ってみよう」などの言葉掛けで魚釣りに誘う。
D (女)	・好きなコーナーで、時間いっぱい遊ぶ。	・「風船楽しいね」と言葉を掛けたり、「〇〇も楽しそうだね」と誘ったりする。
E (男)	・順番を待ってしろくまカーに乗って遊ぶ。	・待つ場所が視覚的に分かるように、丸マットや足跡マークなどを置く。
F (男)	・2、3個の選択肢の中から遊びたいコーナーを選んで遊ぶ。	・各コーナーを表すイラストを提示し、児童が遊びたいコーナーを選択できるようにする。また、選択したコーナーで実際に一緒に遊ぶ。
G (女)	・教師の働き掛けを受けて様々なコーナーで遊ぶ。	・コーナーの近くにきたタイミングで誘い掛けたり、落ち着いて遊べるよう比較的空いているコーナーに誘ったりする。
H (男)	・友達に自分の考えを伝えながらミッションに挑戦する。	・自信をもって自分の考えを伝えられるように、本児の発言に対して「それ、いいね」などと言言葉を掛けて称賛する。
I (男)	・教師と一緒にしろくまの乗り物に乗って遊ぶ。	・抵抗感を軽減できるように、好きなコーナーに向かう前に誘い掛ける。
J (男)	・教師の働き掛けを受けて、一緒に魚釣りをして遊ぶ。	・他の児童が魚釣りをしている場面を「楽しそうだね」等と紹介しながら遊びに誘う。
K (女)	・教師や友達と一緒にしろくまカーに乗って遊ぶ。	・「乗せて」と話し掛けたり、友達が誘い掛けている場面をとらえて仲介したりする。
L (女)	・遊びたいコーナーを見付け、時間いっぱい遊ぶ。	・「しろくまの車だね」などと本児に分かりやすい言葉でコーナーを紹介する。
M (男)	・魚釣りコーナーに自分で向かい、魚釣りをして遊ぶ。	・魚釣りの楽しさややり方が分かるように、動画を見せたり、教師が演示したりする。
N (男)	・自分からミッションに向かって、教師や友達と遊ぶ。	・教師が演示したり、始めは一緒にミッションに誘ったりする。 ・二人以上で遊ぶものや難易度のあるミッションを用意する。

○ (女)	・教師や友達を誘って一緒に魚釣りや乗り物で遊ぶ。	・ミッションの進め方が分かるように、教師が演示しながら一緒に遊ぶ。 ・二人以上で遊ぶミッションを用意する。
P (男)	・教師の誘いに応じて、友達と一緒に魚釣りをして遊ぶ。	・「一緒にやろう」「○○さんを手伝って」などの言葉掛けて魚釣りに誘う。
Q (男)	・ペンギンコーナーの芝生やスポンジを触ったり、踏んだりして遊ぶ。	・教師が触ったり踏んだりして遊び方を見せ、「触ろう」と言葉を掛けながら、一緒に触って遊ぶ。
R (女)	・「○○さん、一緒に魚を釣ろう」と友達を誘って、遊ぶ。	・二人で魚を釣るミッションを用意する。 ・誘い方を演示したり、話し方を一緒に練習したりする。
S (男)	・ペンギンコーナーで芝生や卵パックなどの素材を触る。	・各コーナーが分かるように始めに回る。 ・遊び方が分かるように、「やってみよう」と言葉を掛け、手を添えて一緒に行く。

### (3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 ※下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て
(10)	<p>1 わくわくすいぞくかんTシャツを着て、ダンスをする。</p> <p>2 本時の活動を知る。 (1) 動画を見る。 (2) 小体育館に移動する。</p> <p>導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの始まりが分かり期待感を高められるよう、おそろいの衣装を着て集まり、「おさかな天国」を一緒に踊る。</li> <li>・楽しい雰囲気を作るために、T1も衣装を着たり、ダンスを元気に踊ったりする。</li> <li>・<u>前時を思い出すことができるよう、前時の遊びの様子を映像で提示し、「何をして遊んでいる様子か」「海の生き物の名前は何か」などを児童に問い掛けながら進める。</u></li> <li>・<u>「何で遊ぶか」「どうやって遊ぶか」を考えるきっかけが作られるように、本時の遊びの新しいコーナーを映像で提示し紹介する。</u></li> <li>・<u>「みんなで仲良く遊ぶ」「ミッションをクリアする」「力を合わせて悪者をやっつける」という目的を意識付けるために、Tシャツに生き物シールがもらえることを予告する。</u></li> </ul> <p>めあて：すきなコーナーをみつけてあそぼう。 せんせいやともだちとちからをあわせて、いっしょにあそぼう。</p>
(30)	<p>3 わくわくすいぞくかんで遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り物コーナー</li> <li>・ペンギンコーナー</li> <li>・魚釣りコーナー</li> <li>・魚トンネルコーナー</li> <li>・イルカ風船コーナー</li> <li>・アザラシコーナー</li> <li>・タコさんコーナー</li> </ul> <p>※ミッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と二人で魚を釣る</li> <li>・乗り物に友達と二</li> </ul> <p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び方のモデルになるよう、T1は一緒に遊びながら遊具の使い方やミッションのやり方を演示する。</li> <li>・児童がミッションに期待感をもって取り組めるようにT2は「わくわく博士」になって、ミッションの説明をしたり、パズルのピースを渡したりする。</li> <li>・<u>児童が発想を生かし、イメージした遊びを展開させられるように、様子を見守ったり、必要に応じてヒントを出したりする。</u></li> <li>・<u>友達や教師と関わりながら遊べるように、T1は全体を見て遊んでいる様子やミッションの進捗状況を伝える。また、T3～T9は「○○で遊んでみよう」と誘ったり、児童の遊び方を発展させたり気持ちを代弁したりしながら遊びを広げる。</u></li> <li>・児童が安全に遊べるよう、T3は乗り物コーナー、T4は魚釣りコーナー、T5はイルカ風船コーナー付近にいて、順番を守る約束を話したり、遊具の状態を確認したりする。</li> </ul>

		人で乗る ・イルカ風船をジャンプして1個取る ・みんなでワニをやっつける 4 悪者（ワニ）をやっつける。 ・みんなでワニにボールを投げる。	・悪者（ワニ）をやっつけることへの期待感を高められるように、場面転換の音楽を流す。 ・ <u>友達や教師を意識して遊ぶことができるよう、みんなで協力して悪者（ワニ）を倒す活動を取り入れ、T1は児童と一緒にボールを投げる。T2～T9は、適宜誘い掛けたり、児童と一緒にボールを投げたりする。</u> ・みんなで悪者（ワニ）をこらしめた達成感をもてるよう、「わくわく博士」からパズルのピースをもらい、パズル（ちんあなご）を完成させ、みんなで「やったー」と万歳する。
(5)	まとめ	5 わくわくすいぞくかん生き物シールをもらう。	・ <u>いろいろなコーナーでたくさん遊んだことや悪者をやっつけたこと、パズルが完成したことに達成感を味わい、次時への期待感をもてるよう、Tシャツに生き物シールを貼り、拍手やハイタッチ等で称賛する。</u> ・余韻を感じながら教室に戻れるように、児童と一緒にトンネルをくぐる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>まとめ：〇〇コーナーであそんだね。            せんせいやともだちといっしょに、〇〇コーナーで□□をしてあそんだね。</p> </div>			

#### (4) 評価

##### <児童の評価>

- ・自分から進んで好きなコーナーを選んだり、教師の誘いを受け様々なコーナーで遊んだりして、時間いっぱい遊んだか。
- ・自分から、または教師や友達と一緒に、ミッションをクリアしようとしたり、悪者（ワニ）に向かってボールを投げたりしていたか。

##### <教師の手立ての評価>

- ・児童が時間いっぱい遊ぶための遊具の配置や種類、教師の働き掛けは適切であったか。
- ・児童が自ら遊び場に向かったり、教師や友達と一緒に遊んだりするための遊びの工夫や展開の仕方は適切であったか。

(5) 配置図

【小体育館】(○ねらい・手立て)

**乗り物コーナー**

- 友達と交代しながら、乗り物で遊ぶ。
- ・順番に並んで待つことが分かるよう、丸マットを準備したり、並んでいる友達の様子を伝えたりする。
- 友達や教師と一緒に乗り物に乗ったり関わったりして遊ぶ。
- ・二人以上で乗る大きさの乗り物を準備したり、乗り物を押したり引っ張ったりできるようにロープを付けたりする。
- ・個々に応じて難易度を変えられるように、自由に周るコースと傾斜のあるコースを作る。

**アザラシコーナー**

- 座ったり横になったりして、自分の好きな姿勢でリラックスする。
- ・様々な姿勢でリラックスできるように、スペースを広くし、気に入っている児童が多い風船ベッドを準備する。
- 友達の遊んでいる様子を見る。
- ・友達の様子を伝えたり、友達に向かって一緒に手を振ったりする。

**魚釣りコーナー**

- 道具を使って、魚をすくったり釣ったりする。
- ・個々に応じて難易度を変えられるよう、数種類の道具を準備する。
- 友達や教師と一緒に魚を釣る。
- ・友達や教師と一緒に魚釣りができるよう、協力しないと釣れない大きさの魚を準備したり、教師が釣り方を演示したりする。

**魚滑り台コーナー**

- トンネルやスロープの長さや配置を工夫して遊ぶ。
- ・工夫して遊べるように、長さや太さの違うトンネルを準備する。
- ・教師は遊び方を演示したり、「○○さん、トンネルを長くしよう」などと言葉を掛けたりしながら一緒に遊ぶ。

**ペンギンコーナー**

- 自由に歩いたり、走ったりして遊ぶ。
- ・教師が動きを見せながら、一緒に遊ぶ。
- スポンジや卵パック、芝生などの素材を触ったり踏んだりして感触を楽しむ。
- ・感触遊びの好きな児童の自発的な遊びを引き出すために、教師と一緒に遊び、遊び方を示したり、児童の動きをまねて新たな遊びをして見せたりする。

**パズル**

**ミッション**

**水槽**

**イルカ風船ボード**

**チンアナゴのおうち**

**入口**

**タコさんコーナー**

- タコの足の感触を楽しみながら、触ったり乗ったりして遊ぶ。
- ・足の部分に、児童が好きな気泡緩衝材や卵パック、消臭ビーズなどを貼り付ける。
- ・脚の上に座ったり、横になったりできるような大きさの物を準備する。

**イルカ風船コーナー**

- 風船やスズランテープを触ったり、イルカ風船やチンアナゴ風船を跳ねて取ったりする。
- ・そのまま触ったり、ジャンプして触ったりできるように、風船の位置に高低差を付ける。
- ・風船を飛び跳ねて取れるよう、ミニトランポリンを用意する。

## 小学部3年 生活単元学習 学習指導案

日 時：令和7年11月28日（金）10：40～11：25

場 所：小学部会議室、小学部3年1・2組

児童：男子11名、女子4名、計15名

指導者：田口 智子（T1）、照井真理子（T2）

堀田 聡弥（T3）、藤原 淳一（T4）

大塚亜紀子（T5）、京屋 庸子（T6）

佐藤 聖子（T7）

### 1 単元名 さんさんしあたーⅡ ～ぞうくんのさんぽ～

### 2 児童生徒と単元

#### （1）児童生徒について

本学年の生活単元学習は、3学級合同で行っている。コミュニケーション面に関しては、自分から会話を楽しめる児童や、発声や身振りで要求や気持ちを表現する児童など実態は様々である。ほとんどの児童が、言葉による指示や文字、イラスト、具体物などを手掛かりに自分のやる事が分かって取り組むことができる。繰り返しのある活動であれば楽しむ児童がいる一方で、初めての学習には見通しがもてず、消極的になったり不安になったりする児童もいる。動画やペープサートなどの視覚的教材を効果的に活用することで、活動に興味をもち、落ち着いて参加できるようになってきた。また、学習活動の中に発表場面を設定することで、自分で、または友達と一緒に挑戦しようとする気持ちももてるようになってきた。

#### （2）単元設定理由

本学年では、年間を通して絵本を題材にした劇遊びとその発表活動に取り組んでいる。絵本の読み聞かせと関連させた劇遊びでは、言葉や動作など様々な表現方法を知り、日常生活場面でも生かすことができると考える。これまでの劇遊びでは、繰り返し出てくる言葉や登場人物や生き物の動作を模倣するなど、お話の楽しさを感じている様子が見られた。前単元では、「はらぺこあおむし」の絵本を元に、ICT機器の活用やせりふを身振りに置き換えるなど、実態に応じて発表の仕方を工夫することで、個々の役割を果たし、一つの劇を作りあげることができた。

本単元で取りあげる「ぞうくんのさんぽ」は、児童が餌やり体験で親しんだ象の登場から始まり、次々に出会う動物たちと大好きなバスに乗って出かけ、最後に池に落ちるといように物語が進む。動物が一匹ずつ増えていき、最後は全員が池に落ちて終わる展開は、児童にとって話の内容を理解しやすい。登場人物のせりふを模倣して、友達との言葉の掛け合いをする場面を設定することで、児童同士が言葉や身振りでやりとりすることが期待できる。児童の実態に応じた役割を友達同士楽しく関わりながら果たすことで、児童は満足感や達成感を感じ、自信をもって自分の役割を務めたり、新しい活動に興味をもって取り組んだりする姿が期待できると考える。単元の最後には、劇の動画を撮影し、それを見たり浜田小学校の友達から感想をもらったりする機会を設定することで、友達と協力して劇を作り上げる喜びや一体感を感じられるようにしたい。次の単元ではPTA授業参観で発表会を開く活動を予定している。本単元で自分の役割を果たす経験を積むことで、自信を深め、新しい役割にも積極的に取り組み、友達と協力して発表会を作り上げる姿を期待している。

#### （3）指導について（下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て）

##### 【児童生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり】

- ・単元の始まりでは、児童がストーリーを覚え、登場人物のせりふや動きに注目できるように、ペープサートやせりふカードを一つずつ提示し、動かしたりせりふを話したりする場面を設定する。
- ・自分のせりふや動作を覚え、登場人物になりきることができるよう、端的で繰り返しのある言葉、分かりやすい動線、親しみやすい動物の鳴き声などで表現する場面を設定する。
- ・みんなの前で言葉を発することに自信がなかったり、難しかったりする児童には、簡潔な言葉や身体表現でやりとりをする場面や、友達と一緒にやることでできる場面を設定する。
- ・達成感を味わうことができるように、友達とせりふや身振りでやりとりをすることでお話を進め、一緒にバスに乗って掛け声と共に移動するなど、楽しい気持ちを感じながら活動する場面を設定する。

### 【自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫】

- ・児童が自分から活動できるように、教師は必要な場面でタイミング良く次の行動を想起できるような言葉を掛けたり、演じる役で使う具体物を提示したりする。
- ・相手の動きを意識したり、児童同士で直接やりとりをする楽しさを味わったりすることができるように、始めは小グループでの練習を積み重ね、次第に全員で劇を展開する単元の設定をする。
- ・友達と一緒に体を動かしながらストーリーに沿った状況の変化を模擬体験し、一体感を高めることができるように、友達とバスに乗って移動したり、大きな池に入ったりしてダイナミックに動きながら十分に活動できる場面を設定する。
- ・単元の後半では、使う道具や衣装の準備や片付けをできる範囲で児童が行うことができるように、収納する場所や、準備と片付けの合図や時刻を分かりやすく提示する。
- ・衣装や大道具、小道具など、自分たちで作ったものや好きなものを使って演じる楽しさを実感できるように、段ボール素材に色を塗ってバスや池を作る、動物の表情や色を考えてお面を描く、衣装にパーツを貼るなど制作活動を設定する。また、児童の好きな素材の感触や音などの感覚を楽しみながら活動する場面を設定する。
- ・自分の役割を果たし最後までやり通すことができるように、友達の良さを称賛したり、アドバイスを具体的に伝えたりして、互いに認め合い高め合う場面を設定する。

### 【多様な場や人材の活用】

- ・大森山動物園で行った象の餌作り、餌やり体験と関連させることで、活動への興味を高める。
- ・浜田小学校の友達に象が登場する劇を発表することを単元の目標にし、発表活動への期待感を高める。

### 3 単元目標 知: 知識及び技能 思: 思考力・判断力・表現力等 学: 学びに向かう力・人間性等

- (1) 劇の展開や友達の動きに合わせて、せりふを話したり動作で表したりする。思
- (2) 様々な素材や道具を使い、大道具や衣装を制作する。知
- (3) 友達と一緒に行動したり、準備や片付けをしたりして協力しながら活動する。学

### 4 単元計画 (総時間数 40 時間 / 本時 17 時)

小単元名と活動内容	主なねらい ( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> )	時数	学習活動	関連する教科等
お話を読もう ・読み聞かせ	・登場する動物や展開の順番が分かる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span>	2	・ペーパーサートを使った絵本の読み聞かせやストーリーに合わせて演じることで、お話のあらすじを覚える。	生活科 国語科 音楽科
道具を作ろう ・衣装作り (動物) ・大道具作り (池)	・衣装や大道具を作り、自分が演じる役や使う物が分かる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> ・友達と協力して作ったり片付けたりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>	6	・動物の体の一部分やバスの装飾を描いたり、貼ったりして衣装や大道具を作る。	生活科 国語科 図画工作科
お知らせしよう	・浜田小学校の友達に劇を見せることに期待感をもつ。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>	2	・浜田小学校の友達に手紙を書く。	生活科 国語科 図画工作科
「ぞうくんのさんぽ」を発表しよう ・劇の練習 ・発表 (動画撮影)	・自分の役動きを覚え、せりふや動作で演じる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> ・友達と一緒に行動したり、準備や片付けをしたりして協力しながら活動する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>	17・18 /28 時	・グループ毎、全体の発表練習をし、自分の役動きを覚える。 ・友達と一緒に動いたり、模倣したりして演じる。 ・せりふを周囲の人に伝えるように話す。	生活科 国語科
振り返ろう	・動画を見たり、友達の感想を聞いたりして、自分のがさんぽりや、友達の良かった場面が分かる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>	2	・浜田小学校の友達からの感想文を読んだり、自分の感想を発表したりする。	生活科 国語科

5 児童生徒の実態と目指す姿（対象児童生徒がいる場合は太枠で囲む）

氏名・性別	実 態	単元を通して目指す姿 (自ら学び続ける子どもにつながる姿)
A (男)	自分の出番では、合図をきっかけに、せりふに合わせて手をたたいて伝えようとするようになってきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の動きを覚え、合図を聞いて動いたり、手をたたいて伝えようとしたりする。</li> <li>友達の誘いを受けて、後片付けをする。</li> </ul>
B (男)	自分の出番では、ごく簡単な流れが分かり、せりふに合わせて身振りで伝えようとするようになってきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の動きを覚え、せりふに合わせて身振りで伝える。</li> <li>友達の誘いを受けて、後片付けをする。</li> </ul>
C (男)	参観者に見られることで緊張するが、おおまかな流れが分かり、せりふを覚えて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の動きを考えたり、聞こえる声の大きさをせりふを話したりする。</li> <li>友達を誘って、後片付けをする。</li> </ul>
D (女)	参観者に見られることで緊張するが、おおまかな流れが分かり、せりふを覚えて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の動きを工夫したり、正しくせりふを話したりする。</li> <li>友達を誘って、後片付けをする。</li> </ul>
E (女)	おおまかな流れが分かり、声は小さいが、せりふを覚えて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の動きを工夫したり、聞こえる声でせりふを話したりする。</li> <li>友達の誘いを受けて後片付けをする。</li> </ul>
F (男)	食べ物が出てくる場面では、食べ物の名前を自分から話すことがある。教師の言葉掛けをきっかけに、果物を食べる動作やお腹をタッチする動作をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割が分かり、友達や教師と一緒に音楽に合わせてジャンプしたり、体を動かしたりする。</li> </ul>
G (男)	教師の手本を見ながら果物を食べる動作やお腹をタッチする行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>お話遊びの流れに見通しをもち、教師の手本を見ながら簡単な動作をする。</li> </ul>
H (男)	教師の手本を見ながら、言葉掛けに合わせて果物を食べる動作を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>お話遊びの流れに見通しをもち、教師と一緒に簡単な動作をする。</li> </ul>
I (男)	平仮名で書かれた簡単な文を音読する。自分の役割を覚え、果物を食べる動作をしたりせりふを話したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から友達に声を掛けて、一緒に道具の準備や片付けをする。</li> <li>動物になりきってせりふを話したり、ポーズをとったりする。</li> </ul>
J (男)	大きな声でせりふを話したり、歌を歌ったりする。果物を食べる動作やお腹をタッチする動作を一人で行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりと大きな声でせりふを話したり、動物になりきってポーズをとったりする。</li> </ul>
K (女)	ペープサートを動かしたり、お話の動画に注目したりする。簡単なせりふを話し、歌詞を覚えて歌う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に大まかな見通しをもち、お話の流れに沿って簡単なせりふを言ったり、動作をしたりする。</li> </ul>
L (男)	大まかなあらすじが分かり、せりふや歌を覚えて発表できる。友達の動きに合わせて、リードしながら劇遊びをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの友達を活動に誘ったり、せりふや動作でやりとりをしたりする。</li> <li>使う物の準備や片付けを進んで行う。</li> </ul>
M (男)	簡単なせりふや動きを覚えて劇遊びをする。緊張すると声が小さく早口になるが、発表活動に張り切って取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役の動きを覚え、自信をもってせりふを話す。</li> </ul>
N (女)	お気に入りの絵本の挿絵を見たり、読んでもらったりすることが好きである。手元や目の前に提示された教材に注目する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と一緒に移動したり、友達とバスに乗ったりして、周囲の人と関わりながら活動する。</li> </ul>
O (男)	簡単なせりふや擬音を言ったり、動作をしたりして演じる。歌詞やメロディを覚えて歌を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動に見通しをもち、せりふを話したり、動線を覚えて自分で移動したりする。</li> </ul>

## 6 本時の計画 (40 時間/本時 17 時)

### (1) 本時のねらい

- ・劇の流れに沿って、大きな声で自分の役のせりふを話したり、大きな動きで表現したりする。

### (2) 個別のねらい

氏名・性別	ねらい	手立て
A (男)	・教師の話す「入れて」のせりふに合わせて手をたたいて伝える。	・「せいの」と言葉を掛けて、となりで演示する。
B (男)	・教師の合図を聞いて、「入れて」のせりふに合わせて手をたたいて伝える。	・きっかけが分かるように「せいの」と言葉を掛ける。
C (男)	・友達に聞こえるようにせりふを話したり、ひつじになりきったりして自信をもって身振りで表現したりする。	・声の大きさをイメージできるように大・中・小の動物で表した声の大きさスケールを準備したり、よくできた身振りをグループの友達に紹介したりする。
D (女)	・正しくせりふを話したり、ペンギンになりきったりして自信をもって演じる。	・演じる前に、正しいせりふが書かれたカードを指さしながら読んで一緒に確認する。
E (女)	・友達に聞こえるようにせりふを話したり、馬の特徴をとらえて身振りで表現したりする。	・声の大きさをイメージできるように大・中・小の動物で表した声の大きさスケールを準備したり、よくできた身振りをグループの友達に紹介したりする。
F (男)	・教師や友達と一緒に「フラミンゴ」の言葉掛けに合わせてポーズをする。	・発表のきっかけが分かるように、言葉掛けをしたり、始めの動作を教師が演示したりする。
G (男)	・教師と一緒にうさぎのジャンプをまねたり、「のせて」と話したりする。	・まねして行うことができるように、目の前で演示する。
H (男)	・教師と一緒にペンギン歩きをまねたり、「のせて」の教師の言葉に合わせてお願いの身振りをしたりする。	・動作を言語化して一緒に行ったり、動作のきっかけとなる言葉掛けをしたりする。
I (男)	・自分から友達に言葉を掛けて一緒に道具の準備をしたり、相手に伝わるようにせりふを話したりする。	・二人以上で運ぶ用具を準備する。 ・話し方を意識できるように、話す速さや口の開け方を一緒に確認する。
J (男)	・動物になりきって大きな声でせりふを話す。	・話し方を意識できるように、声の大きさや口の開け方を一緒に確認する。
K (女)	・「フラミンゴ」の言葉掛けに合わせてポーズをとったり、バスに乗って友達と一緒に移動したりする。	・活動に見通しをもって学習できるように「次は〇〇だね」と伝えたり、次の活動をフラミンゴのカードやバスなど、使う物で示したりする。
L (男)	・友達の動きに合わせて、ストーリーに沿ってバスを運転したりせりふを話したりする。	・友達の様子を見てバスを動かし、せりふを話すことができるように、支援を控えたり、次の行動を想起できる言葉を掛けたりする。
M (男)	・周囲に伝わる声の大きさを、ライオンの鳴き声や自分のせりふを話す。	・声の大きさの目安が具体的にイメージできるように、「〇の大きさで」と数字で伝えて伝え、周囲に聞こえたら称賛する。
N (女)	・教師や友達と一緒にバスに乗って移動する。	・友達や教師の関わりを受け入れて活動できるように、次の活動に移る前に「〇〇するよ」と言葉を掛けて一緒に活動する。
O (男)	・ペアの友達と一緒に泣き声やせりふを話したりぞうの身振りをしたりする。	・自分でせりふを話したり動作をしたりできるように、タイミングよく合図の言葉を掛ける。

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 ※下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て
(5)	1 あいさつ 2 本時のめあてを知る。 ともだちにつたわるように <b>おおきなこえ</b> <b>おおきなうごき</b> で はっぴょうしよう	・ 始まりを意識できるように音楽を流す。 ・ 声や身振りの大きさなど、めあてを具体的にイメージできるように、 <u>演示したり、児童に質問したりする場面を設定する。</u> ・ 意欲が高まるように、浜田小の友達に動画を届けることを伝える。
(15)	3 グループ毎に練習する。 1 グループ：1組教 (A、B、C、M、N) T 2・6 【ぞう・ライオン・ひつじ】 2 グループ：小会議室 (D、G、H、I、J) T 4・7 【ぞう・ペンギン・うさぎ】 3 グループ：2組教室 (E、F、K、L、O) T 1・3・5 【ぞう・うま・フラミンゴ】	・ 一緒に活動する友達が分かるように、呼名後にグループごとに各教室に移動することを伝える。 ・ グループごとの練習では、見る人にせりふや身振りが伝わるように、声の大きさや体の向きなど、 <u>演技のポイントを端的に伝えたり、一緒に演じて模範を示したりする。また、同じグループの友達に感想を聞く場面を設ける。</u> ・ 自分の発表に自信をもち、活動の手掛かりとなるように、 <u>原稿やお面、バスなどを準備する。</u> ・ グループの友達と協力したり一緒に活動したりできるように、 <u>掛け声や動物のまねっこ、バスへの乗車など、ペアで行動する場面を設定する。</u>
(15)	4 グループ毎に発表する。 ：小会議室	・ 互いのグループの発表が見えるように座席を工夫する。 ・ 互いのがんばりや改善点分かるように、一つのグループの発表が終わるごとに、児童の感想発表の場面を設定したり、T1 が言葉で具体的に称賛したりする。
(10)	5 振り返りをする。  まとめ： <b>おおきなこえ、おおきなうごき</b> で はっぴょうできた はまだしょうのともだちによくつたわるね。 6 あいさつ	・ 本時のめあてを確認できるように、導入で提示しためあてやイラストを提示する。 ・ 本時の良かった点や次時に向けての改善点が意識できるように、各グループの発表や意見をまとめたもの提示する。 ・ グループの友達と協力して片付けることができるように、あいさつの後の活動を伝える。

(4) 評価

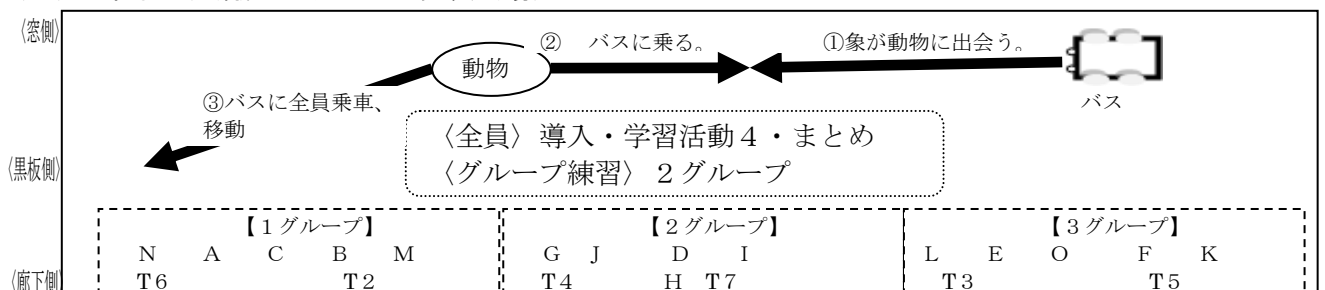
<児童生徒の評価>

- ・ せりふや鳴き声、動作などで自分の役を演じていたか。
- ・ グループの友達と動いたり、やりとりをしたりして一緒に活動できたか。

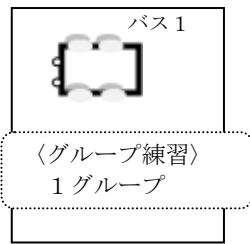
<教師の手立ての評価>

- ・ 児童が自分の役が分かり主体的に活動できるように、タイミング良く分かりやすい言葉を掛けたり、見守ったりできたか。
- ・ 児童同士、または教師を介して関わるができるように、学習活動や場の設定ができたか。

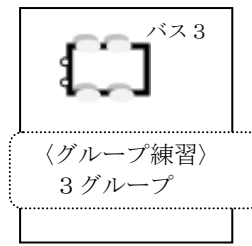
(5) 配置図 (会議室・グループ発表会場)



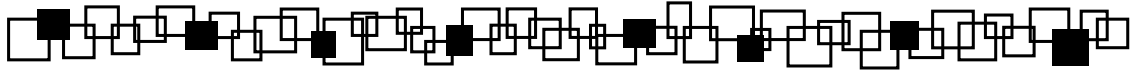
1 組教室



2 組教室



# 中学部研究





指すのかについて検討した。また、指導観では、学習グループ全体と対象生徒それぞれについて、どのような学び方が効果的であるかを検討した。

### (3) 学習の成果の見える化

昨年度同様、授業ごとの振り返りや単元の振り返りの際に、生徒の実態に応じて写真を活用したり、他者からの評価を視覚的に示したりした。

また、自分の学習の軌跡を整理し、振り返るツールとして「中学部のみちしるべ」を新たに作成した。年度始めに記入するプロフィール表や月ごとの目標と振り返り、主要な学習や行事の振り返り等の資料を一冊のファイルに時系列にまとめ、3年分積み重ねる。個別面談や学期ごとの振り返りの際に自分の頑張りを見返したり、今後の目標を考えたりするための材料とした。

### (4) 自立活動の視点を取り入れた生徒の実態の整理と捉え直し

各学年一人ずつ対象生徒を抽出し、年度始めに自立活動の6区分27項目で実態を再整理した。普段の学校生活の様子や家庭環境、これまでの経験など様々な側面から生徒の行動の背景を考え、指導すべき課題を焦点化したり、学習場面で必要な支援を具体化したりした。実態の捉え直しで明らかになったこれらの内容を踏まえて授業実践を重ね、年度末に対象生徒の変容について各学年で評価を行った。

## 4 授業の実際

### (1) 第3年学年 「中3おたすけ社」 7月17日(木)

本学習グループは、進路学習Cグループの生徒10名からなる集団で、中学部1年生の進路学習から職員室のごみ回収や寄宿舎の清掃など、自分にできる役割を果たしながら感謝される経験を積み重ねてきた。

本単元は、校内の職員から依頼を受け、自分にできる役割を果たす「働く編」と、友達と一緒にゲームや会食を楽しむ「楽しむ編」からなる。それぞれの役割を通して、清掃活動や、家庭での役割、余暇活動など様々な活動経験を積み重ね、他者から感謝されたり一緒に楽しんだりすることで、活動に期待感をもち、主体的に活動に取り組む姿を目指した。本時では、「楽しむ編」の活動として、会食とボウリングゲームを行った。



写真2 会食の準備

#### ①事前授業検討会から

##### <生徒について>

- ・今まで取り組んできた「おたすけ社」の活動を今後もみんなで頑張りたいという思いや、みんなでお楽しみ会をしたいという願いをもっていることが分かった。
- ・これまでの活動を通して、「これはできる」「これが得意」が自分で分かるようになってきた。
- ・対象生徒の課題は、話し方のパターンやコミュニケーションの幅を広げることなので、「働く編」と「楽しむ編」両方の活動の中にやりとりを必要とする場面を設定する。

##### <単元について>

- ・家庭での役割に関する経験を積み重ねていくために、保健室の洗濯物畳みや、会食のための買い物、食器の準備などの活動を設定する。
- ・「働く編」では、モップを使った体育館や廊下の清掃、生徒玄関の清掃、保健室の洗濯物畳みなど数種類の活動を準備し、生徒の実態やねらいに応じた活動に取り組めるようにする。

### <指導について>

- ・一人一人が自分の役割を果たしたことで、依頼された相手に感謝されたり、会食やゲームが成立したりしたということが実感できるように、活動の様子の写真や映像を提示して、頑張りと結果を結び付けながら振り返る。

## ②授業協議から

### <学びに向かう姿について>

- ・生徒一人一人が自分の役割を理解し、みんなで会食やゲームを楽しむという目的をもって活動していた。
- ・生徒が自分たちで準備を進められるような視覚的な手立てがあり、協力して準備を進めることができていた。
- ・対象生徒は、友達に飲み物を聞く場面でカードを見ながら聞いていたが、カードがなくてもやりとりができそうだった。

### <単元構成について>

- ・「働く編」と「楽しむ編」を繰り返すという単元構成にしたことで、生徒が見通しと期待感をもって学習に向かっていた。

### <役割について>

- ・自分の役割だけでなく、友達の仕事も分かって協力する姿が見られた。
- ・現在教師が担っている仕事を少しずつ生徒に任せていけるとよい。

### <振り返りについて>

- ・最初から活動の様子の写真を見せるのではなく、本時のねらいを提示してから写真を見せることで自分たちの頑張りを実感しやすくなるのではないかと。

## ③指導助言から

- ・「働く編」、「楽しむ編」という見通しのもちやすい単元の構成やこれまでの積み重ね、生徒に合わせた手立てなどがあったので、生徒一人一人の成長した姿につながった。
- ・「働く編」でありがとうポイントを集めて「楽しむ編」につなげるという今回の流れで、今後もたくさんの人と関わり、感謝されることや余暇を楽しむことを通して働くことに対する前向きな気持ちを育ててほしい。
- ・生徒が達成感や充実感を感じるためには活動量の確保が大切である。全校研究テーマにある「生き生きと学ぶ姿」にせまることができるように、今後もねらいと活動量を大切に授業づくりを進めてほしい。

### <学部授業研究会における学部研究テーマと関連するキーワード>

「見通しのもてる単元構成」

「活動量の確保」

## (2) 2年 「しごと体験～もっと知ろう!しごと、じぶん～」 9月22日(月)

本学習グループは、中学部2年進路学習Aグループの生徒9名からなる集団で、1学期の進路学習では、公共交通機関を利用した校外学習、高等部の授業や校内実習の見学などの学習を行ってきた。高等部生という身近な先輩が校内実習で働く姿を見学し「自分もやってみたい」という前向きな意見が聞かれた一方で「難しそう、自分にできるかな」という不安な気持ちを伝える生徒も見ら

れた。そこで本单元では、仕事体験として高等部総合サービス科の三つの専門教科に関わる仕事を実際に体験する。仕事体験を通して、仕事に興味をもったり、「やってみたい」「もっと知りたい」という気持ちをもったりして、今後の進路選択に意欲的に向かう姿を引き出すことを目指す。本時では、車椅子介助の仕事を取り上げ、利用者に安心して乗ってもらうために必要なことはどんなことかを考えながら体験した。



写真3 車椅子介助の体験

## ① 事前授業検討会から

### <生徒について>

- ・将来は働いて生活していきたいという希望をもっている生徒が多い。
- ・初めてのことにに対して不安感が強い生徒が多いが、一度経験すると「次はこうしたい」「こうできるようになりたい」など前向きな気持ちをもって次の活動に向かうことができる。
- ・対象生徒の課題は、自分の考えを表出することに対して消極的であること。安心して活動できるペアやグループを検討し、ポイントをしばった発問をする。

### <単元について>

- ・接客、掃除、介護の三つの仕事をそれぞれ複数回ずつ体験できるように単元を構成し、毎時間の活動の記録を残すことでステップアップしていることが実感できるようにする。

### <指導について>

- ・客観的な意見を聞き、自分たちのよさを知る機会が得られるように、高等部総合サービス科の教師からワンポイントアドバイスをもらう機会を設定する。

## ② 授業協議から

### <学びに向かう姿について>

- ・教師が手本を示したり、具体的に言葉掛けを行ったりしたことで、生徒が安心して意欲的に体験活動に取り組んでいた。
- ・2回体験することで、1回目に気付いたことを生かして2回目の体験に取り組んでいた。
- ・対象生徒が体験中に自分が感じたことをペアの友達に伝える様子が見られた。また、教師の発問に対して自分の考えを答えることができていた。

### <学びを深めるための相手意識について>

- ・例えば、目隠しをして車椅子に乗るなど介助される相手の気持ちをより自分ごととして感じられるような工夫があるとよい。
- ・介助される相手の気持ちを知ること、技術的なポイントがなぜ必要なのかという学びにつながるのではないか。
- ・相手の視点に立って体験を重ねることで、その仕事の意義について知るきっかけになるのではないか。

### <生徒同士のやりとりについて>

- ・教師と生徒とのやりとりを通して、気付いたことを整理する場面が多くあったので、生徒同士のやりとりも増やしていけるとよい。

## ③ 指導助言から

- ・様々な仕事を体験することがねらいなのか、もっと深く職業としての見方を養うことがねらいな

のか、もう少しねらいを焦点化できるとよい。また、生徒が考えながら活動するためには、思考の材料を与えることが大切である。何について考えさせたいか、どんな言葉を引き出したいかという視点で必要な思考の材料を考えてほしい。

- ・体験や教師とのやりとりを通して、生徒が気付いたことや考えたことを視覚的に残しておく手立てがあるとよい。気づきや思考を見える形で残しておくことで、生徒の思考が働き、自分たちで改善していけるのではないか。
- ・中学部段階の生徒たちの進路学習を考える際に大切にしてほしいのは職業観の土台となる勤労観である。他者から感謝されたり、喜ばれたりする経験を積み重ね、意欲や自信を養ってほしい。

＜学部授業研究会における学部研究テーマと関連するキーワード＞

「ねらいの焦点化」 「気づきや思考を残す手立て」

## 5 まとめ

### (1) 今年度の成果

#### ①生徒の思いや願いを反映させた授業づくり

個別面談で明らかになった生徒の思いや願いなどを参考に授業づくりを行った。生徒の関心に沿った題材設定や、生徒の実態に合わせた発展的な単元設定などが有効であり、目的をもって主体的に学習に向かう姿が見られた。また、実態の捉え直しで整理した対象生徒の課題に応じた学習活動を設定し、授業実践を重ねたことで対象生徒の変容が見られた。

#### ②「中学部のみちしるべ」を活用した主体的な学びの循環

「中学部のみちしるべ」を作成し、個別面談や、学期ごとの振り返りの際に自分の学習の軌跡を見返せるようにした。「前より〇〇できるようになった」など生徒が自分の成長に気付くきっかけとなり、ステップアップした前向きな目標を自分で設定する姿が見られた。また、活動を経て、目標としていたことがどうだったのかを教師とともに振り返り、新たな目標や学びにつなげるという主体的な学びの循環が図られた。

### (2) 次年度に向けて

#### ①個別面談及び「中学部のみちしるべ」の活用の継続

個別面談については、学部職員からの意見を基に共通の様式を作成し、実施時期を決めて計画的に実施する。また、学習の振り返りや新たな目標設定の場としても活用していく。「中学部のみちしるべ」は中学部3年間の学びを蓄積し、生徒自身の振り返りのツールとして活用するとともに、保護者や教師間で生徒の学びを共有するツールとしても活用していく。

#### ②ねらいの焦点化と活動量の確保

授業のねらいを焦点化し、生徒がめあてを想起できるような発問の仕方やめあてにせまるためのまとめについて具体的に検討する。また、活動量が十分に確保されているか、生徒が思考を深めるための場面設定と手立ては十分であるかという視点で授業を見直していく。

#### ③他者のために主体的に行動する姿勢を育むための授業づくり

中学部段階における進路学習では、他者のために主体的に行動する姿勢を育成することが重要であるという意見が多く挙げられた。他者や集団のために役割を果たす経験や感謝される体験、成功体験の積み重ねなどを通して、主体的に行動する姿勢を育む授業づくりを目指していきたい。

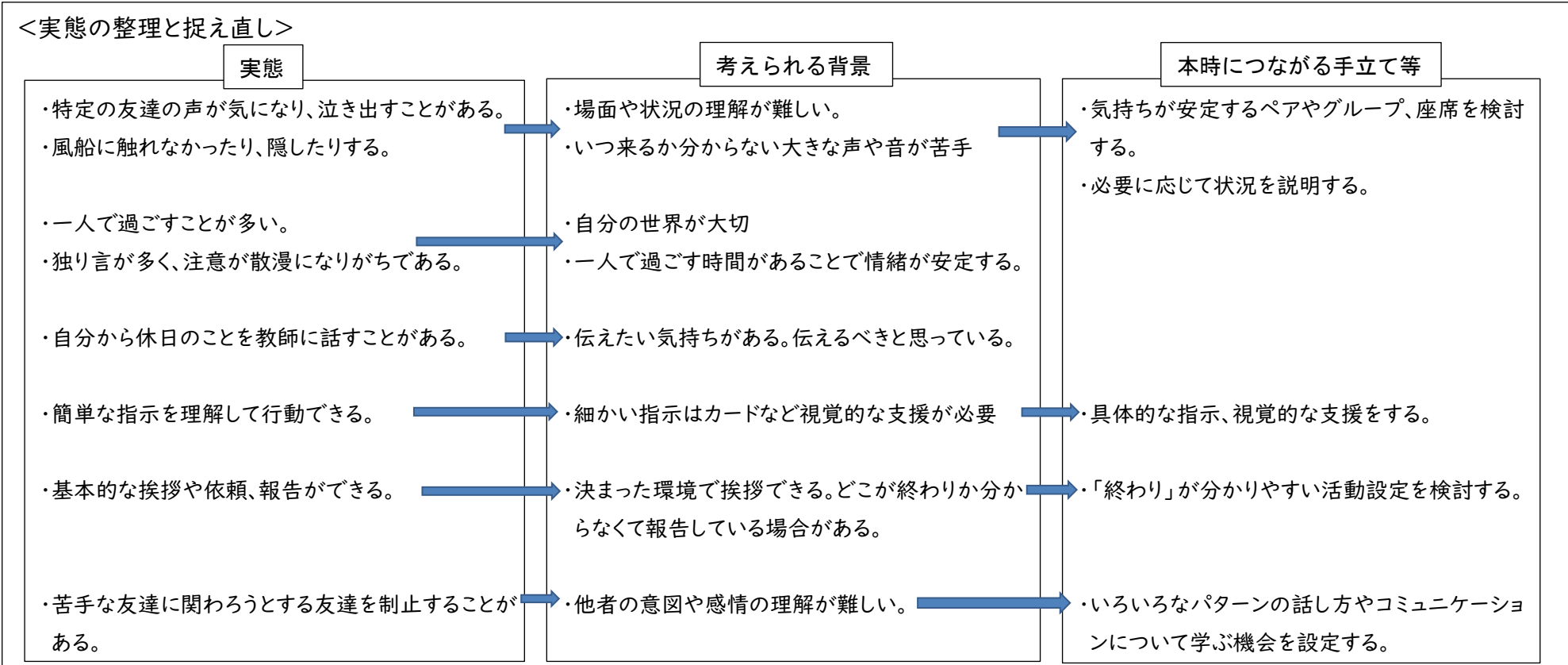
<生徒>

2年

(A)

<対象生徒の思い・願い>

- 本単元について
  - ・おたすけ社の仕事を頑張りたい。
  - ・おたすけ社の学習に見通しをもって、「次は〇〇かな」と楽しみにしている。
- 好きなこと・得意なこと
  - ・鉄道の本や、地図の本を見るのが好き。
- 進路・将来について
  - ・中学部卒業後は高等部に行きたい。
  - ・パソコンをやってみたい。
  - ・仕事のことは分からない。



# 「中学部のみちしるべ」

## 中学部のみちしるべ



1年	組	名前
2年	組	
3年	組	

<表紙>

- 「中学部のみちしるべ」にとじるもの
- ・プロフィール表
  - ・月ごと（学期ごと）の目標と振り返り
  - ・運動会の目標と振り返り
  - ・面談シート
  - ・生単の振り返りシート
  - ・特総体の目標と振り返り
  - ・宿泊学習の振り返り
  - ・修学旅行の振り返り
  - ・栗田祭の振り返り
  - ・作業学習週間の振り返り
- など

<裏表紙>

### 二学期の目標

学習 先生や同級生としっかりとコミュニケーションを取りながら授業を受ける。グループ活動の時などは発言する。

生活 疑問を感じたらすぐ確認する。

氏名

<学期の目標>

### 二学期の目標の振り返り

学習 十月よりまためづらわすに習熟をすることが出来ました。高等部に向けて疑問だけではない、たくさん話せるように頑張りたいです。

生活 学級やグループの活動で自分から話し合いを進めたりしてスムーズに仕事を進めることができました。

氏名

<学期の目標の振り返り>

ハッピースマイルプロジェクト～栗田方博

1年生、保護者とのお楽しみ会をふりかえろう

氏名

☆自分の担当する園はどこでしたか。 イタリア

☆自分の役割、がんばったことを書きましょう。

・神経系弱コナ 担当  
・イタリアグループリーダー  
カード並べやセリフの準備、他に各グループの本番でリードしてグループを導いた。

☆中学部1年生のみんなを楽しませることができましたか。  
○でかみましょう。  
○できた ・まあまあできた ・もう少し

☆感想  
準備の時に自分が出来る事を率先して行動しました。リーダーとしてもクニに力をあげることができました。保護者や保護者に楽しんでもらえた事です。グループのリーダーとして、各々の様子を見ながら準備や当日の係りをがんばっていました。

<生単の振り返りシート>

## 中学部2年 生活単元学習(進路学習)Aグループ 学習指導案

日 時：令和7年9月22日(月) 10:30～11:50  
場 所：中学部2年3組 中学部学習室  
職員玄関前  
生 徒：男子5名、女子4名、計9名  
指導者：大島由紀(T1)、和泉 緑(T2)

### 1 単元名

しごと体験～もっと知ろう!しごと、じぶん～

### 2 生徒と単元

#### (1) 生徒について

本学習グループは、9名(男子5名、女子4名)で、言葉で自分の気持ちを伝えたり、友達同士で会話を楽しんだりする生徒が8名、自分の要求を言葉で伝えたり、友達や教師からの簡単な質問に答えたりする生徒が1名である。いずれの生徒も穏やかな性格で友達と一緒に活動することを好む半面、自分から行動したり発言したりすることが苦手な面もある。自分の考えていることについて自信がもてないことも多く、目の前の活動に対して消極的になることがある。

2年生になり、学校生活への見通しや繰り返しの活動での積み重ねが少しずつ安心感や自信につながり、自分が知っていることやできることを生かしてみんなで学習に取り組もうとする態度が身に付いてきている。

1学期の進路学習では、公共の交通機関を利用した校外学習、高等部の授業や校内実習の見学、ランチくりたの利用などの学習を行ってきた。実際に自分が見たり経験したりすることで、少しずつ自分なりの感想や考えを友達や教師に伝えるようになってきた。実際に見たり体験したりする進路学習を積み重ねる中で、「自分もできる」「やってみたい」「もっと知りたい」など、知識を広げながら、自信をもって学習に向かう前向きな姿を目指したい。

#### (2) 単元設定理由

1学期に学習した高等部の見学では、身近な先輩(高等部生)の校内実習で働く姿から「自分もやってみたい」という前向きな意見があった。一方で「難しそう、自分にできるかな」などの不安な気持ちを伝える生徒もいた。そこで、本単元では、仕事体験として、高等部総合サービス科の三つのコースに関わる仕事を実際に体験する。本校高等部の学習活動や内容を取り上げることで、身近な先輩の姿と重なり、具体的に仕事内容がイメージできたり、やってみようという意欲を高めたりすることができる。と考える。

また、それぞれの仕事で気を付けるべき大切なことを高等部総合サービス科の職員から提示してもらい、そこを意識して体験することで、自分もできたという実感がわきやすく、自信をもって活動することにつながるのではないかと考える。

実際に仕事を体験し、自分もできたという経験を積み重ねることで、他の仕事にも興味をもったり、「やってみたい」「もっと知りたい」という気持ちをもったりして、今後の進路学習に意欲的に向かう姿を引き出すことができるのではないかと考え、本単元を設定した。

#### (3) 指導について(下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て)

##### 【児童生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり】

- ・ 前時の学習と本時の学習とのつながりについて考えられるように、前時の学習の様子を写真やイラスト、キーワード等で振り返る学習を毎時間行う。
- ・ 自分の意見をまとめたり伝えたりする際には、生徒の実態に応じて、プリントに書いてまとめる他に、個別に動画を見たり、教師とやりとりをしながら進めたりする。

##### 【自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫】

- ・ 生徒同士で自分の考えや意見を伝え合いながら体験できるように、小グループで行う。

##### 【多様な場や人材の活用】

- ・ 客観的な意見を聞き、自分たちのよさを知る機会が得られるように、高等部総合サービス科の職員からワンポイントアドバイスを聞いたり、動画を見たりする。
- ・ 高等部総合サービス科で実際に使用している道具を借用して体験する。

3 単元目標 知：知識及び技能 思：思考力・判断力・表現力等 学：学びに向かう力・人間性等

- (1) 体験するそれぞれの仕事で大切なことが分かり、それらを意識して活動する。知 思  
 (2) 自分で意識したことやできたこと、友達のよいところなどに気付いて教師や友達に伝える。思  
 (3) 仕事や働くことに興味をもち、前向きな気持ちで自分のやりたいことを考えたり、進んで活動したりする。学

4 単元計画（総時間数 11 時間／本時 9・10 時）

小単元名と活動内容	主なねらい (知 思 学)	時数	学習活動	単元で扱う各教科等
オリエンテーション ・前単元の振り返り ・本単元の活動を知る。	・本単元の学習の流れを知る。知 ・総合サービス科の三つのコースに関わる仕事について知る。知	2	・知っている仕事や興味のある仕事について、話し合ったり考えたりする。 ・高等部総合サービス科の見学の様子を振り返り、身近な先輩が学んでいる仕事について知る。	職業・家庭 A 職業・家庭 C
「やってみよう！接客のしごと」 ・喫茶(水出し)	・喫茶(水出しの接客)の基本や大切なことが分かり、ポイントを意識して水出しをする。知 思 ・体験を通して、自分でできたことや友達のよいところに気付き伝える。思	2	・トレンチやコップなどの道具を使って水出しの接客のロールプレイをする。 ・接客の仕事で大切なことを知り、どんなことに気を付けたらよいか考えながら活動する。 ・自分で気を付けたことやできたことを書いたり、発表したりする。	職業・家庭 AI
「やってみよう！掃除のしごと」 ・窓拭き ・床掃除	・掃除に使う用具の名前や手順を知る。知 ・掃除で大切な心構えを意識して掃除を行う。知 思 ・体験を通して、自分でできたことや友達のよいところに気付き伝える。思	2	・前時の振り返りをする。(喫茶) ・スクイージーやモップなどの道具を使い、窓拭きや床掃除をする。 ・掃除で大切な心構えを知り、どんなことに気を付けたらよいか考えながら掃除をする。 ・自分で気を付けたことやできたことを書いたり、発表したりする。	職業・家庭 AI
「やってみよう！介護のしごと」 ・車椅子介助①	・車椅子の各名称を知る。知 ・車椅子を押して廊下を周回し、分かったことや考えたことを伝える。思	2	・前時の振り返りをする。(掃除) ・車椅子操作の仕方を知る。 ・車椅子を押して廊下を周回する。	職業・家庭 AI
「やってみよう！介護のしごと」 ・車椅子介助②	・車椅子介助の仕事で大切なことが分かり、それらを意識して活動する。知 思 ・車椅子に乗ったり、押ししたりして分かったことや考えたことを伝える。思 ・体験を通して、自分でできたことや友達のよいところに気付き伝える。思	2	・前時の振り返りをする。(車椅子) ・車椅子介助で大切なことを知り、どんなことに気を付けたらよいか考えながら活動する。 ・自分で気を付けたことやできたことを書いたり、発表したりする。	職業・家庭 AI
まとめ ・学習の振り返り ・次単元に向けての話合い	・これまでの仕事体験の様子を振り返り、できたことに自信をもったり、さらにやってみいたいことや知りたいたいことについて考え、発表したりする。学	1	・本単元で体験した仕事の内容や大切なこと、取り組みの様子などについて振り返る。 ・実際に仕事を体験して感じたことを書いたり、発表したりする。 ・さらにやってみいたい仕事や見学したい職場について考え、友達と話し合う。	職業・家庭 A 職業・家庭 C

5 生徒の実態と目指す姿（太枠部分は対象生徒）

氏名・性別	実態	単元を通して目指す姿
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の生活や高等部進学について自分なりの考えをもち、分からないことを教師に質問することが増えた。</li> <li>・人前で発表することに対して不安が強く、消極的であるが、慣れた集団や知っている人の前では発表するようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの仕事をする上で大切なことを知り、実践するために気を付けることを考えてやってみる。</li> <li>・体験を通して感じたことや今後の進路について、自分の考えを書いたり発表したりする。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の仕事に興味がある。社会人の姉や兄の姿を見て、働くことへの関心が高い。</li> <li>・自分が本当に興味をもっている物事よりも、周囲の反応や期待に応えることを優先してしまう場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ仕事をする上で大切なことを知り、どんなことに気を付けて実践したか伝える。</li> <li>・体験した仕事や知っている仕事の中からさらに深く知りたい仕事を選び、選んだ理由を伝える。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来は「〇〇屋さん」「パソコンを使った仕事」などの考えをもっている。</li> <li>・できたことよりもできなかったことを気にして、気持ちが沈むことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を通して感じたことや自分で意識して気を付けたことなどを伝える。</li> <li>・体験を通して、自分のできることや自分のよさに気付く。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来はスポーツ選手になることが夢である。姉の職場や母の勤務時間について知っていて話すことがある。</li> <li>・やり方やポイントを理解して活動できるが、慣れてくると雑になることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの仕事で大切なことが分かり、道具を丁寧に扱ったり、操作したりして活動する。</li> <li>・体験を通して感じたことや今後の進路について、自分の考えを書いたり発表したりする。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部進学を希望している。将来はスーパーで働いてみたいと考えている。</li> <li>・見聞きしたことに対して自分なりの考えがあるものの、言葉で表すのが難しかったり、自信がもてなかったりして、伝えるのをためらうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を通して感じたことや、自分で意識して気を付けたことなどを伝える。</li> <li>・できたという経験を積み重ね、自信をもって活動に向かう。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部普通科へ進学し、木工作業をやりたいと考えるようになった。</li> <li>・経験したことのないことに対して消極的になることがあるが、教師からの提案を受け入れ、少しずつ活動に参加するようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に見通しをもち、仕事で大切なことに気を付けながら体験活動に参加する。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路や仕事に対して具体的なイメージをもつことは難しいが、自分のやりたいことを選択肢から選ぶ。</li> <li>・手本を見て動きをまねたり、絵やイラストを見てポイントに気を付けたりして活動できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の名称や使い方が分かり、手順に沿って安全に体験する。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、一人暮らしをしたいという希望をもっており、そのために必要なことを考えるようになってきた。</li> <li>・活動を区切ったり、複数の活動を組み合わせたりすることで一定時間、集中して活動できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ仕事をする上で大切なことを知り、気を付けながら体験する。</li> <li>・体験を通して感じたことや今後の進路について、自分の考えを書いたり発表したりする。</li> </ul>

I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路について自分なりの考えをもっているが、自信がもてない。</li> <li>・間違ふことに過度の抵抗があり、明確な正解がない問いに答える場面のためらうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ仕事をする上で大切なことを知り、実践するために気を付けることを考えてやってみる。</li> <li>・体験を通して、自分ができることや自分のよさに気付く。</li> </ul>
---	---	--

## 6 本時の計画（11 間時中の 9-10 時）

### （1）本時のねらい

- ①車椅子の介助の仕事で大切なことが分かり、それらを意識して車椅子を安全に操作し移動の支援をする。
- ②自分が気付いたことやできたことを具体的に書いたり発表したりする。

### （2）個別のねらい

氏名・性別	ねらい	手立て
A	・車椅子の介助で大切なことを考えながら、車椅子を操作する。	・車椅子の操作の仕方や手順に迷っていても言葉掛けを控えて見守る。
B	・車椅子の操作や利用の体験を通して、介助する側、利用する側の気持ちを考えたり、発表したりする。	・事前に利用する人はどんな人か、介助者にはどんな力が必要かなどについてやりとりをする。
C	・車椅子の介助の仕事で大切なことを意識し、乗っている人に言葉掛けしながら操作をする。	・体験の前に知りたいことや頑張りたいことを聞き取り、意識して活動できるようにする。
D	・車椅子の介助の仕事や利用者の体験を通して「〇〇のときに△△したからできた」など具体的に伝える。	・ふせんには「安全」「ブレーキ」など場面を想起しやすいキーワードを短い言葉で書く。
E	・車椅子の介助の仕事で、できたことや難しかったことについて、具体的な場面を思い出しながら伝える。	・車椅子の操作や走行の様子の動画を見せるとき、ポイントになる場面で止めて、車椅子の操作や乗っている人の様子について質問する。
F	・車椅子の介助の仕事や利用者の体験を通して、操作で気を付けることを伝える。	・車椅子の操作、走行など写真等で具体的な場面について示し「〇〇のときは何に気を付けましたか」と質問する。
G	・ブレーキを掛けたり、ぶつかったりしないように車椅子を安全に操作する。	・車椅子の操作で大切な箇所が分かるように、車椅子と写真と同じ箇所にシールで印を付ける。
H	・車椅子の介助の仕事や利用する人の気持ちを考えながら介助したことを言葉で表現する。	・車椅子の操作で一番気を付けた場面について質問する。
I	・車椅子の利用体験を通して、感じたことを元に、介助の仕事で大切なことについて考える。	・体験でよい場面を即時評価したり、動画で振り返ったりする機会を設ける。

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 ※下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て
10	<p>1 本時の学習について話を聞く。</p> <p>導入</p>	<p>めあて：車いす介助の仕事で、安心して利用者の人に乗ってもらうためにはどうしたらよいか？</p> <p>問：自分が介助してもらう立場だったら、どうしてもらおうと安心かな。</p>
50	<p>2 前時の振り返りをする。</p> <p>3 車椅子の介助と乗車の体験をする。</p> <p>展開</p> <p>&lt;1 グループ：T1&gt; ○1周コース (学習室) D、C G、(D) B、E</p> <p>&lt;2 グループ：T2&gt; ○スロープコース (職員玄関前) A、H F、I</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を思い出し、本時の活動とのつながりがもてるように、全時の写真を黒板に提示する。</li> <li>ゲストティーチャーからのアドバイス動画を見せ、介助の仕事で1回目の体験から気付いた大切なポイントを確認する。</li> <li>安心して体験に参加できるように、周回するコースや難関ポイントなどを略図で確認する。</li> <li>安全に車椅子を走行するために、操作で大切な箇所が分かるように、写真カードのハンドクリップ、ブレーキ、フットレストにシールを貼る。(T1)</li> <li>東・幸が見通しをもって活動に参加できるように、体験の流れや順番をホワイトボードに書いて示す。(T1)</li> <li>佐・大が安心して体験できるように、事前に心配なことやできそうなことを聞き、気持ちを確認しながら参加を促す。(T2)</li> <li>生徒同士がお互いの様子に注目できるように、動画撮影の機会を設ける。</li> <li>安全に走行するために「静かに座る」ことを確認する。</li> <li>走行中、ぶつかったり、トラブルがあったりした際は、走行を止めて「○○なときはどうしますか」「動かすスピードはどうでしたか」など場面に応じた質問や、やりとりをする。</li> <li>体験したことを想起しやすいように、生徒のつぶやき、様子をふせんにメモする。</li> </ul>
20	<p>4 学習シートにまとめを書く。</p> <p>まとめ</p> <p>5 感想発表をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの体験（介助と利用者）の際にメモしたふせんを黒板に貼り見せる。</li> <li>齋・美が体験したことを元に、できたことや自分の考えを整理できるように、「○○の場面はどう思った」など質問をする。(T2)</li> <li>体験の場面を思い出して感想や考えを書けるように、「○○さんの△△に安心した」「安全に押すために□□をした」と穴あきに言葉を入れる学習シートを準備する。</li> <li>東・幸と佐・大に動画や写真を見せてやりとりをしながらまとめをする。</li> <li>自信をもって発表できるように、よい気付きや考えにアンダーラインを引いたり、印を付けたりする。</li> </ul> <p>まとめ：安心して乗ってもらえるように、車いすをゆっくり押した。 ：安心して乗ってもらえるように、回りの様子に気を付けて押した。</p>

(4) 評価

<生徒の評価>

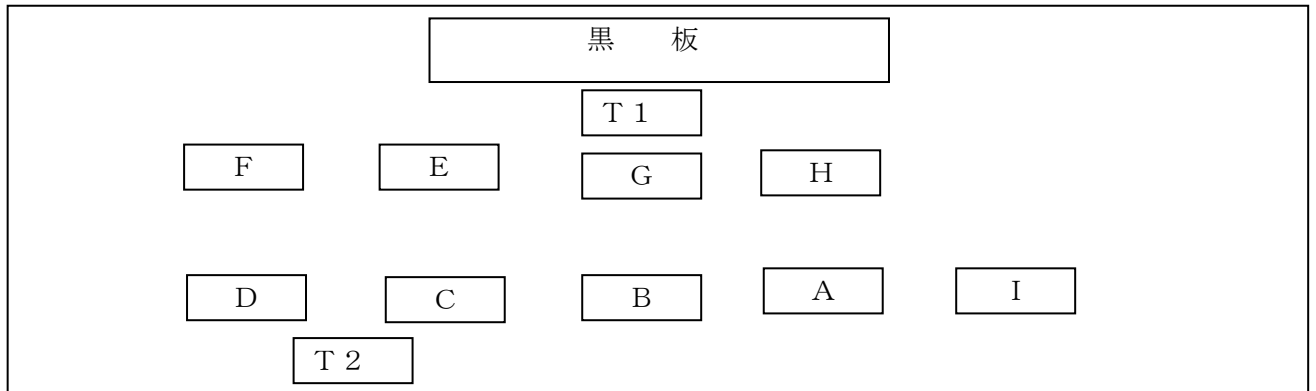
- ・安全に車椅子介助をするためのポイントが分かり、ポイントに気を付けて活動できていたか。
- ・自分が気を付けたことや、できたことなどを具体的に書いたり発表したりできていたか。

<教師の手立ての評価>

- ・生徒が車椅子介助の仕事で大切なことを意識して活動するために十分な手立てが講じられていたか。
- ・生徒が自分の考えを書いたり、発表したりするために必要な支援や手立てが講じられていたか。

(5) 配置図と板書計画


【配置図】



【板書】

めあて 車椅子介助の仕事で、安心して利用者の人に乗ってもらうためにはどうしたらよいか？

①ふりかえる ②確認する ③体験する ④まとめる

①  1 グループ  
1 周コース  
場所：学習室

② 2 グループ  
スロープコース  
場所：職員玄関

④ ④まとめる

まとめ：安心して乗ってもらえるように、車いすをゆっくり押した。  
：安心して乗ってもらえるように、回りの様子に気を付けて押した。

単元計画

## 中学部3年 生活単元学習(進路学習)Cグループ 学習指導案

日 時：令和7年7月17日(木) 10:30~11:50

場 所：中学部3年2組教室、学習室

生 徒：男子4名、女子6名、計10名

指導者：小林哲(T1)、高橋ひな子(T2)、三浦弥(T3)

長谷部優子(T4)、杉渕陽子(T5)

### 1 単元名

中3おたすけ社①

### 2 生徒と単元

#### (1) 生徒について

本学習グループには、教師や友達と簡単な言葉でやりとりをする生徒、発声や身振り、表情等で気持ちを伝える生徒がいる。他者とのコミュニケーションでは受け身になりがちな部分もあるが、人との関わりを好み、友達と一緒に活動したいという気持ちをもっている。

中学部1年生の進路学習から「おたすけ隊」として、職員室等のごみ回収をしたり、寄宿舎の清掃をしたりして、自分にできる役割を果たし、様々な人から感謝される経験を積み重ねてきた。部分的な支援や見届けは必要であるが、繰り返し取り組む中で自信をもち、「おたすけ隊をがんばりたい」と個別面談で伝える生徒もおり、ほとんどの生徒が主体的に学習に参加している。誰かのために頑張りたいという気持ちが芽生えてきた生徒もおり、活動を継続する中で、自分でできる役割や経験を増やし、達成感を感じて、さらに自分から進んで活動に取り組む姿を目指したい。

#### (2) 単元設定理由

本単元は、校内の職員から依頼を受け、自分にできる役割を果たす「働く編」とともに、友達と一緒に簡単なゲームや会食を楽しむ「楽しむ編」からなる。「働く編」では、モップを使った体育館等の清掃、保健室の洗濯物畳み、生徒玄関の清掃を行う。数種類の活動を準備することで、生徒の実態やねらいに応じた活動を扱うことができるとともに、教室外での活動を通して校内の職員との関わりも期待できる。

また、「楽しむ編」では、生徒の興味や関心を基に、余暇活動を想定した会食や簡単なゲームを行う。活動の準備も一人一人の役割として設定することで、買い物、食器の準備など、家庭での役割の幅を広げることができると思う。

単元の中では、「働く編」と「楽しむ編」を組み合わせる学習を進める。役割を通して清掃活動や家庭での役割、余暇活動など様々な活動経験を積み重ねることができるとともに、他者から感謝されたり他者と一緒楽しんだりする機会も多く設定できる。生徒が活動への見通しをもち、期待感や達成感を感じながら、より主体的に活動に取り組む姿を引き出すことが期待できると考え、本単元を設定した。

#### (3) 指導について(下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て)

##### 【生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり】

- ・自分の役割を理解し見通しをもって活動できるように、毎回同じ流れで学習活動を進め、一定期間同じ役割に繰り返し取り組むようにする。
- ・自分の役割を一人で進めることができるように、実態に応じた教材教具を準備したり、分かりやすい言葉で手順を提示したりする。

##### 【自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫】

- ・単元名を、会社を想起させる「おたすけ社」とし、全員が同じエプロンや名札を付けて活動する。
- ・「働く編」では、それぞれの役割を果たす度に「おたすけポイント」と称した視覚的なポイントを提示し、ポイントが一定数に達すると「楽しむ編」を行うという単元計画にする。
- ・「楽しむ編」では、それぞれの好きなお菓子や飲み物、余暇でやりたい活動などを事前に聞き取り、飲み物を選択する機会を設定したり、生徒の希望する活動を取り入れたりする。

##### 【多様な場や人材の活用】

- ・相手から頼られたり、感謝されているという実感がもてるように、「働く編」では、保健室の洗濯物畳みや生徒玄関の清掃など、校内の職員から依頼を受けて活動していることが分かるよう、依頼相手からの動画を見せたり、活動後に報告をしたりする場面を設定する。

3 単元目標 知: 知識及び技能 思: 思考力・判断力・表現力等 学: 学びに向かう力・人間性等

- (1) 学校生活や家庭生活の中で自分にできる役割と方法を知る。 知  
 (2) 自分に任された役割が分かり、正しい手順や方法を覚えて活動する。 思  
 (3) 自分の役割を果たし、教師や友達から感謝される経験や友達と一緒に楽しむ経験を重ねることで達成感を得て自分から活動に取り組む。 学

4 単元計画 (総時間数 15 時間 / 本時 13・14 時)

小単元名と活動内容	主なねらい ( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> )	時数	学習活動	単元で扱う各教科等
オリエンテーション ・活動を知る ・名前を決める	・学校生活の中で自分にできる役割を知る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> ・余暇活動について知り、自分の希望を伝える。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span>	2	・昨年度の活動を振り返り、これまで取り組んできた役割について思い出す。 ・今年度の活動について知り、グループの名前を決める。 ・友達と楽しみたい余暇活動について自分の希望を伝える。	生活 キ手伝い 仕事  職業・家庭 Aウ家庭 生活における余暇
「働く①」 ・生徒玄関の清掃 ・保健室の洗濯物畳み ・体育館のモップ掛け	・タオルの畳み方を知り、決められた手順でタオルを畳む。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> ・清掃の仕方について知り、場所に応じた道具で清掃をする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> ・依頼相手に挨拶をしたり、受け答えをしたりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>	2	・保健室の先生から依頼を受け、保健室のタオル畳みをする。 ・中学部の先生から依頼を受け、生徒玄関の清掃をする。 ・高等部の先生から依頼を受け、体育館のモップ掛けをする。	生活 キ手伝い 仕事  職業・家庭 Aイ職業
「楽しむ①」 ・ボウリングゲーム ・会食	・担当する自分の役割が分かり、教師と一緒に準備したり友達と会食を楽しんだりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> ・簡単なルールが分かり、ボウリングゲームに参加したり、友達と同じ場で過ごしたりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span>	2	・飲み物を買ったり、紙皿等を並べたりなど、会食の準備をする。 ・ボウリングの必要な道具やボールの準備をする。 ・友達と会食やボウリングゲームをする。	生活科 力役割  職業・家庭 Aウ家庭 生活における余暇
「働く②」 ・生徒玄関の清掃 ・保健室の洗濯物畳み ・体育館のモップ掛け	・きれいにするためのポイントを知り、清掃やタオル畳みの手順に沿って進める。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> ・依頼相手に挨拶をしたり、受け答えをしたりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>	2	・保健室の先生から依頼を受け、保健室のタオル畳みをする。 ・中学部の先生から依頼を受け、生徒玄関の清掃をする。 ・高等部の先生から依頼を受け、体育館のモップ掛けをする。	生活 キ手伝い 仕事  職業・家庭 Aイ職業
「楽しむ②」 ・カラオケ ・会食	・担当する自分の役割が分かり、友達と一緒に準備したり友達と会食を楽しんだりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> ・自分の歌いたい曲を伝えたり、友達の好きな曲を聴いたりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>	2	・飲み物を買ったり、紙皿等を並べたりなど、会食の準備をする。 ・好きな曲を伝え合い、自分の好きな歌を歌ったり、友達の歌を聴いたりする。	生活科 力役割  職業・家庭 Aウ家庭 生活における余暇

「働く③」 ・生徒玄関の清掃 ・保健室の洗濯物畳み ・体育館のモップ掛け	・きれいにするためのポイントを覚え、清掃やタオル畳みの手順を守って自分から進める。【知 思 学】 ・依頼相手に挨拶をしたり、受け答えをしたりする。【知 思 学】	2	・保健室の先生から依頼を受け、保健室のタオル畳みをする。 ・中学部の先生から依頼を受け、生徒玄関の清掃をする。 ・高等部の先生から依頼を受け、体育館のモップ掛けをする。	生活 キ手伝い 仕事  職業・家庭 Aイ職業
「楽しむ③」 ・ボウリングゲーム ・会食	・担当する自分の役割が分かり、自分から準備をしたり、友達と会食を楽しんだりする。【思 学】 ・簡単なルールが分かり、ボウリングゲームに参加したり、友達と同じ場で過ごしたりする。【思】	2	・飲み物を買ったり、紙皿等を並べたりなど、会食の準備をする。 ・ボウリングの必要な道具やボールの準備をする。 ・友達と会食やボウリングゲームをする。	生活科 カ役割  職業・家庭 Aウ家庭 生活における余暇
まとめをしよう ・学習の振り返り ・次単元に向けての話し合い	・自分が取り組んだ役割を思い出し、頑張ったことや気を付けたことを伝える。【思 学】 ・取り組んでみたい余暇活動について、自分の希望を伝える。【知 思 学】	1	・本単元で取り組んだ活動や頑張ったことについて振り返る。 ・次単元について、取り組んでみたい役割や楽しみたい活動について伝え合う。	生活科 カ役割  職業・家庭 Aウ家庭 生活における余暇

#### 5 生徒の実態と目指す姿（太枠部分は対象生徒）

氏名・性別	実 態	単元を通して目指す姿 （「楽しむ編」の姿のみ記載）
A	・昨年度の活動から、単元全体に大まかな見通しをもって取り組んでいる。 ・教師や友達とのやりとりは受け身になりがちだが、同じ役割の友達の様子をまねて、飲み物の準備をしている。	・友達と言葉でやりとりをしたり、一緒に役割に取り組んだりしながら活動する。
B	・簡単な言葉やイラストなどで活動を理解し、自分から活動する。自分のペースで物事を進めたがり、活動を拒否することがある。	・自分の役割や活動内容が分かり、見通しをもって準備や片付けをする。
C	・学習グループのリーダー的存在であり、それを自覚して発言したり行動したりすることが増えてきている。 ・経験がない活動には自信がなく消極的になりやすいが、経験した活動は自分から進める。	・自分の役割に自信をもって取り組んだり、周囲を見て必要なことに気付いて教師や友達の活動を手伝ったりする。
D	・簡単な指示を聞いたり、やり方を見たりして、活動できる。 ・聞かれたことにオウム返しで答えることが多いが、気になることや自分の好きなことは自分から伝えようとする。	・自分の役割（机拭き、コップ配り）や、楽しむ活動での順番が分かって、皆と一緒に活動する。
E	・昨年度の活動から、単元全体に大まかな見通しをもって取り組んでお	・自分の役割（お菓子を配ること）の手順が分かって、自分から手を洗って準

	<ul style="list-style-type: none"> <li>り、おたすけ社の活動を楽しみにしている。</li> <li>・手順を確認せずに自分なりの方法で進めてしまうことがあるが、自分の役割は最後まで果たそうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>備をしたり、友達に言葉を添えて渡したりする。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心が次々に移り、活動に集中できる時間が短い。行動に移すまで時間が掛かることがある。</li> <li>・選択肢を提示すると、指さしたり言葉で話したりして、自分の気持ちを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割（紙皿を配ること）や、楽しむ活動での順番が分かって、皆と一緒に活動する。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容を理解し、見通しがもてると積極的に活動に取り組む。</li> <li>・自分の意に沿わないときに、活動の途中で立ち止まったり、黙り込んだりすることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容や役割分担を理解して、自分から道具を運んだり並べたりする。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順を覚えるまでに時間を要するが自分の役割が分かると、積極的に取り組む。</li> <li>・周囲の様子が気になり、役割外の活動に取り組んでしまったり、友達に関わりすぎてしまったりすることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割（お菓子を配ること）の手順が分かって、自分から手を洗ったりお菓子を準備したりする。</li> </ul>
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の動く様子を見て、少し時間がたってから、やることが分かって立ち上がったたり、移動したりする。</li> <li>・具体物を提示すると、触ったり、指さしたりして、自分の気持ちを伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割（ランチョンマット配ること）や、楽しむ活動をすることが分かって、友達と一緒に活動する。</li> </ul>
J	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おたすけ社の活動に参加したことはできないが、友達と一緒に活動することができる。</li> <li>・友達に聞かれたことに答え、自分の気持ちを伝えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割（机拭き）や、楽しむ活動内容と自分の順番が分かって、友達と一緒に活動する。</li> </ul>

## 6 本時の計画（15 時中の 13・14 時）

### （1）本時のねらい

- ①教師や友達がいる中で、自分の役割に最後まで取り組む。
- ②教師や友達と一緒に、ゲームに参加する。

### （2）個別のねらい

氏名・性別	ねらい	手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会食の準備で、飲み物を注ぐ前に、友達の顔を見て適切な言葉で飲みたい飲料の種類を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手元に聞き方の手がかりとなる空欄付きのカードを準備する。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボウリングのピンやついたてを並べたり、友達が倒したピンを、印の位置に立て直したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンを立てる場所に目印のシールを貼る。</li> <li>・ピンを立て直すタイミングで、教師が言葉を掛ける。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボウリングのゲームが始まる前に、友達の意見を聞きながら、チーム内での投げる順番を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手元に参加する生徒の名札カードとホワイトボードを準備する。</li> <li>・生徒の意見がまとまらない時は、どんな意見が出ているかを聞いて、決め方</li> </ul>

		について助言をする。
D	・会食の準備で、全員の机を布巾で拭いたり、紙コップを一個ずつ置いたりする。	・一つの机を拭き終わったら、次の机を指さしたり、「次は、ここです」と言葉を掛けたりする。 ・ランチョンマットに紙コップを置く目印の丸いカードを付けておく。
E	・会食の準備で、友達にどちらが食べたいかを聞いてから、一つずつお菓子を配る。	・種類の違いが分かりやすい個包装のお菓子を準備する。 ・「次は誰かな？」とお菓子を配る順番を尋ねる。
F	・会食の準備として、全員のランチョンマットの上に、1枚ずつ紙皿を置く。	・紙皿を置く場所が分かるようにランチョンマットに目印の丸いカードを付けておく。
G	・ボウリングに使う道具が分かり、正しい場所に道具を並べたり、倒れたピンを直したりする。	・会場の配置図を掲示したり、ピンを立てる場所に、シールを貼ったりする。
H	・会食の準備で、手を洗って、お菓子の準備をするまでを一人で進める。	・「どんな準備が必要かな」と言葉を掛けたり、お菓子の袋を分かりやすい場所に置いたりする。
I	・会食の準備として、全員の机の上にランチョンマットを1枚ずつ置く。	・ランチョンマットを1枚ずつ机の上に置けるように、机を指さしたり、1枚ずつ手渡したりする。
J	・会食の準備として、机を布巾で拭く。	・机の全面を拭けるように、隣で教師が手本を示し、「一緒にやってみよう」と誘い、励ます。

### (3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 ※下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て
10	導入 1 本時の学習について話を聞く  めあて：みんなで楽しむために、自分の係を頑張ろう	・「おたすけポイント」が貯まったことを紹介し、本時の活動について伝える。 問：前回の役割で頑張ったことを思い出せるように、 <u>写真や映像を提示しながら、問い掛ける。</u>  ・自分の役割が分かるように、生徒の顔写真や名前カードを掲示する。
25	展開 2 会食やゲームの準備をする。 ・飲み物の買い物(A、C) ・会食の準備(D、E、F、I、H、J) ・ゲームの準備(B、G)  3 会食をする	・一人一人の生徒が安心して活動に参加できるペアやグループにする。 ・ <u>今日買ってくる物が分かるように、事前に調べた友達の好きな飲み物の表を掲示しておく。(A、C、T1)</u> ・ <u>一人一人の役割に最後まで取り組めるように、一人ずつ役割を分担し、順番に活動する。(D、E、F、I、H、J、T2、T4)</u> ・ <u>自分で確認しながら道具を準備したり、置いたりできるように配置図や目印を準備しておく。(B、G、T3)</u> ・T5は、全体の様子を見ながら必要な場面に支援に入ったり、まとめで使用する写真を撮影したりする。  ・自分で片付けができるように、ごみ袋や空いたペットボトルを置く場所を決めておく。

35		※学習室に移動する 4 ボウリングゲームをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボウリングのコースや投げる位置が分かるように、衝立を立てたり、スタート位置の目印などを付けておいたりする。</li> <li><u>自分で好きなボールを選べるように、数種類のボールを準備しておく。</u></li> <li><u>自分達で進めたり、教えたりできるように、教師は側で見守ったり、適宜言葉を掛けたりする。</u></li> </ul>
10	まとめ	5 自分の係を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>生徒が活動している様子の写真や映像を提示しながら、生徒に係の内容や頑張ったことを聞く。</u></li> <li>一緒に担当した教師が、係の内容や頑張ったことを補足しながら説明する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ：〇〇の係をがんばった。〇〇の係で〇〇をしてがんばった。</p> </div>

#### (4) 評価

##### <生徒の評価>

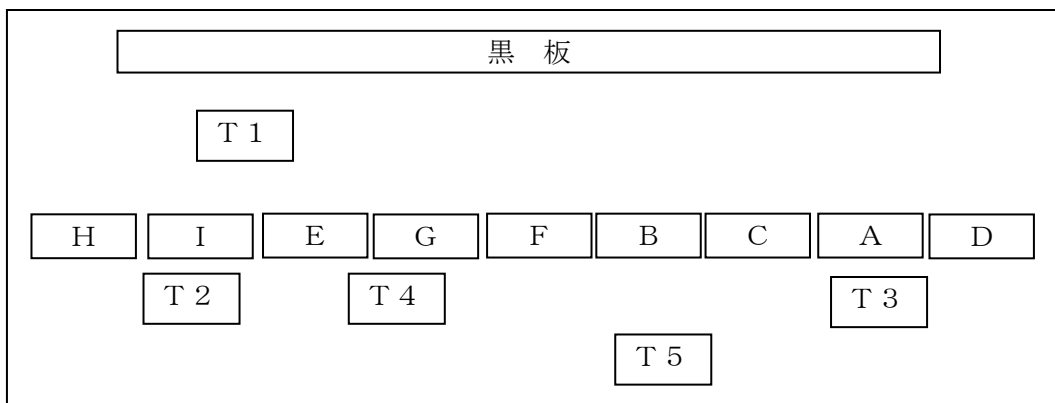
- 教師や友達がいる中で、自分の役割に取り組んだり、一緒にゲームに参加したりできていたか。

##### <教師の手立ての評価>

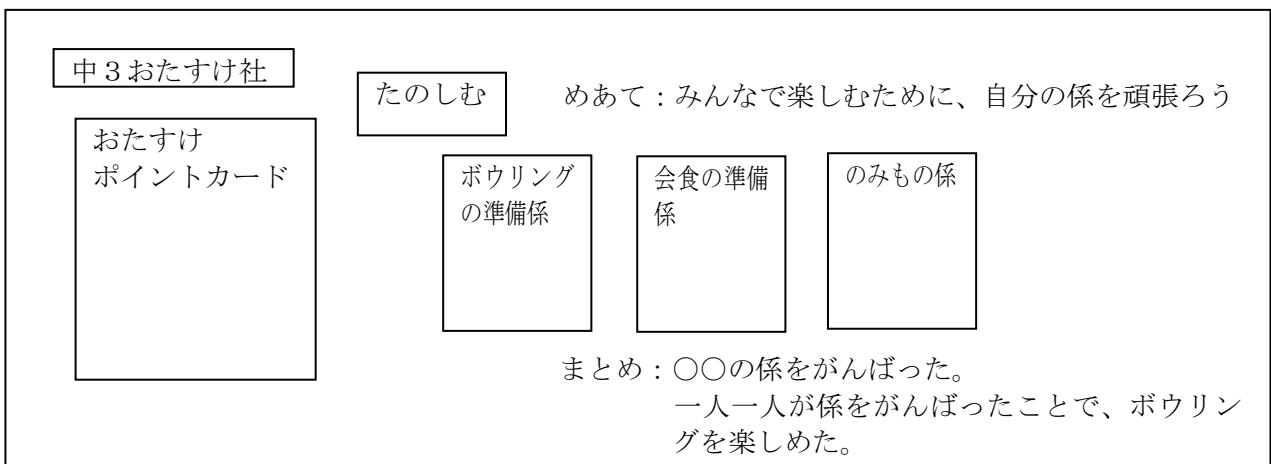
- 生徒が自分の役割を理解したり、ゲームの内容や順番が分かったりするための手立てはできていたか。

#### (5) 配置図と板書計画

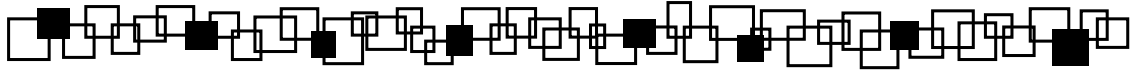
##### 【配置図】



##### 【板書】



# 高等部 普通科研究



## 高等部普通科 授業づくりの実際

～課題解決に向けて周囲の人やものに働き掛けながら、よりよい答えを見付け出そうとする姿を目指して～

### 1 学科研究テーマ設定理由

昨年度までの学科研究では、生徒が自ら何を学ぶかを選択し、自分に合う方法を模索しながら学習したことで主体的に課題解決に向かう姿が見られるようになってきたという成果があった。

今年度は、生徒理解と実態把握に努めて生徒の願いや思いを学習に取り入れ、興味のある学習活動を設定したり、安心できる手立てや配慮を取り入れたりとすることで課題解決に向けて自ら働き掛けながら活動する姿を目指したいと考え、本研究テーマを設定した。

### 2 研究仮説

生徒が自分自身や周りの人と対話しながら、自分への気付きや自分に合う学び方を見付けていく過程を繰り返すことで、目の前の課題に興味・関心をもち、課題解決に向けて周囲の人やものに働き掛けながらよりよい答えを見つけ出そうとする姿が育まれるだろう。

### 3 研究の内容と取組の実際

研究対象授業を職業科に設定し、各授業で対象生徒を設定した。

#### (1) 生徒の願いや思いの把握

##### ①個別面談の実施

各授業で対象生徒を設定し、個別面談を実施した。思いや願いの聞き取り、自分の得意なことやよさ、苦手なことなど、生徒が捉える自分自身について理解することを目的とした。また、職業科の授業の内容や不安などについて教師に相談する生徒もおり、授業づくりの際に生徒が安心して学習できるための手立てが検討できた。

##### ②ワンステップシートの活用

生徒の等身大の思いや願い、生徒自身が捉える自分についての情報収集のため、キャリアパスポートの視点を取り入れたワンステップシートを試行した。シートにはなるべく生徒自身の言葉で書くこと大切にし、生徒の等身大の思いや願いを知ることができるようにした。目標が明確になっている生徒や教師が提示した選択肢から選ぶなど方法は様々であったが、生徒の自己理解のきっかけとすることができた。また、教師は生徒の目標を共有するだけでなく、日々の生徒との関わりや細やかな生徒理解につながる機会にもなった。

#### (2) 実態の捉え直しと学習活動の整理

##### ①学年会での情報共有

対象生徒について実態の捉え直しと育てたい力

ワン・ステップシート	
年 組 氏名	
【今の私の好きなこと】	【今の私の得意なこと】
-----	-----
-----	-----
-----	-----
【がんばったこと、がんばっていること】	【次のステップ】
-----	-----
-----	-----
-----	-----
【やってみたいこと、知りたいこと】	【そのために】
今の学年で	-----
高等部で	-----
社会人で	-----
-----	-----

図1 ワンステップシートの様式



#### 4 授業の実際

##### (1) 第2学年 職業科Bグループ 「自分をステップアップ～もやもやを解決しよう～」

本題材は前期の現場実習の事後学習として行った授業である。前期現場実習を経て、生徒が実習中に不安に感じたことや迷ったことに対する解決策や改善策を考え、後期現場実習や今後の生活で実践していくことをねらいとしている。

本時では、コミュニケーション面での不安や迷いを「もやもや」と表現して、互いに解決策や改善策を考え、その中から自分ができるような方法を見つける活動をした。

##### ①事前授業検討から

- ・一時間ごとに不安や迷いを感じた出来事を、作業面、コミュニケーション面などのジャンルに分けて提示することで、解決策や改善策の方向性が見えるなど気づき生まれるのではないかな。
- ・自分の意見をまとめる際には、対象生徒が書きやすいように付箋紙にキーワードを書く、教師が代筆する、などの方法を提示して生徒が自分に合う方法を選択できるとよいのではないかな。

##### ②授業協議から

生徒一人一人が自分で考えたり、働き掛けたりする状況づくり
<ul style="list-style-type: none"><li>・付箋紙に意見を書く活動を通して、自分の意見を出す時間が確保されていた。</li><li>・自分の考えを付箋紙になかなか書き出せないでいたが、教師が選択肢を提示することで自分の考えに近い答えを見つけていた。</li></ul>
自然な協働性を生む学習活動、学習集団の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・話合いの進め方、ルール、ゴールなどを具体的に示すことで生徒が協働し、答えを導き出すことができるのではないかな。</li><li>・生徒が安心して自分の思いを伝えられる教師が配置され、グループ活動が円滑にできるよう支援していた。</li></ul>
対象生徒の様子と変容
<ul style="list-style-type: none"><li>・教師の言葉掛けにうなずいて自分の考えを伝えたり、付箋紙に単語で意見を書いたりして自分の意見を表現しようとした。</li><li>・後期現場実習では授業で出した意見を参考にして目標を設定したり、困った、もやもやしたことがあった際に出された方法を取り入れようとしたりした。</li></ul>
次時に向けた手立ての工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・本時で取り扱う題材や話合いのテーマの設定や焦点化。</li><li>・活動のゴールは解決策、改善策を互いに考えることか、友達や教師からの案から自分ができるようなことを選ぶことか等、本時の授業のゴールの明確化。</li><li>・生徒の発言を引き出したり、生徒の思考を深めたりする教師の発問の工夫や言葉の精選。</li></ul>

##### ③指導助言から

- ・教師が学習活動を通して生徒に身に付けてほしいこと、目指したい姿の具体的なイメージをもつことが大切である。目指す生徒像を明確にし、その到達に向けて必要な学習活動、時間、必要な支援や手立てをTTで検討する。活動したことがゴールではなく、何を学んだかが生徒が分かったり、感じられたりするゴールを目指して授業づくりをしてほしい。

- ・実習先で生徒が困ったと感じたことの他に、実習先からのコメントや評価などをすり合わせておくことで、より生徒自身の課題に迫ることができる。また、生徒の思いと同じくらい教師の思いも大切な要素である。教師の見取りで生徒にとって必要だと感じたことを授業で取り扱うなど題材を十分に検討していくことも必要である。
- ・個別の学びの際に、ロールプレイなど動きながら学びを深める方法も考えられる。生徒のよさやできることを活用していく方法を取り入れるなど、学習方法を検討して行ってほしい。できることで自信を付けたり、よさで苦手をカバーしたりしていけるようにする。

<学科研究テーマと関連するキーワード>

「学びの実感」 「生徒と教師の思いと願いのバランス」 「生徒のよさやできることを活用する学習方法」

**(2) 第1学年Cグループ「卒業後の生活について知ろう」**

本単元は、高等部卒業後の生活の場の選択肢として挙げられる三つの生活の場での生活に必要な力や、各生活の場の特徴を比較し、将来どのような生活がしたいかに対するイメージをもち、現在できていることや今後どのような力を付けていきたいかを考えて、実践につなげていくことをねらいとしている。

本時では、前時に見学したグループホーム見学の様子を振り返り、三つの生活の場で必要な力やそれぞれの特徴を共有し、比較した。

**①事前授業検討から**

- ・三つの生活の場で必要だと思われる力や特徴は生徒から様々挙げられると思うが、学習に必要な項目を提示しておくといいのでないか。
- ・生徒の家庭環境が多様化しており、一人一人がもつ家庭生活のイメージが違う。共通認識がもてるように家庭生活について話し合ったり、調べたりする時間を設定したらよいのではないか。

**②授業協議から**

①	生徒一人一人が自分で考えたり、働き掛けたりすることができる状況づくり
	・前時（グループホーム見学）の様子を動画で視聴しながら振り返ったことで生徒がイメージをもてたり、思い出したりして学習活動に必要な情報を共有できた。
②	自然な協働性を生む学習活動、学習集団の工夫
	・生徒が意見を出しやすいコの字型の座席配置、教師の肯定的で的確な生徒へのフィードバックがあり、安心して学習に臨める環境が整っていた。 ・互いの意見を元に、生徒の思考を深めるための共有方法の充実が図られていた。
③	対象生徒の様子と変容

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動に見通しをもち、自ら気付いたことや考えたことを全体の場で共有していた。</li> <li>・グループ活動に積極的に参加し、友達の見解を聞いていたが意見の比較や再思考までは至らなかった。</li> <li>・現段階で卒業後は実家で生活し、将来的にはグループホームで暮らしたいとイメージをもち、それに向けて日々の学習で何を目標とするかが明確になった。</li> </ul>
<p>次時に向けた手立ての工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の学習活動で必要となりそうな情報の整理と記録、視覚情報の提示。</li> <li>・個で思考する時間の確保と学び合う時間の検討。</li> <li>・話合いのテーマの焦点化や話合いの方法の提示、話合い活動の際の生徒間の役割分担。</li> </ul>

### ③指導助言から

- ・生徒の学びたいことを取り入れた単元と題材で、積極的に知ろうとしたり、気付いたことを発言したりする様子が見られた。一方で、生徒にとって学んだことが積み重なる、効果的に作用するように学習する段階を見極めながら単元を計画していくとよい。
- ・生徒主体で話し合う時間を増やすとよい。生徒同士で課題解決に向けて話し合ったり、活動したりする機会と、個人の思考を整理したり、考え直したりする時間を意図的に設定するとよい。教師の介入を減らしていくなど段階的に生徒同士で学び合う機会を設定していくことが必要である。
- ・卒業後の生活に向けて生徒の思いや気持ちを反映することはできるが、決定するのは社会や事業者などである。なりたい自分になるため、日々何をがんばるのか、取り組み状況や達成状況を見取る必要がある。学部、学年で系統的、段階的な職業の指導内容を検討し、授業で確かな勤労観、職業観をかん養できるよう指導内容を検討してほしい。

#### ＜学科研究テーマと関連するキーワード＞

「興味・関心のある題材」      「共感的な学習集団の形成」      「個別と協働の活動のバランス」

## 5 まとめ

### (1) 成果

#### ①生徒の思いや願いを大切にしたい授業づくり

生徒の思いや願いを単元や題材に取り入れたことで学習への意欲を喚起し、主体的に学習に向かう姿が見られた。また、不安や苦手なことに対する支援や手立てについては、自立活動の視点で再整理した実態を基に、本人の得意なことを含む様々な手立てを準備し、生徒自身が選べるように工夫した。安心できる学習環境が整い、教師や友達と関わりながら、課題解決に向けて学習活動に臨むことができた。

#### ②授業づくりの視点の明確化

単元構想シートや授業構想シートを活用したことで、授業づくりに必要な要素を集積し、学習

活動や手立て、配慮について授業者間で意見を出し合ったり、整理したりしながら授業を考えることができた。また、学年会の他に学習グループ毎の職員で各段階に応じた求めたい資質や能力、単元計画や各時間の授業づくりについて意見交換する機会を設定した。各学年や学習グループに応じた必要な指導内容や適した指導時期など、3年間を見通して整理し、単元を計画することができた。

## (2) 次年度に向けて

### ①実態把握の項目選定と活用に向けての仕組みづくり

今後も学習への期待感やの意欲を喚起するために、生徒の思いや願いを取り入れた授業づくりをしていく。そのためのワンステップシートの項目の見直しや活用時期、方法を検討していく。生徒の思いや願いの把握の際には、単元や学期ごとなどの短期的な願い、卒業後を見通した長期的な願いに応じて、それぞれに応じた項目を選定したり、適した個別面談の時期を設定したりしていく。また、これらの情報を個別の教育支援計画の作成、評価にもつなげて関係者で共通理解を図れるようにしていく。

### ②めざす姿に近づくためのねらいの検討

授業でめざす生徒の姿を具体的にイメージし、ねらいを焦点化させていく。現在活用している授業構想シートの学習活動の欄に、ねらいに沿った生徒の思考や行動を予想して記載する項目を設定したり、教材観の欄を追記して学習指導要領の目標と教師の願いを記載する項目を設定したりする。生徒が何を学ぶか、どのような姿を育てていきたいかを明確にしながら授業づくりを行っていく。

日 時：令和7年9月24日（水）10:45～12:25  
場 所：高等部普通科1年2組教室  
生 徒：男子6名、女子3名、計9名  
指導者：遠藤葵

## 1 単元名

卒業後の生活について知ろう

## 2 生徒と単元

### (1) 生徒について

本学習グループは、本校中学部からの入学者3名、他校中学校からの入学者6名の計9名である。他校中学校から入学してきた生徒の多くは、不登校傾向にあったり、自分の考えを伝えたりすることに課題があることから、安心して学べる環境を重視しながら授業を進めている。少しずつではあるが、登校時間が増えてきたり、控えめではあるが自分の考えを伝えたりするようになってきた。

6月に、入学して初めて2週間の校内実習を経験し、卒業後の職業生活について少しずつイメージができるようになってきた。しかし、ほとんどの生徒は生活経験、社会経験の乏しさから、まだ自分の将来について具体的に思い描くことは難しい様子である。

### (2) 単元設定理由

授業開きのオリエンテーションでは、職業科の学習内容を知ると共に、特に学んでみたいことについて自分の考えを発表する機会を設けた。そこでほとんどの生徒から「卒業後の生活について知りたい」「いろいろな生活の場を知りたい」「グループホームを見学してみたい」等の意見が出てきており、卒業後の生活について非常に関心が高いことが分かった。

そこで、本単元では、卒業後の生活を職業編、生活編に分けて、様々な就労の場や生活の場があることについて知る。実際に見たり、聞いたりする活動を通し、生徒が抱いている卒業後の生活のイメージを広げたり、深めたりして、自分の将来について具体的に考える機会とする。また、将来の職業生活を支えるのは家庭生活であり、その両面を同時にイメージできるようになることで、より具体的な自分の将来像に迫れると考え設定した。具体的な自分の将来像を思い描くことで、学校での学びの意義をより実感することにつながり、更には自己実現に向けて努力しようとする思いが育まれるのではないかと考える。

高等部1年生の前期の段階では、漠然とでもよいので、卒業後の自分の生活をイメージし、段階的に具体的な勤労観やよりよい生き方について考えられるようになっていければと考えている。

### (3) 指導について

#### 【生徒の願いや思いをもとにした学習活動の設定】

- ・なぜ何のために学ぶのか理解できるよう、自分の将来と現在の学校での学びを関連させた授業を展開する。
- ・生徒が主体的に学びに向かうことができるよう、生徒から学びたいことを聞き取り、学習内容や単元計画について教師と一緒に確認する機会を設定する。
- ・卒業後の生活について具体的なイメージが思い描けるよう、実際に職場やグループホームを見学したり、就労している先輩へ質問したりする機会を設定する。
- ・学んだことが深められるよう、この単元終了後には家庭科で「安全で快適な住まい」について学習したり、職業科の「お金の管理」の単元中には数学科で収支の計算方法を学んだりするなど、他教科と連携し教科横断的に単元計画を工夫する。

#### 【生徒一人一人が自ら活動したり、考えたりすることができる状況づくり】

- ・生徒が自分事として捉えることができるよう、自分の生活と結び付け振り返る機会を設けたり、キャリア・パスポートを活用したりする。
- ・学んだことの気付きやこれまでの学びを思い出すことができるよう、必要に応じて既習プリントや写真、動画で振り返る機会を設ける。

#### 【自然な協働性を生むテーマ設定、学習集団の工夫】

- ・他者の多様な考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、生徒同士で話

し合ったり、学習プリントを見合ったりする機会を設ける。

- ・話し合い活動の前には、必要に応じて一人で考える時間を設け、自分の考えをまとめる時間を設ける。
- ・話しやすい雰囲気づくりのために、即時に生徒の考えを具体的に教師が称賛したり、生徒同士の相性などを考慮した小グループを構成したりする。
- ・話すことが難しい生徒には、筆談や身振り等で表現してもよいことを伝える。

3 単元目標 知: 知識及び技能 思: 思考力・判断力・表現力等 学: 学びに向かう力・人間性等

- (1) 職場やグループホーム見学等を通して、様々な就労の場や生活の場があることを知る・・・知
- (2) 見学や先輩の話等を参考にして、卒業後の自分の生活について考える・・・思
- (3) 卒業後の生活に向けて、今後取り組みたいことを考え実践しようとする・・・学

4 単元計画 (総時間数 16 時間 / 本時 13, 14 時)

学習活動 (時間)	指導内容	評価規準 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> )
【卒業後の生活について知ろう～職場編】 職場見学をしよう (4時間) ・職場見学をする ・職場見学を通して、分かったことや感じたことを振り返る	A 職イ 職業 (ア) ㉞ ・職業生活に必要とされる実践的な知識や技能を身に付けること。	・職場見学を通して、様々な就労場所があることが分かる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> ・見学をして分かったこと、感じたことをグループの友達と共にまとめる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span>
【卒業後の生活について知ろう～職場編】 先輩に聞いてみよう (2時間) ・働いている先輩に質問する／話を聞く	A 職イ 職業 (ア) ㉞ ・職業生活に必要とされる実践的な知識や技能を身に付けること。	・将来の職業生活の参考にするために、実際に働いている先輩に質問する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> ・先輩の話参考にして、これから取り組みたいことを考え実践しようとする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">主</span>
【卒業後の生活について知ろう～生活編】 卒業後の生活費や給料を知ろう (4時間) ・生活費について調べる ・一人暮らし、実家暮らし、グループホームの生活の場の違いによってかかる生活費の違いを知る ・一般企業就労と福祉就労の給料について知る ・一人暮らしと実家暮らしに必要な力について考える	A 職イ 職業 (ア) ㉞ ・職業生活に必要とされる実践的な知識や技能を身に付けること。 A 職イ 職業 (ア) ㉟ ・職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。	・タブレット端末を活用し、様々な生活費とおおよその額について分かる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> ・一般企業就労と福祉就労の給料の違いについて分かる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> ・一人暮らしと実家暮らしについて比較し、生活する上で必要な力が分かる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span>
【卒業後の生活について知ろう～生活編】 グループホーム見学をしよう (4時間 本時 3, 4 / 4) ・グループホーム見学をする ・グループホーム見学を通して、分かったことや感じたことを振り返る ・それぞれの生活の場の違いや特徴を考える	A 職イ 職業 (ア) ㉞ ・職業生活に必要とされる実践的な知識や技能を身に付けること。 A 職イ 職業 (ア) ㉟ ・職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。	・グループホーム見学を通して、様々な生活の場を知り、それぞれの生活の場の特徴が分かる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span>
【卒業後の生活について知ろう～職場／生活編】 卒業後の生活について考えよう (2時間) ・卒業後の進路や生活の場について考える ・これから頑張りたいことを考える	A 職イ 職業 (イ) ㉞ ・作業や実習等を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。	・これまでに分かったことや学んだことを参考に、進路選択をしたり、生活の場を考えたりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> ・自分の将来のために、これから頑張ることを考え、実践しようとする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">主</span>

5 生徒の実態と目指す姿（太枠部分は対象生徒）

生徒	実 態	単元を通して目指す姿
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京で働きたい」との思いがある。</li> <li>・体力面や精神面に課題があり、授業態度が気分左右されることがある。</li> <li>・積極的に自分の考えを伝える。</li> <li>・施設生であることから、卒業後すぐの自立が求められることが予想される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な就労の場や生活の場について知り、自分の将来について具体的に考える。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働きたい」との思いはあるが、就労形態に特段の希望はまだない。</li> <li>・体調管理や集中力の持続に課題がある。</li> <li>・積極的に自分の考えを伝えるが、記述は苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な就労の場や生活の場について知り、自分事として捉えながら自分の将来について考える。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般企業就労したいと考えている。</li> <li>・うまくいかないことがあると、自身の感情をコントロールすることが難しいときがある。</li> <li>・自分から積極的に考えを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来やこれから頑張りたいことについて具体的に考え、実践しようとする。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来は「一人暮らしをしたい」と考えている。</li> <li>・将来の生活のために、今の自分の生活を改善しようとするところまでは至っていない。</li> <li>・発音が不明瞭なときもあるが、自分の考えは積極的に伝えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な就労の場や生活の場について知り、自分事として捉えながら自分の将来について考える。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の具体的な進路についてはまだ考えられていない。</li> <li>・安心できる教師が側にいることで活動に向かえることがある。</li> <li>・積極的ではないが、自分の考えを伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な就労の場や生活の場について知り、自分の将来やこれから頑張りたいことについて考え、友達に伝える。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の具体的な進路についてはまだ考えられていない。</li> <li>・欠席は多いが、行事等には体調を整えて参加している。</li> <li>・問い掛けられることで、自分の気持ちをうなずきなどで伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な就労の場や生活の場について知り、自分の将来について考える。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般企業就労と福祉就労の給料の違いを知り、一般企業就労をしたいと考え始めている。</li> <li>・校外での学習には苦手意識を感じ、欠席することが多い。</li> <li>・自分の考えはあるが、自分から伝えることは少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な就労の場や生活の場について知り、自分の将来やこれから頑張りたいことについて考え、友達に伝える。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でハローワークに出向くなどして今すぐにでも「働きたい」と考えているが、欠席が続いている。</li> <li>・グループホーム見学には参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な就労の場や生活の場について知り、自分の将来について考える。</li> </ul>
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学当初から、一般企業就労したいと考え、そのために現場実習に行きたいと話している。</li> <li>・初めてのことには見通しがもてず不安を感じ、挑戦しようとする気持ちが低い。</li> <li>・自分から積極的に考えを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来やこれから頑張りたいことについて具体的に考え、実践しようとする。</li> </ul>

## 6 本時の計画（16 時中の 13, 14 時）

### （1）本時のねらい

- ①見学して分かったことを伝えたり、聞いたりして、グループホームで必要な力が分かる。
- ②実家暮らし、一人暮らし、グループホームでの暮らしの違いや特徴を考える。

### （2）個別のねらい

生徒	ねらい	手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学時のビデオを視聴したり、友達の説明を聞いたりして分かったことをプリントに書く。</li> <li>・友達に問い掛けるなどし、友達の意見も受け入れながら、暮らしの違いや特徴について整理してまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすいように、生徒の説明で大切な部分を端的に伝えたり、強調したりする。</li> <li>・友達を尊重した話合い活動ができていた場合には、その様子を称賛する。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学して分かったことを友達に伝える。</li> <li>・友達に問い掛けたり、自分の考えを伝えたりしながら、暮らしの違いについて気付いたことを書き表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを伝えている様子が見られた際には、その様子を称賛する。</li> <li>・自宅での様子などを問い掛ける。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学して分かったこと、質問して答えてもらった内容を友達に伝える。</li> <li>・友達の問い掛けに応じながら、暮らしの違いについて気付いたことを友達に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えがまとめられるよう、必要に応じて、既習プリントを振り返ったり、指差ししたりする。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学して分かったことを前時の振り返りのプリントを見ながら友達に伝える。</li> <li>・友達に問い掛けるなどし、友達の意見も受け入れながら、暮らしの違いについて書き表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている様子が見られた際には、前時のプリントを参考にするよう伝える。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学時のビデオを視聴したり、友達の説明を聞いたりして分かったことをプリントに書く。</li> <li>・友達の問い掛けに応じながら、暮らしの違いや特徴について自分の考えを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすいように、生徒の説明で大切な部分を端的に伝えたり、強調したりする。</li> <li>・話しやすい友達と一緒に学習グループを構成する。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うなずきなどで自分の考えを友達に伝える。</li> <li>・友達の考えを参考にしながら、暮らしの違いや特徴について書き表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しやすい友達と一緒に学習グループを構成する。</li> <li>・コミュニケーション手段について問い掛けたり、選択肢を提示したりする。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学時のビデオを視聴したり、友達の説明を聞いたりして分かったことをプリントに書く。</li> <li>・友達の考えを参考にしながら、暮らしの違いや特徴について書き表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすいように、生徒の説明で大切な部分を端的に伝えたり、強調したりする。</li> <li>・話しやすい友達と一緒に学習グループを構成する。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の問い掛けに応じて見学して分かったことを友達に伝える。</li> <li>・友達の意見を参考にして、暮らしの違いや特徴について書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像や写真などを準備し提示しながら問い掛ける。</li> <li>・書くことが分かるよう、周囲の生徒のプリントを指差しする。</li> </ul>
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学して分かったことや質問して答えてもらった内容を友達に伝える。</li> <li>・友達に問い掛けるなどし、友達の意見も受け入れながら、暮らしの違いや特徴について整理してまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像や写真などを準備し提示しながら問い掛ける。</li> <li>・友達を尊重した話合い活動ができていた場合には、その様子を称賛する。</li> </ul>

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 ※下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て
10分	<p>導入</p> <p>1 前時の活動を振り返る</p> <p>2 本時のめあてと活動を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前々回の学習プリントを返却し、学んだことを問い掛けながら確認する。</li> <li>見学した際の率直な感想を問い掛ける。</li> </ul> <p>問：一人暮らし、実家暮らし、グループホーム、それぞれの生活の場の違いや特徴とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>めあての提示前には、既習で学んだことや知ったことについて問い掛けながら確認する。</li> <li>めあてを示し、本時の活動の必要性にも触れながら説明する。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて：一人暮らし、実家暮らし、グループホームの違いについて整理しよう。</div>	
70分	<p>展開</p> <p>3 グループホームを見学して分かったことを伝えたり、聞いたりする（全体）</p> <p>4 グループホームで必要な力について考える（全体）</p> <p>5 それぞれの生活の場の違いや特徴について考える（グループ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学を欠席した友達に、見学して分かったグループホームの様子について伝える機会を設ける。</li> <li>見学した様子が思い出せるよう、動画や写真を視聴したり、前時のプリントを見て確認したりする機会を設ける。</li> <li>必要に応じて、生徒の説明を端的にまとめたり、強調したりして伝える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>先々週まとめた表を参考にしながら、グループホームで必要な力について問い掛ける。</li> <li>生徒の意見が分かれた場合には、それぞれの理由を尋ねたり、賛同者について問い掛けたりする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に意見を出し合えるよう、始め教師は静観し、必要に応じて、うなずきや相づちをして生徒の考えを肯定したり、気付きを図る言葉掛けをしたりする。</li> <li>考えることが難しい様子の生徒がいた場合には、生徒の考えが整理できるよう、考えに近そうな選択肢を提示し選択させたり、問い掛けたりする。</li> </ul>
20分	<p>まとめ</p> <p>6 本時の振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習プリントに記入する</li> <li>発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちを書き表すことが難しい様子の生徒がいた場合には、選択肢を提示したり、問い掛けたりする。</li> <li>自信をもって発表できるよう、感想の記入の際に良い気付きがあった場合には称賛する。</li> <li>発表の際には、必要に応じて問い掛けて確認したり、よかった点を称賛したりする。</li> <li>学校での学びに意欲がもてるよう、自分の将来と今の学びの関連性について触れる。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">まとめ：将来、生活していくためには〇〇な力が必要だと分かった。その力を身に付けられるよう、学校生活で〇〇を頑張りたい。</div>	

(4) 評価

<児童生徒の評価>

・友達に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、生活の場の違いや特徴について考えたか。

<教師の手立ての評価>

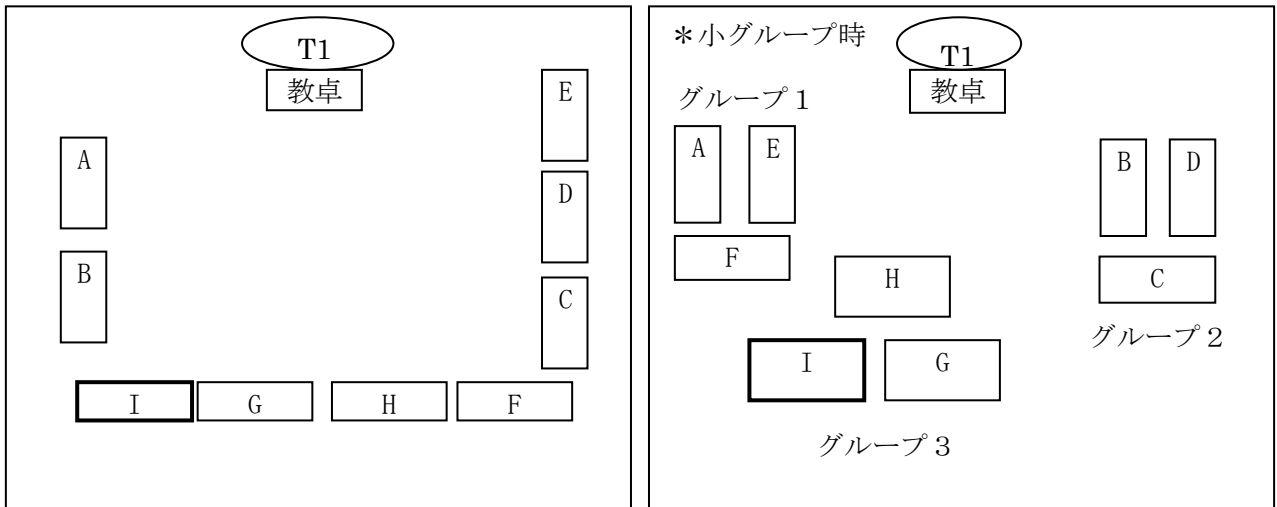
・生徒が生活の場の違いや特徴について気付くための教材の工夫や言葉掛けが適切であったか。

・生徒が考えを広げたり、深めたりできる学習活動や支援が工夫されていたか。

(5) 配置図と板書計画

- グループ編成 \*欠席者が多かった場合には変更有。  
 <グループ1> A、E、F <グループ2> B、C、D  
 <グループ3> G、H、I

・教室の配置



・板書計画

職業：卒業後の生活について知ろう～生活編②  
 めあて グループホームに必要な力とそれぞれの生活の場の違いや特徴を考える。

	実家暮らし	一人暮らし	グループホーム	
			すずらん	あずみ
気持ちのコントロール力	◎	◎	◎	◎
コミュニケーション力	◎	◎	○	◎
経済力	○	◎	○	◎
洗濯する力	○	◎	◎	◎
掃除をする力	◎	◎	◎	◎
料理をする力	○	◎	○	◎
違いや特徴	親に助けをもらえる お金はかからない	自分で全部やる お金がたくさん必要	世話人に助けをもらえる お金は少しかかる 一人暮らしの練習	

自由だから何でもOKではない  
 体調を崩さない人=自己管理  
 他の人に迷惑を掛けない人が生活できる場

未来の自分をつくるのは  
 今の自分

## 高等部普通科 第2学年職業科Bグループ 学習指導案

日 時：令和7年7月16日（水）13：20～14：10  
場 所：高等部2年3組教室  
生 徒：男子7名、女子3名、計10名  
指導者：大滝佳奈（T1）、廣川佳世（T2）  
小林 匡（T3）

### 1 題材名

自分をステップアップ～もやもやを解決しよう～

### 2 生徒と題材

#### (1) 生徒について

本学習グループは計10名で意見を出したり話し合ったりする場面では消極的な生徒がほとんどであり、自分から発言をする生徒は限られているが、学習を進めていく中で生徒同士の関わりが増えてきた。また、悩みや困ったことを自分から教師に相談する姿も見られるようになってきた。本題材を通して、友達や教師と関わりながら、課題を解決しようとする姿を目指したい。

#### (2) 題材設定理由

6月に2週間にわたって初めての現場実習を行い、それぞれの事業所でメダカの生育やタオルたたみ、ポリパック結束、清掃、野菜の栽培、パソコンを使った業務など、さまざまな作業を経験した。実習の振り返りを行い、成果や課題を整理する中で「一歩目を踏み出すのが怖かった」や「自己紹介で話しかける言葉が分からなかった」、「周りの人と話せなくて気まずかった」などという具体的な悩みや困ったことを挙げる生徒が多かった。そこで、生徒が自分自身に合う解決策を見つけて実践していくことが必要であると考え、本題材を設定した。現場実習を通して困ったことに対する解決策を自分で考え、教師へのアンケート結果を参考にし、友達の考えを聞いたり意見を伝えたりして、自分に合った解決策を見つけていくという流れで学習を進めていく。

#### (3) 指導について（下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て）

##### 【生徒の願いや思いをもとにした学習活動の設定】

- ・ 生徒が実習で感じた悩みや困ったことを取り上げるために、一人一人にアンケートをとる。
- ・ 生徒の声をういてテーマを設定したり解決策をまとめたりする学習活動を設定する。

##### 【生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり】

- ・ 実習を振り返り、自分の中で困ったことを書き出すことができるように匿名で意見を集める。
- ・ 困ったことを似たような事柄でまとめられるように、テーマの例を提示する。
- ・ 自分に合った解決策を見付けられるように、アンケート結果の中から自分に合う答えを選択する機会を設定する。

##### 【自然な協働性を生むテーマ設定、学習集団の工夫】

- ・ 生徒自身が困ったことに向き合うことができるよう、同じ困り事のテーマの生徒でグループを編成する。
- ・ 自分の意見を伝えられるよう、付箋紙を使って意見を書き出して考えを整理する時間を設ける。
- ・ 友達の意見を聞いたり自分の意見を伝えたりする機会を確保するために、話し合いを進める流れを提示する。

### 3 題材目標 知：知識及び技能 思：思考力・判断力・表現力等 学：学びに向かう力・人間性等

- (1) 現場実習の中で困ったことに対する解決策を知る。知
- (2) 教師へのアンケートや友達の意見をもとに、解決するための手段を考える。思
- (3) 実習の困ったことや悩みと向き合い、自分にできそうな方法を見つけて改善しようとする。学

4 題材計画（総時間数5時間／本時5時）

時	学習活動	指導内容	評価規準 (知 思 主)
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して困ったことを書き出し、生活面、作業面、対人面、態度面のうち当てはまるものを考える。</li> <li>・困ったことを解決するために、教師へのアンケート用紙を作成する。</li> </ul>	A職業生活 イ職業 (イ) 職業生活に必要とされる思考力、判断力、表現力等を身に付けること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して困ったことを言葉にして表す。[思] [主]</li> <li>・困ったことを生活面、作業面、対人面、態度面のグループに分ける。[知] [思]</li> <li>・同じグループ毎でテーマを話し合い、アンケート用紙を作成する。[知] [思]</li> </ul>
(3 / 3時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートを集計する。</li> <li>・生活面、作業面、対人面における困ったことについて考えたり、友達と意見を交換したりする。</li> </ul>	A職業生活 イ職業 (イ) 職業生活に必要とされる思考力、判断力、表現力等を身に付けること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を集計し、友達との意見交換を通して困ったことへの自分に合った解決策を見付け出す。[思] [主]</li> </ul>

5 生徒の実態と目指す姿（太枠部分は対象児童生徒）

氏名・性別	実 態	単元を通して目指す姿
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、「実習先の人とうまく話せずに気まずかった」という課題を挙げた。</li> <li>・自信のなさから人前で話したり、伝わる声の大きさを話したりすることが苦手である。</li> <li>・言葉にすることに時間を要するが、気持ちや考えを言葉にして書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で困ったことを発表する。</li> <li>・アンケートの意見を参考にし、自分に合う解決策を、発表する。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、「苦手な虫が飛んできてびっくりした」という課題を挙げた。</li> <li>・気持ちや考えを言語化することが苦手であるが、選択肢を提示したり簡単な質問をしたりすることで言葉をまとめて表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を振り返り、困ったことを言葉にして表し、自分に合った解決策を選択する。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、困ったことは挙げなかったが、友達の困ったことを一緒に解決するという教師の提案を受け入れ、学習に臨んでいる。</li> <li>・興味や関心に沿うことで、学習に進んで取り組むことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で経験したことを言葉にしたり、友達の体験を聞いたりして、自分の実習について振り返る。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、「実習先の人と緊張して話せなかった」という課題を挙げた。</li> <li>・声に出すことや伝わる声量で話すことに課題があるが、自分の考えや気持ちを書いて表すことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を振り返り、困ったことを言葉にして書き表し、自分に合った解決策を選択する。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は5回登校しているが、職業の授業には参加していない。</li> <li>・実習期間中は、母がバリアフリーとジョブタスの見学に行き、母からその詳細を聞いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の実習先の紹介や報告を見て、感じたことを話したり書いたりする。</li> </ul>

F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の登校はまだない。</li> <li>・実習期間中は、母がごろりんはうすの見学に行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の実習先の紹介や報告を見て、感じたことを話したり書いたりする。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、「常にポジティブでいられる秘訣は何か」という課題を挙げた。</li> <li>・情報量が多いが、相手に伝えることは好きで、書いたり話したりして気持ちや考えを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を振り返り、困ったことについて向き合い、多くの意見を参考にして自分に合った解決策を見付ける。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、「方言などで相手の話していることが聞き取れなかった」という課題を挙げた。</li> <li>・気持ちが不安定になることがあるが、自分なりに切り替える方法を考えられるようになってきた。</li> <li>・教師と一緒に伝えたい内容を整理し、文にすることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で困ったことを言葉にして表し、自分に合った解決策を選択し、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、「やけどをしてしまったときにどんな対処や相談の仕方をすればよいか」という課題を挙げた。</li> <li>・自信のなさから時間がかかるが、気持ちや考えを言葉で伝えることが増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を振り返り、困ったことを言葉で表し、話し合いで自分の意見を伝えながら解決策を見付ける。</li> </ul>
J	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、「笑いのツボが浅くて集中力が続かない」という課題を挙げた。</li> <li>・教師の話し方によって内容を消極的に捉えてしまうことがある。</li> <li>・考えることについて脱線してしまうことがあるが、気持ちや考えを書いたり話したりして伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で困ったことを文章で表し、自分に合った解決策を見付け、発表する。</li> </ul>

## 6 本時の計画（5時中の5時）

### （1）本時のねらい

- ①コミュニケーションに関する課題について、テーマに沿って自分の意見を伝えたり友達の意見を聞いたりする。
- ②友達や周囲の人の意見を参考にして、自分に合う解決策を見付ける。

### （2）個別のねらい

氏名・性別	ねらい	手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に自分の意見を伝えたり、コミュニケーションをとるための自分に合った解決策を発表したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を伝えやすいように、「私なら〇〇する」などという話型を提示する。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や周囲の人の意見から、コミュニケーションに関する自分に合った解決策を選択する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決策の選択肢を絞って提示し、意見を示すためのシールを準備する。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションに関する自分に合った解決策を友達に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を分類しやすいように、アンケートの意見をまとめて提示する。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や周囲の人の意見を参考にして、コミュニケーションに関する自分に合った解決策を選択し、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や周囲の人の意見を読み取って選択しやすいように、キーワードに線を引く。</li> </ul>

E	・友達の実習先の紹介や報告を見て、感じたことを話したり書いたりする。	・実習先や実習内容について知ることができるよう、他の生徒の実習報告をまとめて提示する。
F	・友達の実習先の紹介や報告を見て、感じたことを話したり書いたりする。	・実習先や実習内容について知ることができるよう、他の生徒の実習報告をまとめて提示する。
G	・友達の見解を聞いたり、自分の意見を伝えたりして、コミュニケーションをとるための自分に合った解決策を見付ける。	・友達に意見を端的に伝えるために「私だったら〇〇する」などの話型や話合いの流れを提示する。
H	・友達や周囲の人の意見を参考にして、コミュニケーションに関する自分に合った解決策を選択し、自分の言葉でまとめる。	・解決策を自分の言葉でまとめられるように、アンケート結果の内容を簡単な言葉に置き換えて伝える。
I	・友達に自分の意見を伝え、コミュニケーションに関する自分に合った解決策を選択する。	・自分の意見を伝えやすいように「私なら〇〇する」などという話型を提示する。
J	・友達や周囲の人の意見を参考にして、作業面に関する自分に合った解決策を見付け、文章にしてまとめる。	・自分に合った解決策を文章でまとめられるように「〇〇〇〇ときは△△すればよい」などの話型を提示する。

### (3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 ※下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て
5	導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習の進め方を確認する。</li> <li>・本時のめあてを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの話合いでまとめたものを掲示する。</li> <li>・学習の進め方を提示する。</li> </ul>
	めあて：対人面のもやもやを解決する方法を見付けよう。	
30	展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを書き出す。</li> <li>・アンケート結果ののせた用紙に、「できそうシール」を貼る。</li> <li>・本時のテーマに沿って意見交換をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>アンケート結果の中から自分に合うものを示すことができるシールを準備する。(B、D)</u></li> <li>・自分にとっての解決策を考えられない場合、友達に合う解決策を見付けることを提案する。(C)</li> <li>・アンケート結果の内容を簡単な言葉に置き換えて伝える。(H)</li> <li>・生徒同士の話合いの中で、話す時間と聞く時間を確保するために発表の約束を提示する。(G)</li> <li>・自分の意見を伝えやすいように「<u>私なら〇〇する</u>」などというフレーズを提示する。</li> </ul>
15	まとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合った解決策をまとめ、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>自分に合った解決策を文章でまとめられるように「〇〇〇〇ときは△△すればよい」などのフレーズを提示する。(I)</u></li> </ul>
	まとめ：対人面のもやもやを解決する方法を見付けることができた。	

(4) 評価

<生徒の評価>

- ・テーマに沿って友達と話し合い、自分に合った解決策を選択し発表していたか。

<教師の手立ての評価>

- ・生徒がテーマに沿って話し合うことができるような約束や流れの提示をしていたか。
- ・自分に合った解決策を選択するための話型やシールの提示をしていたか。

(5) 配置図と板書計画

- ・グループ編成

<グループ1>

B、D、F、G、I

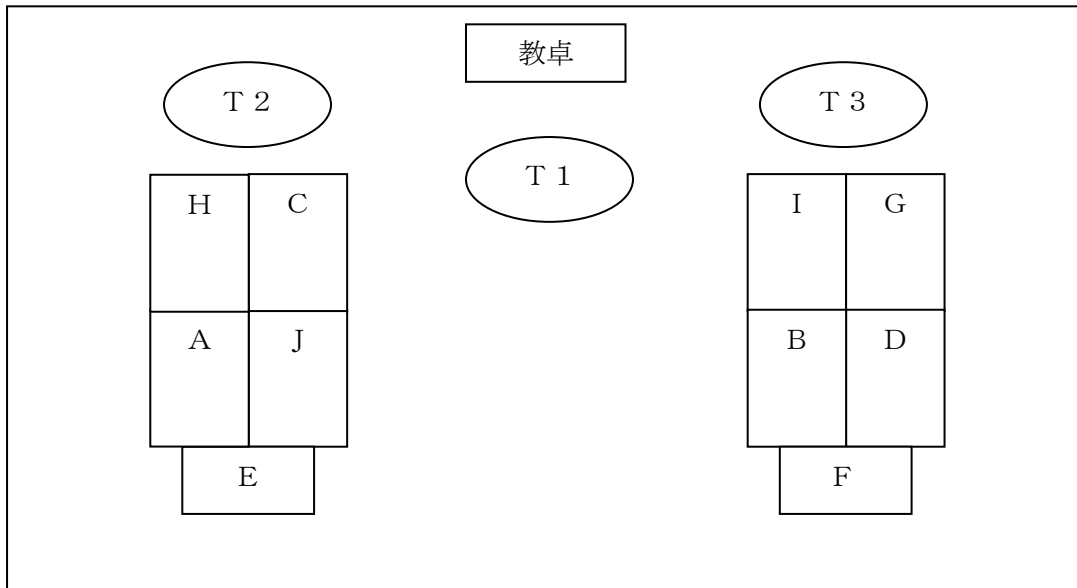
<グループ2>

A、C、E、H、J

- ・教室の配置

※T1～T3は、生徒が個人で考える際に支援をする。

話し合いの場面では、基本的に生徒同士で進められるような距離感を保ち、状況に応じてT2、T3がグループに付き、支援を行う。T1は、全体の進行とグループ間の橋渡し役となる。



- ・板書計画

※ホワイトボードを準備し、前回までに生活面、作業面の課題についてまとめたものを掲示する。

〇〇にステップアップ  
～もやもやを解決しよう～

めあて  
対人面のもやもやを解決する方法を見付けよう。

<進め方>

- 1 自分の考えを書く
- 2 グループの中で話し合う
- 3 「できそうシール」をはる
- 4 発表する

グループ1でまとめたもの

グループ2でまとめたもの

まとめ  
対人面のもやもやを解決する方法を見付けた。

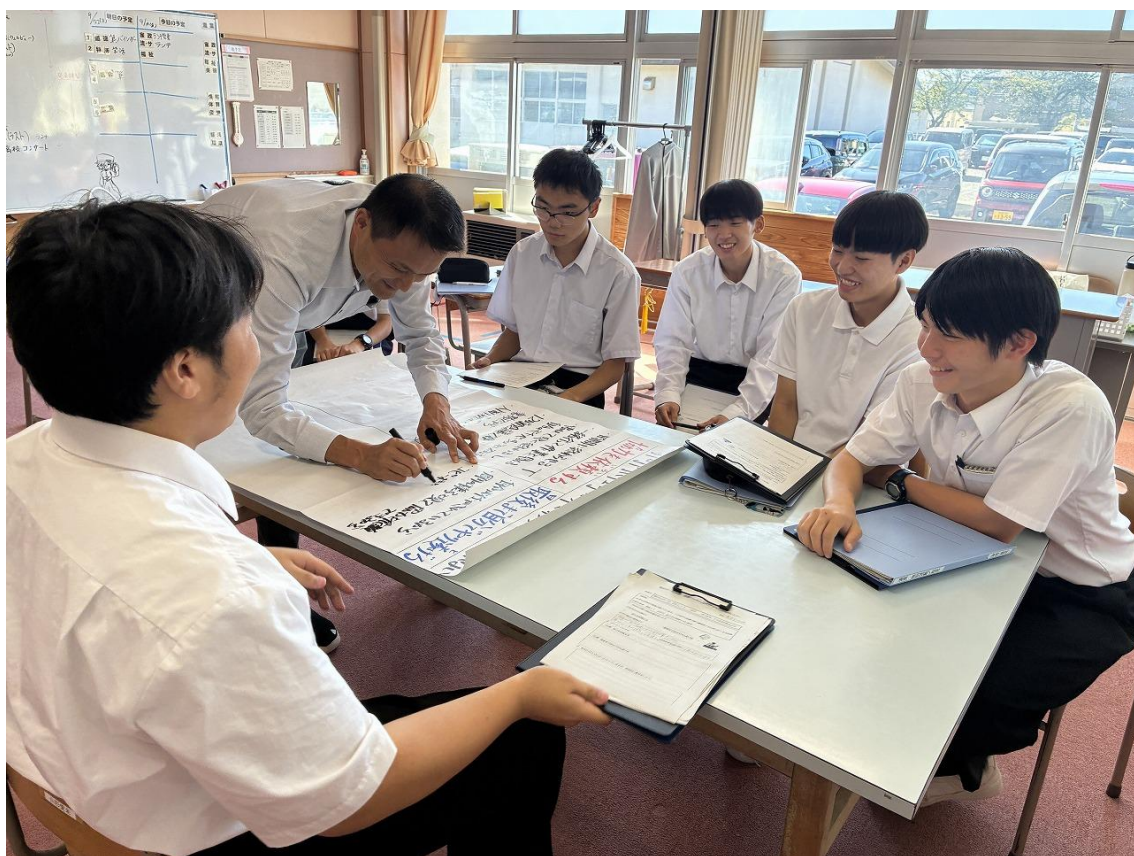
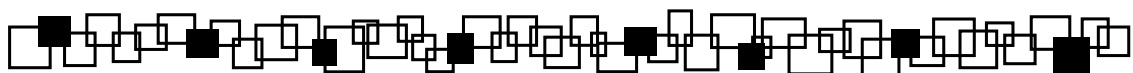
フレッシュ解決!!

(取り上げたい意見を書く)

- ・
- ・
- ・

# 高等部

## 総合サービス科研究



## 高等部総合サービス科 研究

～生徒が自己理解を深め、なりたい自分に向かって行動する姿を目指して～

### 1 学科研究テーマ設定理由

今年度は、「生徒が自己理解を深め、なりたい自分に向かって行動する姿を目指して」という研究テーマの下、授業実践を行った。テーマ設定に際しては、生徒の実態や昨年度までの研究成果や課題などを取り入れた。

本学科の生徒の実態として、全員が一般就労を希望し、入学をしている。これまでの学習の積み重ねにより、自分の考えや意見をもつことができ、自分の思いを進んで表現できるようになってきた。一方で自分のよさや課題への理解が曖昧であり、自己評価と他者評価に差異がある生徒がいる。学科全体の傾向として、「正しく自己理解」することや「自己理解を深めていくこと」に課題があると考えた。職業選択をする際や充実した社会生活を送る上でも、この「自己理解」の精度を高めていくことが鍵になると考え、本研究におけるキーワードに設定した。

また、昨年度は「自ら気づき、考え、学びを表現する姿を目指して」を研究テーマとし、授業実践を積み重ねた。異学年の学び合いや校内外の人材との連携は効果的な取組であったことから今年度も継続していくことを学科で確認した。一方で、生徒の目指す姿を明確にすることや生徒自身が自分や相手のことを考える機会を増やし、相互理解を進めていく必要があることも分かった。これらのことから、自己理解を深めることや生徒が将来、どのような人物になりたいかを考える機会を大切にしていけることを重点に、本研究テーマを設定した。研究対象授業については、生徒が自らの将来を考え、自己実現をするための素地を育む教科であることや、学年合同で取り組むことができるよさを鑑みて道徳科を選定した。本研究をきっかけに指導の基礎や内容の取り扱いについて学科全体で確認する機会にしながら、研究テーマにある生徒の姿を実現していきたいと考えた。

### 2 研究仮説

「生徒が自己理解を深め、なりたい自分に向かって行動する姿」を目指し、協働的な授業実践を積み重ね、生徒が自分のよさや課題に気づき、将来の姿を具体的に考えることで、目的や目標が明確になり、生き生きと学ぶ生徒の育成が図られるだろう。

### 3 研究の内容と取組の実際

#### (1) 生徒理解を目的とした各シートの活用

##### ①目標達成シートの作成

なりたい自分の姿をイメージできるように、好きなことや苦手なこと、目標を叶えるためにできることなどを生徒自身が記入した。(写真1) 生徒の率直な思いや願いがシートに記入され、教師が生徒を改めて捉え直す機会にもなった。本シートにはマンダラチャートを取り入れ、生徒がなりたい自分に向かって何をすべきか具体的に記入できるような様式とした。(資料3) シートは学科生徒全員が作成し、7月に記入し12月に各学年で中間評価を行った。目標達成のために実践できているところは色を付け、改善が必要なところは修正をするなど、生徒が自分自身と向き合うためのツールとして効果的だった。



写真1 シートの記入

## ②自立活動シートの作成

生徒の困り感や今後伸ばしていきたい力を明確にするために、各学年から1名ずつ対象生徒を抽出し、「自立活動シート」（資料4）を教師が作成した。シート作成を通して、障害特性による学習上、生活上の困難さが明らかとなり、具体的な手立てを検討した。手立てを検討する際は、生徒のよさや強みを生かすことを大切にし、前向きな視点で生徒を指導、支援していくことを学科全体で共有した。

## （2）生徒の学び方の分析

### ①学び方アンケートの実施

生徒の学び方（得意な情報処理の仕方）を知るために「学び方アンケート」（資料5）を実施した。参考書籍（「継次処理」と「同時処理」学び方の二つのタイプ 藤田和弘 著 図書文化2019年）を基にアンケートを作成し、生徒自身が記入した。教師が生徒の得意な情報処理の仕方を知ることによって、その生徒に適した情報の示し方や伝え方を工夫することへとつながった。また、自分の情報の受け取り方や整理の仕方を自己理解する機会にもなった。

### ②授業の動画記録の蓄積

日々の授業において、道徳科の授業を動画で記録し、生徒の様子を教師が確認した。特に生徒同士のやりとりの場面を見返したことで、生徒の発言や行動の背景を考える機会となり、発問や授業構成を再考できた。発言が少ない生徒への支援として教師の言葉掛けのタイミングや環境設定についてアイデアも生まれ、次時の授業改善ポイントを明らかにできた。（写真2）



写真2 授業動画の視聴

## （3）異学年の学び合い

昨年度までの研究成果として挙げられた異学年での対話や交流は、生徒の新たな気付きや考えが生まれる機会となるため、今年度も継続して取り組んだ。特に道徳科では、多様な見方・考え方に触れ、自身を見つめ直すことが大切とされているため、異学年で学び合う機会を意図的に設定した。経験値が異なる集団で話し合い活動を積み重ね、様々な意見を出し合う機会を設けたことで、生徒たちの思考が深まった。また、グループでの話し合いの内容や生徒個人の考えなどを廊下に掲示したことで、多様な意見があることを知り、自分の考えを再構築する姿も見られた。

## （4）研修会の実施

年度初めに学科職員を対象に研究アンケートを実施した。アンケートでは道徳科の指導方法や教材の選び方についてなど、日々の授業で悩んでいる点が明らかになった。そこで、秋田県総合教育センターより講師をお招きし、8月に道徳研修会を実施した。研修では、授業づくりの流れや発問の考え方、教材の扱い方など、演習を交えて体験的に教えていただいた。特に道徳における評価は、生徒が「道徳的価値を理解しているか」や「自分自身の考えを深めようとしているか」などの視点が大切であるとお話があり、授業づくりのベースを学科全体で確認した。9月に実施した学科授業研究会では、授業への助言のほか、小中学校での実践なども紹介していただき、今後の授業改善につながる実りある機会となった。

## 4 授業の実際

### 第1学年～第3学年 道徳科「相互理解・寛容 ～みんなちがって、みんないい～」9月29日(月)

本題材では、道徳科の内容項目「相互理解・寛容」を取り上げ、多様な価値観や考え方があることを知り、互いに尊重し合う気持ちを育むことを目指している。生徒が身近に経験したことをテーマや事例に取り上げ、登場人物の心情や背景などを推察したり意見交流したりすることを通して、物事を多面的・多角的に捉える思考を醸成していきたいと考え、本題材を設定した。

#### (1) 事前授業検討から

##### <教材について>

- ・生徒が考えるテーマには答えがなく、中立性が高いものにする。
- ・生徒の変容を蓄積するために、本時のワークシートと題材を通して記入する振り返りシートの2種類を用意する。

##### <TTの連携について>

- ・言葉での表出が少ない生徒に対しては、一人で考えをまとめる時間に教師が支援に入り、生徒の考えや意見を言語化する。
- ・生徒が意見を出しやすいように、どのような意見も受け止める姿勢で関わる。

##### <環境設定について>

- ・生徒がテーマに対して様々な見方、考え方ができるように、ディベートの形式を取り入れる。
- ・生徒から出された意見が視覚的に分かるように、模造紙に記入する。

##### <学習の流れについて>

- ・学習への見通しがもてるように、テーマを変えながら同じ流れでディベートを行う。
- ・グループの友達と意見交流がしやすいように、アイスブレイクの時間を設ける。

#### (2) 授業協議から

##### <教材について>

- ・題材を通して記入している振り返りシートが生徒の本音を引き出す手立てとして有効だった。本時のワークシートと振り返りシートを分けたことで、生徒が内面にもつ本心を可視化する一助となった。
- ・事例場面をイメージできるようにイラストを示したが、提示の仕方や場面の切り取り方によって生徒がもつ印象が変わるため、留意が必要だと感じた。

##### <教師と生徒のやりとりについて>

- ・「なぜ?」「どうして?」と生徒の思いを引き出そうとする問い掛けが効果的だった。
- ・教師が生徒の発言を肯定的に捉え返し、話しやすい雰囲気がつくられていた。
- ・登場人物の内面に迫る発問はとても難しいと感じた。生徒の気持ちを深く掘り下げる問いをさらに工夫していきたい。

##### <生徒の学ぶ姿について>

- ・友達とのやりとりを通して、意見を考え直す生徒がいた。
- ・頷きや相づちなど、言葉以外で表出する生徒が見られた。
- ・生徒が友達の意見を聞いたり、自分の意見を論理的に伝えたりする姿が見られた。(写真3)



写真3 意見を伝え合う様子

### (3) 指導助言から

- ・小グループでのディベート形式は生徒の意見を引き出すよい機会となり、有効であった。
- ・安心感のある中で授業が展開され、生徒たちが発言しやすい雰囲気づくりがなされていた。
- ・言葉での表出が少ない生徒の思いをどのように引き出すか工夫していく必要がある。
- ・単発的な意見交換とならないよう、生徒たちには自らの経験と関連させて思考できるような手立てが必要となる。意見交換をする際に気を付ける三つのポイントとして、①テーマを狭めすぎない、②生徒の経験を引き出す発問、③生徒の心を揺さぶる切り返しが必要となる。特に②③では、生徒が自らの考えを見つめ直すことができるように「本当にできるかな?」「同じような経験があった?」などの問い直しをしてみてもどうか。
- ・小中学校では子どもたちに思考を深めてもらうために、「物分りの悪い教師を演じる」ことが大事と言われている。「それはどういうこと?」「もう少し教えてくれる?」など、生徒が考え、自分の言葉で伝える機会を設定してほしい。

#### ＜学科授業研究会における学科研究テーマと関連するキーワード＞

「生徒の心を揺さぶるやりとり（発問や切り返し）の充実」

## 5 まとめ

### (1) 成果

#### ①自己理解と他者理解の深まり

道徳の授業を通して、様々な視点で物事を考える力が育まれた。生徒同士のやりとりを積み重ねたことで、相手の気持ちや考え方を受け止め、自分の意見は本当に正しいのかと考える姿が見られた。なかなか本音を言いにくい生徒は振り返りシートに「実はこう思っていた」と意見を記述するなど、言葉の表出が少ない生徒も自分自身と向き合う姿が見られた。

#### ②生徒の内面に着目した指導の充実

発問や手立ての考え方など道徳科の授業づくりを通して、生徒の内面に迫るための効果的な指導方法を理解した。本題材で有効だったディベートや振り返りシートを活用したことで、生徒が自分と少しずつ向き合おうとする姿勢の変化が見られた。研究テーマにある「自己理解を深めること」や「なりたい自分の姿を明確にする」ためには生徒の内面に迫る教師の働き掛けが大きいことが分かった。研究テーマに迫るための手立ての幅や質を一層高めていきたい。

### (2) 次年度に向けて

#### ①生徒のよさや得意な学び方を生かした指導・支援の充実

生徒に学び方アンケートを実施したことで、得意な認知処理方法について理解することができ、生徒自身の自己理解につながった。生徒それぞれに適した学び方を知ること、教師の伝え方が変わり、生徒への支援の質が高まった。今後もこの視点を大切に、授業づくりを行っていきたい。

#### ②生徒の心を揺さぶるやりとり（発問や切り返し）の充実

今年度の実践で生徒が思考するきっかけを教師が意図的に設定する大切さを感じた。社会で求められる模範解答を答える授業に終始することなく、今後も教師の問い掛けや切り返しの質を高め、生徒の本音や本心を引き出すやりとりを充実させていきたい。

記入日 年 月 日  
氏名 \_\_\_\_\_

○いまの自分を見つめて

好きなこと	例) 太鼓演奏、ラーメン屋巡り なんでもOK	生徒が記入した後、個人面談のときにさらに深掘りできればと思います。
長所 (得意なこと、いいところ)	例) ○○○作業が得意、○○○を集中してできる、○○○な性格なところ など	
課題 (苦手なこと、苦手な状況)	例) △△△が苦手、でも□□□をすると頑張れる	「苦手だけど○○するとできる」など、対策まで書ける人がいればいいと思います。
やってみたいこと、知りたいこと	例) 学校で○○○を教えてほしい、将来△△△をやってみたい	

○なりたい自分をイメージしよう (卒業後の目標)

卒業したら \_\_\_\_\_

○なりたい自分に近づくために

	目標①			目標②	
			健康維持	挨拶	目標③
	目標④		目標④	就職	目標⑤
			目標⑥	目標⑦	目標⑧
	目標⑥			目標⑦	

**マンダラチャート書き方**  
 ①中心の目標を立てる  
 ②中心の目標を達成するための8つの要素を考える  
 ③各要素を達成するための行動目標を考える  
 詳しくは記入例 (大谷翔平マンダラチャート) を見てみるとイメージがつくかと思います。

8つの要素の参考として、「実習評価表」にある「項目」のキーワードを活用したいと思います。

現場実習評価表

実習生	高等部総合サービス科							
実習期間	令和7年	5月	26日	～	6月	6日	【10日間】	
出勤状況	出勤	日	欠勤	日	早退	日	遅刻	日

1 評価項目に沿って、○印を御記入ください。  
 【評価】 a: 良い b: 普通 c: 努力してほしい d: 改善が必要

項目	具体的項目	評価				
		a	b	c	d	
Ⅰ 生活面に関する評価	欠勤、遅刻、早退	日課に沿って毎日勤務する				
	健康維持	健康を維持している/必要な対応をする (不調を訴える、服薬する、休む等)				
	身だしなみ	衣服や身の回り (ひげや爪など) を清潔に整えている				
	衣服の調節	季節や状況に応じて汗の処理や衣服の調節をする				
	規範	決まりを遵守する/周囲に迷惑をかけずに行動する				
	危険回避	安全に配慮して行動する/危険なことをしない				
	交通	安全に通勤する (自力/交通機関/送迎利用/家族の協力等)				
	物の管理	所持品や交通費等がある程度自分で管理する				
Ⅱ 対人面に関する評価	挨拶・返事	挨拶をする/返事をする				
	言葉遣い	適切な言葉遣いで話す/適切な方法で意思を伝える				
	お礼	礼を伝える/感謝の気持ちを伝える				
	謝罪	謝罪に謝る/非を認める				
	情緒の安定	穏やかに過ごす/感情を自制する				
	意思の表明	自分の意見を伝える/同意不同意を他者に伝える/意思を表す				
Ⅲ 作業面に関する評価	協調	他者と協調して関わる				
	緻密性	きめ細かい作業をする/細かいところに気を配って作業する				
	正確性	正しく確実に作業する/基準を満たすように作業する				
	効率性	無駄な動きなく作業する/資源等を無駄にせず作業する				
	生産性	作業時間に応じた成果を出す/知識や技術を身に付けている				
	安定性	むらなく作業する/環境や状況の変化に動じず作業する				
	理解力	物事の仕組みや状況を理解して行動する/指示通りに作業する				
	持久力	作業に必要な体力や筋力がある/長時間の作業でも気力や体力が持続する				
忍耐力	プレッシャーに耐える/辛さや怒り等を我慢して適切に対応する					
判断力	物事を正しく認識して適切に行動する/状況に応じた判断をして作業を進める					

担任から \_\_\_\_\_

保護者から \_\_\_\_\_

# 自立活動シート

資料 4

## ① 実態把握

学年・氏名 \_\_\_\_\_


学習・生活の中で見られる長所や課題，指導に生かせる情報を把握する

障害の状態 興味・関心 発達・経験等	
--------------------------	--

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

## ② 中心課題と手立て

実態把握に基づいて指導すべき課題を焦点化し、授業で生かせる手立てを考える。

課題と手立て	< 中心課題 >	< 手立て >
		

令和7年 月 日 ( )  
年 氏名 \_\_\_\_\_

12個の質問があります。

「AとBの二つのうち、自分はどちらかといえばこっちだ」と思うものに○を付けてください。

Q1 文章を読むときに理解しやすいのはどちらですか。

- A 黙読よりも音読のほうが内容を理解できる
- B 音読よりも黙読のほうが内容を理解できる

Q2 漢字を書くときに、どんなところが難しいですか。

- A 漢字のへんやつくりなどの部分は書くことができるが、へんとつくりが逆になってしまうなど、全体的な配置を間違えてしまうことがある。
- B 漢字のおおまかな形は分かるが、細かいところ（例えば…目か日か、田か口かなど）を間違えてしまうことがある。

Q3 作文（例えば…〇〇の思い出）を書くときにどちらのほうが書きやすいですか。

- A 時間の経過に沿ってはじめてから順番に「いつ、誰が、誰と、どこで、何を、どうした」などを思い出して整理すると書きやすい。
- B 「一番楽しかったのは、どこでどんなことをしたときか、苦しかったことはどこでどんなことをしたときか」など、印象に残ったことを思い浮かべると書きやすい。

Q4 物語を読んで人に教えるとき、どのように説明できますか。

- A 物語の細かい内容をつかんで、くわしく説明することができる。
- B 物語のあらすじをまとめて、簡単に説明することができる。

Q5 算数・数学で計算問題を解くとき、どちらが当てはまりますか。

- A 計算のやり方や解き方のパターンが分かれば、それにそってできる。
- B 計算は正確にできなくても、計算の答えのだいたいの数を求めることができる。

Q6 算数・数学で文章問題を解くとき、どちらが当てはまりますか。

- A 文章題で式を立てて計算することはできても、その計算を間違え、答えがとんでもない数になっていても気がつかないことがある。
- B 文章題で、式は立てられなくても、文章の意味を考えて、答えの大体の数を言い当てることができる。

Q7 英単語について、どちらのほうが理解しやすく覚えやすいですか。

- A 新しい英単語は、口頭で説明や発音を聞くことで、理解したり覚えたりすることができる。
- B 新しい英単語は、文章の物語などを読むことで、理解したり覚えたりすることができる。

Q 8 料理を作るとき、どちらのほうが作りやすいですか。

- A レシピに順序が示されていて、何をどのように切るか正確な説明があると、正しく調理できる。
- B 食材や調味料が用意されていて、できあがりの写真があれば、自分で考えて調理することができる。

Q 9 制作するときに、どちらのほうがうまくいきますか。

- A 小さなパーツを組み立てて、最後にそれらのパーツとパーツを組み合わせるとうまくできる。
- B どこにどのように配置するか大まかな部分から考え、その後、細かいパーツを組み立てる工程だとうまくできる。

Q10 劇を行うときにどちらに当てはまりますか。

- A 一つ一つのセリフをいつ、どのようなときに言うか理解し、正確に伝えることができる。
- B 場面と目的が理解できていれば、正確なセリフではなくても、アドリブでふるまうことができる。

Q11 「これから行動すること」について先生から指示される時、どちらのほうが動きやすいですか。

- A どのように行動したらよいか、細かな点まですべて説明されると動くことができる。
- B どのように行動したらよいか、目的を説明してもらえば大体動くことができる。

Q12 「これから行うこと」についての先生の説明はどちらの方が実行しやすいですか。

- A 何をやったらいいのかわかり「始めに～する、次に～する」というように、口頭で詳しく説明してもらえば、やることを理解して行動できる。
- B 何をやったらいいかわかり、映像や演示でその様子を見せてもらえば、やることを理解し行動できる。

A _____ 個	B _____ 個
<p><b>Aが多かった人</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・順番に伝えてもらうと理解しやすい</li><li>・聞いたり、読んだり、伝えたり、言葉にすることで内容が理解しやすい</li></ul> <p>例) ベッドメイキングの方法を伝えます</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①古いシーツを小さくまとめます</li><li>②新しいシーツを中心に合わせて敷きます</li><li>③頭側を三角折りにします</li><li>④・・・</li><li>⑤・・・</li></ul>	<p><b>Bが多かった人</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・はじめに全体像を伝えてもらうことで内容を理解しやすい</li><li>・見たり、動いたりすることで内容を理解しやすい</li></ul> <p>例) ベッドメイキングの方法を伝えます</p> <p>まずは先生が見本を見せながら説明します。</p> <p>次に先生のまねをして実際にやってみましょう。</p>

日 時：令和7年9月29日（月）9：45～10：35

場 所：福祉実習室、各学年教室

生 徒：男子12名、女子10名、計22名

指導者：畠澤裕佳（T1）、中野貴洋（T2）

泉 良昌（T3）

## 1 題材名

「相互理解・寛容」

～みんなちがって、みんないい～

## 2 生徒と題材

### (1) 生徒について

高等部総合サービス科は、1年生8名（男子5名、女子3名）、2年生7名（男子3名、女子4名）、3年生7名（男子4名、女子3名）の計22名が在籍しており、全員が一般就労を目指している。

どの学年も様々な学習の中で対話的活動を積み重ね、自分の意見や考えを友達や教師に伝え、また相手の話を聞きながら、「いいね。」や「なるほど！」と共感する姿が見られている。自分の意見を整理することが苦手で時間が掛かる生徒もいるが、事前に考える時間を設けたり、友達と意見交流をしたりすることで、自分で考えをまとめ、伝えられるようになってきている。また、2、3年生の中には、これまでの経験や活動を通して周りの友達や下級生の立場、相手の気持ちをくみ取って行動しようとする生徒もいる。一方で、思い込みが強く、否定的に物事を捉える生徒や、周りの気持ちを考えず自分のことを優先する生徒もいる。また、日常的な雑談はできても、自分の思いを伝えることは苦手で、自分の考えや行動に自信をもてない生徒もいる。

昨年度の道徳の授業では、2、3年生は「尊重」について3学年の縦割りグループで話し合い、劇やクイズ等を考え発表する学習を通して、相手の意見を否定せず受け入れる大切さを学んできた。今年度はこれまで3学年の縦割りグループで、礼儀（挨拶・身だしなみ・言葉遣い）の大切さに関する発表に向け、話し合い活動を行ってきた。主に2、3年生が中心になり、これまでの経験を生かしたアイデアや意見を自分から伝え、「なぜ挨拶は必要なのか」や「よい言葉遣いは相手もよい気持ちになる」などの意見を出す生徒の姿が見られた。1年生は初めての縦割りグループ活動で、周りの話をよく聞いたり、上級生から意見を問われた際に自分の意見を伝えようとした様子が見られた。

### (2) 題材設定理由

将来の自立と社会参加を目指す生徒にとって、他者とよりよい関係を築いていくことは極めて重要な力であると考え、学校卒業後を見据え、様々な物事について多角的な視点を持ちながら自分の考えや意見を発信するとともに、様々な人の考えや意見を理解しようと互いに尊重することがよりよい関係づくりのために大切になる。そこで、中学校学習指導要領特別の教科道徳、内容項目B - (9)「相互理解・寛容」の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」がよりよく生きるための基盤になると考えた。

本題材では、最初に自己と他者の個性を理解し尊重することができるよう、自分の長所や課題、得意なことなどについて考えるとともに、友達のいいところ探しを行う。それを踏まえ、人の見方や考え方にも個性があることを理解し、テーマや事例を基にディベートを実施する。これらの学習を通して、広い視野をもって物事を考え、自分とは異なる見方や考え方を受け入れようとする態度が育まれると考える。

様々な価値観の中で自他の個性や意見を尊重しながら、自分の意見を周りに伝えたり、多角的に考えたりする学習を通して、様々な相手や状況において謙虚な気持ちをもって周りの人と意見を伝え合ってほしいと考え、本題材を設定した。

### (3) 指導について（下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て）

【児童生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり】

- ・本題材では、「テーマや事例について自分の意見を考える」「意見交流」「再度テーマについて自分の意見を考える」を一連の流れとして実施する。
- ・話し合いが活発になるよう、授業の導入では生徒の興味関心の高い身近なテーマでアイスブレイクを行う。なお、全員が安心して意見を伝えることができるよう、伝え方や順番などを指定して実施する。

- ・自分の考えをまとめられるよう、話し合う前に一人で考える時間や近くの人と意見を交換する時間を設ける。
- ・自分の立場や意見をありのままに表現することができるよう、中立的なテーマや事例を設定する。

#### 【自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫】

- ・授業の導入では、5分間程度のアイスブレイクを3～4人の少人数グループで毎時間実施し、異学年同士で伝え合う雰囲気をつくる。
- ・生徒それぞれの経験値の違いによる様々な意見を共有し合うことができるよう、3学年の縦割りグループを編成する。生徒全員が自分の意見や考えを表現する機会を増やすことができるよう、グループの人数を7～8人とする。
- ・ディベートでは、最初にテーマや事例に対する自分の立場を考えた後、議論を行い、再度自分の立場や対応を考える時間を設定する。立場に応じて様々な角度で物事を考えたり、友達の意見を聞いて自分の考えを広げたりすることで、いろいろなものの見方や考え方を学ぶ大切さや、自分の考えの変容を実感することができるように考える。

#### 【多様な場や人材の活用】

- ・ディベートで扱う事例は、自分のこれまでの経験を生かして様々な角度から意見を考えたり、課題意識をもって活動したりすることができるよう、総合サービス科の専門教科（流通・サービス、家政、福祉）や今後の社会生活に関連する内容を設定する。

### 3 題材目標

様々な意見や考えを尊重しながら、意見を伝え合うよさに気づき、広い視野と心で物事を考えようとする態度を養う。

### 4 題材計画（総時間数8時間／本時7時）

時	学習活動	指導内容	評価規準
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や得意なこと、課題を振り返ったり、友達のよいところを見付けたりする。</li> <li>・相互理解をするために自分がしていること/できることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「相互理解・寛容」</li> <li>・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性を尊重する。</li> <li>「個性の伸長」</li> <li>・自己を見つめ、自己の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達について日常生活やこれまでの経験を振り返り、考えようとしている。</li> <li>・自分を理解してもらおう/相手を理解するために必要なことについて、これまでの生活から考え、今後の生活に生かそうとしている。</li> </ul>
6 (5/6時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言動から想定される様々な背景を考える。</li> <li>・テーマに応じたディベートをする。</li> <li>①コミュニケーションに大切なことは？ (話すこと/聞くこと)</li> <li>②接客で小さい子どもへの話し方はどうする？ (マニュアル通りの言葉/親しげな言葉)</li> <li>③時間内に仕事が終わらないときどうする？ (協力する/やり遂げる)</li> <li>④高齢の方がずっと話しているときどうする？ (そのまま聞く/自分も話す)</li> <li>⑤意見が合わない人がいたらどうする？ (多数決をとる/話し合う)</li> <li>・事例に応じた自分の対応について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「相互理解・寛容」</li> <li>・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、いろいろなものの見方や考え方があることを理解すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマや立場に応じて、様々な角度から捉えて考えようとしている。</li> <li>・いろいろな意見と自分の意見を比較しながら、自分の考えを捉え直そうとしている。</li> <li>・相手や場面が変わっても、広い視野をもって謙虚に、他者から学ぶ大切さを感じ、実生活に生かそうとしている。</li> </ul>

## 5 生徒の実態と目指す姿（太枠部分は対象生徒）

### 1 グループ（1年教室）

氏名・性別	実 態	単元を通して目指す姿
A 1年・女	日常生活の中で多面的に物事を捉えることに課題はあるが、具体的な事例については様々な角度から考える。	事例について自分の見方だけではなく、様々な角度から捉えて考えようとしたり、学習を生活に生かそうとしたりする。
B 1年・男	自分で考え、意見を整理することが苦手だが、親しい相手と意見交換をして、自分の意見を整理する。	周りの人の意見を参考にしながら自分の意見を整理し、表現しようとする。
C 2年・女	自分の気持ちや意見を簡潔に伝えることに課題はあるが、紙に書き出すことで内容を整理し自分の思いを伝える。	様々な意見や考え方があることを知り、友達とのやりとりを通して自分の考えを深めようとする。
D 2年・女	自分の考えや意見をまとめることは苦手だが、考える時間を十分に設けることで意見をまとめ、話す。	友達や教師とのやりとりなどを通して、自分の意見や考えを深めようとする。
E 2年・男	物事を多面的に捉えることは苦手だが、相手の話をよく聞き、自分の気持ちも具体的に話す。	友達や教師とのやりとりを通して、様々な見方や考え方があることを知り、自らの意見や考えを深めようとする。
F 3年・女	自分の気持ちを言葉にするまでに時間は掛かるが考える時間を設けたり、例えを示したりすると自分で話す。	友達とのやりとりを通して、気付いたことや分かったことを取り入れ、自分の意見を整理しようとする。
G 3年・男	語彙の少なさから、抽象的な表現になることもあるが、自分の気持ちを素直に話す。	周りのいろいろな意見を参考にしながら、自分の意見を整理し、最後まで話そうとする。
H 3年・女	自分の気持ちを適切な言葉で表現することは苦手だが、メモを取りながら話を聞くことで自分の考えを整理する。	自分の意見を適切な言葉にして、最後まで全体に話そうとする。

### 2 グループ（2年教室）

氏名・性別	実 態	単元を通して目指す姿
I 1年・女	自分の意見に自信がもてないことがあるが、周りの意見を参考にし、自分の意見に取り入れようとする。	意見を周りの人に伝えたり、周りの人の意見と照らし合わせて自分の意見を再構築したりする。
J 1年・男	自分と異なる意見を受け入れることに課題はあるが、いろいろな角度から物事を考えようとする。	自分とは異なる意見を認め、自分の意見と照らし合わせながら意見や考えを一層深めようとする。
K 1年・男	自分の意見を整理することは苦手だが周りの意見や考えに触れることで自分の意見を考える手掛かりにする。	友達や先輩とのやりとりを通して、気付いたことや分かったことを取り入れ、自分の意見を整理する。
L 2年・女	集団の場で積極的に発言する機会は少ないが、個別に聞くと自分の意見や考えを具体的に話す。	自分の意見や気持ちを伝え、相手の話を聞きながら、自らの考えを見つめ直そうとする。
M 2年・女	相手の話を受け入れ、肯定的に捉えることに課題はあるが、自分の考えをはっきりともち、相手に伝える。	先輩や後輩とのやりとりを通して様々な見方や考え方があることを知り、物事を肯定的に捉えようとする。
N 3年・女	自分の考えを整理して言葉にすることは苦手だが、事前に考える時間を設け、考えをまとめる時間があれば意見を話せる。	友達や教師とのやりとりを通して、自分の意見を見直し、ワークシートに記入したり、意見を話したりする。
O 3年・男	意見を求められると自分なりの考えを発言する。他の人の意見もよく聞いていて、疑問に思ったことは確かめる発問をする。	相手の発言を丁寧に聞き、内容に応じた返答や相づちをうちながら、自分の考えを深めようとする。

### 3 グループ（3年教室）

氏名・性別	実 態	単元を通して目指す姿
P 1年・女	意見を整理し伝えることは苦手だが、周りの意見をよく聞き、自分の意見に取り入れようとする。	周りの人の意見を照らし合わせて、様々な内容や立場に応じた自分の意見や思いを表そうとする。
Q 1年・男	周りの意見を素直に聞き入れ、異なる意見でも理解しようと質問したり、自分で考えようとしたりする。	友達や先輩とのやりとりを通して、気付いたことや分かったことを取り入れ、自分の意見を整理する。
R 1年・男	一つの見方で考えることは多いが、周りの言動を受けて自分から他の考えや意見に気付く。	いろいろな意見を考えようとしたり、周りの人の意見を理解し、自分の考えを見直したりする。
S 2年・男	相手の意見を受け入れることに課題はあるが、自分の意見をもち、積極的に発言する。	相手の気持ちを考え、異なる意見に対しても前向きな言葉でやりとりし、自らの考えを深めようとする。
T 2年・男	自分の気持ちを素直に伝えたり、相手に積極的に質問し、自らの考えを深めようとしたりする。	様々な意見があることを知り、自分なりの意見をまとめ、相手に伝えようとする。
U 3年・男	独特な表現や言葉を使うため意図が伝わらないこともあるが自分の気持ちを言葉にして表現する。	自分の意見や思いを周りに正しく伝えるために、他の人の気持ちを丁寧にくみ取って、適切な言葉を選んで話そうとする。
V 3年・男	自分なりの意見を発表したり、発言に苦労している友達に話題を提供したりし他者の意見も大切にしようとする。	様々な角度からいろいろな意見を考えたり周りの意見に付け加えたりして、自分や周りの考えを深めようとする。

### 6 本時の計画（8時中の7時）

#### （1）本時のねらい

様々な角度から物事を考える大切さに気づき、広い視野をもって生活していこうとする態度を養う。

#### （2）個別のねらい

##### 1グループ（1年教室）

氏名・性別	ねらい	手立て
A 1年・女	様々な角度からテーマについて考え、自分の考えを深めようとしている。	「どうしてだと思いますか。」「どんな気持ちだと思いますか。」と問い掛ける。
B 1年・男	友達や先輩の意見を聞きながら、自分の意見を考えようとしている。	周り意見交換する時間を設けたり各グループで出た意見を模造紙で掲示したりする。
C 2年・女	様々な見方があることを知り、自分の考えを深めようとしている。	友達の意見と比較して、教師が「どうしてそう思いましたか。」と問い掛ける。
D 2年・女	教師とのやりとりを基に、様々な視点で自分の考えを整理しようとしている。	自分の意見や考えを整理したり、友達の意見を見比べたりする機会を設ける。
E 2年・男	友達や教師とのやりとりを通して、様々な視点で考え、自分の意見を見直そうとしている。	「どうしてだと思いますか。」「なぜそうしましたか。」と問い掛ける。
F 3年・女	友達や後輩とのやりとりを通して、自分の意見をまとめようとしている。	自分の感じ方や考えを整理して、意見として発表する時間を設ける。
G 3年・男	様々な捉え方や感じ方があることを知り、自分の考えを深めている。	自分の感じ方や考えを整理し、気付いたことを自分で整理する。
H 3年・女	友達や教師とのやりとりを通して、自分なりの意見をもとうとしている。	自分の考えを整理して、意見として発表する時間を設ける。

## 2 グループ（2年教室）

氏名・性別	ねらい	手立て
I 1年・女	これまでの経験から感じたことを重ねて事例について考えようとしている。	「自分が～な立場だったらどうですか。」や「いままで経験はありますか。」と問い掛ける。
J 1年・男	周りの様々な意見と自分の意見を照らし合わせ、自分の考えを見直そうとしている。	周りの意見を受けて再び自分の意見を考える時間を設ける。
K 1年・男	友達や先輩とのやりとりを通して、自分の意見を考えようとしている。	自分の意見や考えを整理し、友達の意見と比較する時間を設ける。
L 2年・女	周りの様々な意見と自分の意見を照らし合わせ、自分の考えを見直そうとしている。	周りの意見を受けて「どう思いますか。」と問い掛け、感じたことを話す時間を設ける。
M 2年・女	友達や教師とのやりとりを通して、様々な視点で考え、意見を整理している。	「どうしてだと思えますか。」「～の立場だったらどう思えますか」と問い掛ける。
N 3年・女	友達や後輩、教師とのやりとりを通して自分の考えを整理している。	自分の意見や考えを見直し、友達の意見と比較する時間を設ける。
O 3年・男	様々な考え方に共感を示し、意味を見付けようとしている。	様々な考えを広げることができるよう「反対の立場で考えるとどうですか。」と問い掛ける。

## 3 グループ（3年教室）

氏名・性別	ねらい	手立て
P 1年・女	友達や教師とのやりとりを通して、自分事として意見を考えようとしている。	友達の意見を見比べたりする機会を設けたり、教師が「どんな気持ちになるか。」「どうするか。」と問い掛ける。
Q 1年・男	友達や教師とのやりとりを通して、様々な考え方があることを知り、自分の考えを深めている。	周り意見交換する時間を設けたり各グループで出した意見を模造紙で掲示したりする。
R 1年・男	自分のこれまでの経験を重ねて、テーマについて様々な角度から考えようとしている。	「どうしてだと思えますか。」「どんな気持ちだと思えますか。」と問い掛ける。
S 2年・男	友達や教師とのやりとりを基に、様々な視点で自分の考えを深めている。	友達の意見と比較して、教師が「どうしてそう思いましたか。」「それはどうしてだと思えますか。」と問い掛ける。
T 2年・男	様々なものの見方があることを知り、自分の考えを深めている。	自分の意見や考えを整理し、友達の意見と比較する時間を設ける。
U 3年・男	友達や教師とのやりとりを通して、自分の考えを整理したり、捉え直したりしている。	「それはどういうことですか。」「その場合どう考えたらよいと思えますか。」などと問い掛ける。
V 3年・男	様々な考え方に対し、自分なりの感じ方や意見と摺り合わせて話題にしている。	発展的な展開につながるよう、「こんな場合はどうですか。」など言葉掛けをする。

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 ※下線は「学部で目指す生き生きと学ぶ姿」につながる手立て
5	1 本時の事例とめあてを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員が事例の状況を理解し自分の意見を考えることができるよう、ワークシートに加えてスライド資料で事例を説明する。</li> </ul> 問：あなたがAさんだったら、どうしますか。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて：おばあさんの気持ちや、自分だったらどうするか考えよう。</div>
5  25	2 自分の立場と理由を考える  3 3グループに分かれディベートを行う (1グループ:T3) (2グループ:T1) (3グループ:T2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自信をもって自分の意見を話したり、考えを広げたりすることができるよう、<u>自分で意見を考えた後に少人数グループで意見交流をする。</u></li> <li>全員が自分の意見を伝えられるよう、「一人一意見以上」「自分の言葉で話す」「最後まで話を聞く」などのルールを示す。</li> <li>考えの手掛かりとなるよう、<u>生徒の発言を簡潔にシートに記入する。</u></li> <li>反対の立場の意見を自分と照らし合わせて考えることができるよう、途中で<u>自分の立場を変えてもよいことを伝える。</u></li> <li>考えを広げることができるよう、意見に悩む生徒や意見が限定されているグループなどの状況に応じて、<u>気付きを促す発問をする。</u>また、<u>自分の立場と反対の立場に移動して考える時間を設ける。</u></li> </ul> 問：おばあさんはどんな気持ちだと思いますか。 おばあさんはどうして話していると思いますか。 Aさんはなんで迷っていると思いますか。
5	4 各グループの意見を全体で共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループで出された様々な意見を知り、より考えを広げることができるよう、グループの代表者がグループ協議の内容を整理して発表する。</li> </ul>
5	5 自分だったらどうするかを考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディベートや発表を通して、自分の考え方の変容を理解したり、自分事として捉え直したりすることができるよう、「<u>自分だったらどのように対応するか</u>」考える時間を設ける。また、考える手掛かりとして、<u>掲示している各グループのディベートの内容を参考にするよう言葉掛けをする。</u></li> </ul>
5	6 振り返りシートを記入する	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を通して感じたことや分かったことをまとめたり、学びの履歴を残したりすることができるよう、振り返りシートに記入するよう促す。</li> </ul>

(4) 評価

<生徒の評価>

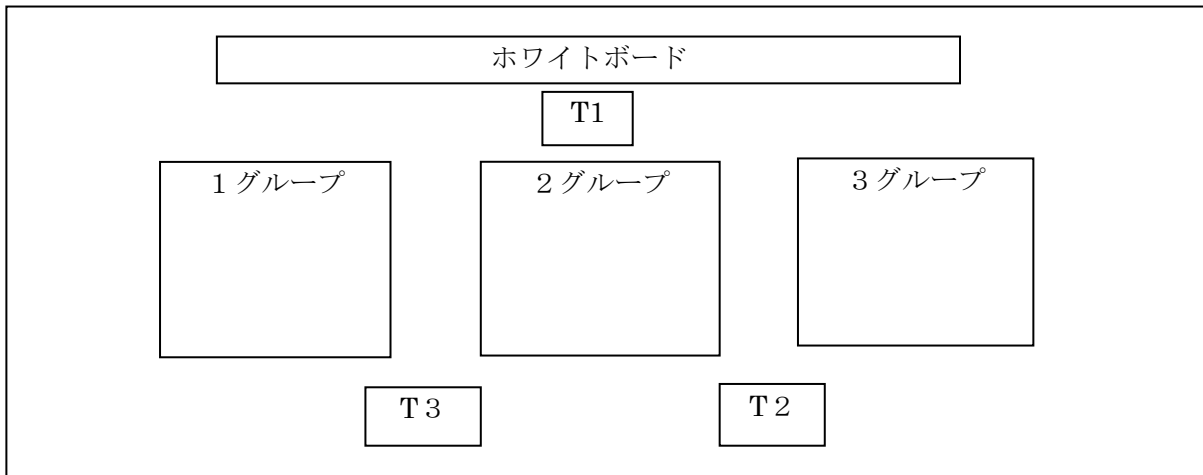
- ・本時のねらいに沿って評価

<教師の手立ての評価>

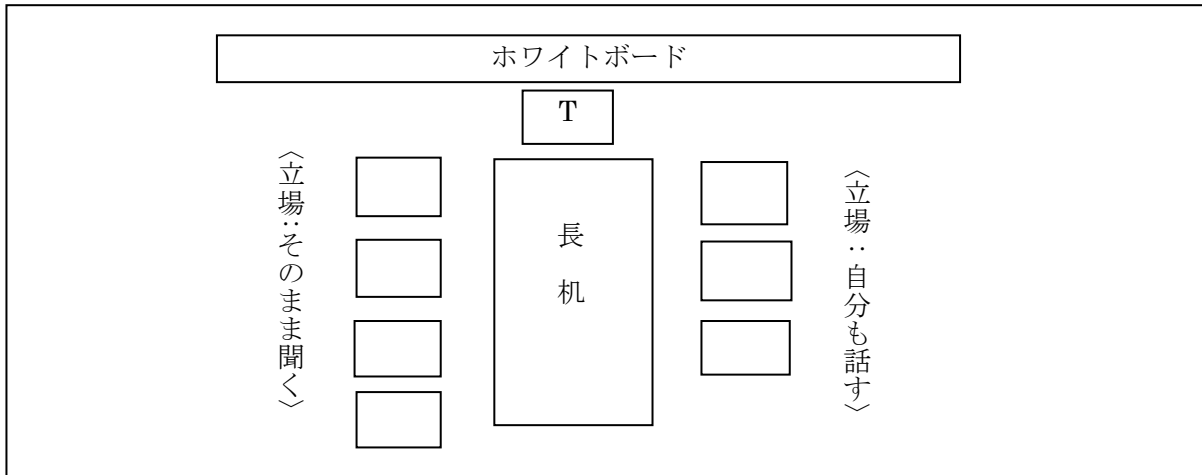
- ・本時のねらいを達成するための教師の手立ての評価

(5) 配置図と板書計画

【全体配置図】(福祉実習室) ※学習活動4時以外



【各教室配置図】(1年教室、2年教室、3年教室) ※学習活動4時



【板書計画】

道徳 相互理解・寛容  
～みんなちがってみんないい～

各グループのディベートの内容

**事例**  
介護施設のおばあさんがずっと話しているとき、あなたならどうする？

ずっとそのまま聞く      自分も話す

めあて  
おばあさんの気持ちや、自分だったらどうするか考えよう。

①  
グループ  
メンバー

②  
グループ  
メンバー

③  
グループ  
メンバー

①  
グループ

②  
グループ



③  
グループ

(6) 本時の事例とスライド資料

【事例】

Aさんは介護施設で働いています。  
施設長からは利用者さんとよくコミュニケーションをとるようにと言われています。  
おばあさんがずっと楽しそうに話をしていますが、Aさんは自分も話した方がよいか迷っています。

【スライド資料】

<p>1</p> <p>Aさん</p> 	<p>2</p> <p>利用者さんとよくコミュニケーションをとるようにしてください！</p> 
---	---

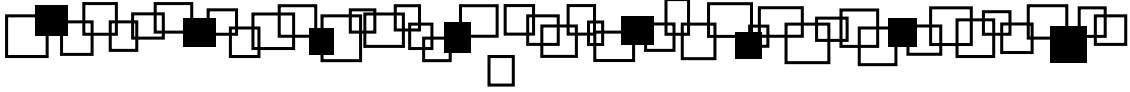
<p>3</p> 	<p>4</p> 
--	---

5

自分も話した方がいかな...



# 寄宿舎研究



## 寄宿舎研究

### 意欲や目的をもち、自ら活動に取り組む姿を目指した生活指導の実践

#### 1 テーマ設定理由

寄宿舎では、昨年度、「学んだことを自分の力として活用できる生徒の育成を目指した生活指導の実践」をテーマに、洗濯やアイロン掛け、身だしなみを整える場面における生徒同士の学び合いや体験的な活動を通じた取組を3年計画で研究を進めてきた。生徒が興味・関心をもって学びたいと考えている内容や、生徒の気付きから発展させた学びの場を繰り返し設定していくことが、学んだことを自分の力として活用する姿につながった。また、生徒の実態や変容を捉える「生活記録」を活用した指導の振り返りの機会を確保し、職員の指導方法を共有していくことが、生徒の学び続ける姿につながったことが挙げられた。一方で、職員同士や職員と生徒との振り返りの機会を多くもち、もっと深く丁寧に行うことで、より学んだことを活用できるようになるのではないかと課題が残った。

今年度、在舎している生徒の実態として「日常生活に関する経験不足な生徒」、「自信がなく消極的な場面の多い生徒」が挙げられる。そのため、日常生活に関する体験的な活動の積み重ねや、周囲からの肯定的な評価が効果的なのではないかと考えた。そこで生徒が興味・関心をもって学びたいと考えていることを、生徒の「やりたい」「伝えたい」「こうなりたい」という視点で整理し、日常生活指導の一環である自立生活実習を研究の場面として取り組むこととした。自立生活実習は、「社会自立に向けて、自己選択・自己決定する力を身に付けること」「個々に必要な体験や知識、生活技術の向上を図ること」をねらいとしている。これまでの研究で有効だった成果を生かし、生徒の興味・関心や気付きを大切にしながら、職員同士、職員と生徒同士の振り返りの機会を多くもつことで、生徒が意欲や目的をもち、自ら活動に取り組む姿が育まれるのではないかと考え、本テーマを設定した。

#### 2 研究仮説

自立生活実習を通じた体験的な活動場面の設定と指導内容や方法の検討、評価を充実させることで、意欲や目的をもち自ら活動に取り組む生徒の育成が図られるだろう。

#### 3 取組の実際

##### (1) 自立生活実習を通じた体験的な活動場面の設定

##### ①【やりたい】目標をもち、達成に向けて考えたり、調べたりする機会を設定

生徒の希望を基に、担当職員が育てたいと考える力を伸ばすことをねらいとして、活動内容を検討した。(写真1～4)

また、生徒の実態や活動内容、ねらいに応じて活動の記録の様式を変更した。(写真5)

##### 【自立生活実習の目的】

- (1) 社会自立に向けて、自己選択・自己決定する力を身に付ける。
- (2) 日常生活に必要な時間、金銭、服薬などの管理、洗濯や掃除、食器洗い等の家事について、個々に必要な体験や知識、生活技術の向上を図る。

【体験の形態】

- (1) 宿泊体験：泊数は最長4泊5日
- (2) 時間体験：下校後から登校前までの時間



写真1 過去の取組を知る



写真2 取組の内容を決める

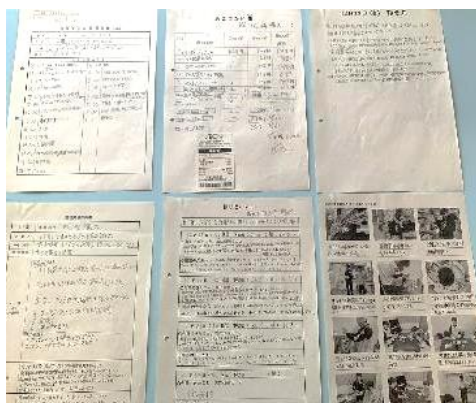


写真3 動画による取組の事前

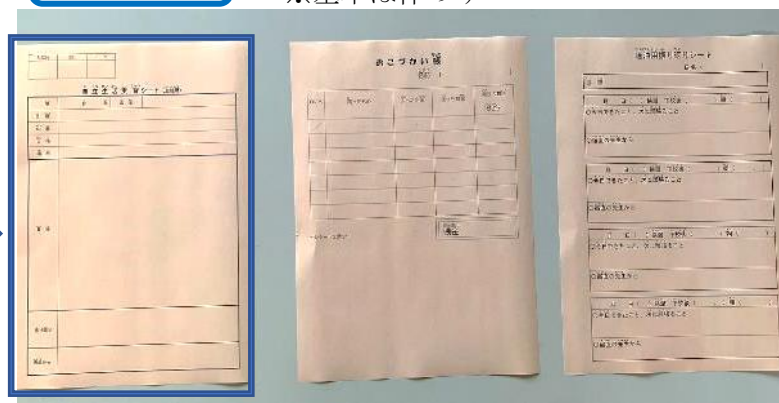


写真4 取組の実際

昨年度まで



今年度から



※基本は枠のみ

写真5 記録用紙の見直し

②【伝えたい】 寄宿舍集会や学習会を活用した情報共有や活発な意見交換をする場面を設定

実施した生徒が取組の内容や振り返り、取組の目的を発表する場として、寄宿舍集会を活用した。「卒業後一人暮らしをするため、自立のために、一人でできることを増やしていきたい」と抱負を述べる生徒も見られた。特に新入舎生は興味深く話を聞き、「やりたい」と自ら発言して活動への意欲を示す様子が見られた。

また、点呼の時間を活用して活動前後の発表を行ったり、取組の様子を掲示したりするなど、情報共有の場を設定した。生徒自身が家族や学級担任に活動内容を詳しく伝えていたり、

発表を楽しみにしていたりと、意欲を示す言葉が多く聞かれた。さらに、当日に学級担任が寄宿舎を訪れ、取組の様子を参観したり評価を行ったりすることで、実践の場や発表の場が生徒の自信につながる様子も多く見られた。(写真6、7)



写真6 活動前後の取組を発表



写真7 学級担任による活動の参観

### ③【こうなりたい】実践してうまくいったことや課題を振り返り、今後どうしていきたいか、どうなりたいかを言語化する機会を設定

四つのグループに分かれて学習会を行い、自分の取組の成果を伝え合ったり、他の寄宿舎生のよいところを見付けたりするなど、活発な意見交換を行った。その中で「先輩の話を聞いて、私もこの活動を頑張りたい」「〇〇先輩のように、次はもっとこうなりたい」など、今後の意欲を示す発言が多く見られた。また、グループによっては、イラスト付きのカードやホワイトボード、テンプレートを活用し、自分の意思や思いを伝えやすくする工夫を行った。自分の言葉で実践の成果や課題を振り返り、言語化する機会を設けたことで、できたことや難しかったことに加え、次に頑張りたいことを整理し、今後の活動の目標や見通しを具体化することができた。(写真8、9)

担当職員と振り返りの時間を設定し、生徒の自己評価と職員による他者評価を突き合わせて擦り合わせを行った。生徒と職員の評価にずれが生じることもあったことから、今後は指導内容の焦点化を図るとともに、他者評価の機会を意図的に設定し、掲示等も活用しながら評価の共有を進めていきたい。



写真8、9 自立生活実習学習会

## (2) 生徒の多角的な実態把握

学部と連携し、抽出生徒の実態の整理と捉え直しの演習会や学部授業研究会に参加しながら、情報共有を図った。生徒の的確な実態把握の方法や整理の仕方を参考にし、生活指導の手

立て等について検討した。(写真 10) 生徒の行動の背景にある困難さに注目して明らかにしたことで、指導の中で実態を踏まえた手立てを話し合うことができた。

また、抽出生徒の生徒実態把握票(後期)については、全職員が記録に関わり、各職員の主観的な見取りを記入する形で作成した。複数の視点を集約することで、中心的な課題を探る手掛かりを得るとともに、生徒理解を深めることにつながった。今後は、この方法を他の寄宿舎生にも広げ、生徒理解の充実を図っていきたい。

生徒実態把握票の項目の見直しも行うことができた。来年度は、学校で作成している生徒実態把握表と寄宿舎で作成している生徒実態把握票を確実に共有できるようにしていきたい。



写真 10 生徒の実態の整理

### (3) 評価方法の充実

#### ① 実践記録シートによる評価

手立てや環境設定について担当間で話し合い、寄宿舎研究会で情報を共有した。実践記録シートを活用することで、生徒の様子や変容、評価を一目で把握することができ有効であった。

また、生徒の取組について、生徒と職員が同じ視点で評価できるよう、3段階の評価基準を検討し設定した。評価基準を明確にすることで、評価の公平性や一貫性が保たれ、成長や変容を捉えやすくなった。さらに、「どの段階までできるようになったか」具体的に把握することができ、評価の客観性を高めることにつながった。一方で、生徒と職員、あるいは職員同士の評価にずれが生じることもあったため、今後は見取り方についてより深く意見を出し合い具体例を挙げながら共通理解を図っていきたい。

#### ② ショートミーティングによる評価

ショートミーティングを定期的実施し、抽出生徒を中心に手立てや変容、評価等について共有した。短い時間でのミーティングであるため意見が出しやすく、記録には表れにくい細かな生徒の様子についても共有することができ、活発な意見交換につながった。

#### ③ 指導を見合う会での評価

ICTを活用した「指導を見合う会」を寄宿舎宿直指導員とも実施し、抽出生徒の実態や現在取り組んでいる指導内容、手立てについて意見交換を行った。男子職員や寄宿舎宿直指導員の視点も生活記録に反映され、生徒理解の精度を高めることができた。

## 4 まとめ

### (1) 成果

#### ① 意欲をもって前向きに取り組もうとする姿

生徒の意欲を引き出すことを大切にしながら、活動内容を相談して決めることができた。過去の取組の様子を振り返る中で、「〇〇先輩のようにこの活動に取り組みたい」「この活動に挑戦して

みたい」「この活動なら卒業後も家庭で続けられそう」など、身近な先輩をロールモデルとして意識したり、やったことのない活動にも自ら挑戦しようとしたり、卒業後の生活をイメージしたりしながら、活動へ前向きに取り組もうとする生徒が多く見られた。

## ②生徒の行動やその背景を多面的に整理した、生徒理解の充実

授業参観を通して学校での生徒の実態をより深く把握することができ、今後の指導方法の見直しにつなげることができた。また、学部職員に取組の様子を参観・共有してもらうことで、生徒の励みとなり、「次もやりたい」と自ら発言したり、準備や片付けを進んで行ったりするなど主体的な姿が見られた。さらに、活動後には「できた」と達成感を言葉で表し、意欲や自信につなげることができた。

ショートミーティングを計画的に実施したことで、話合いが活発になっただけではなく、今後の効果的な指導方法について検討し、共通理解を図ることができた。また、実践記録シートを活用することで、生徒の様子や変容、評価を一目で把握でき、情報共有の面で有効であった。さらに、ICTを活用したことにより、担当以外の職員も生徒の取組の様子を確認し、評価に関わることが可能となった。その結果、男子棟・女子棟といった区分にとられない記録体制が構築され、男子職員や寄宿舎宿直指導員も女子生徒の様子を記録するようになった。性別や担当の偏りに左右されることなく、多様な視点から生徒の姿を捉えることができるようになり、生活記録等にそれらの視点が反映することができた。

## (2) 次年度に向けて

評価の視点を共有するために、室会や学習会を活用し、生徒同士が取組について発表したり意見交換を行ったりしながら、自らの活動を振り返る機会を設定していく。また、生徒や職員による他者評価の機会を設け、取組や評価を共有できるよう、昨年度効果的であった付箋紙を活用した掲示も取り入れていく。さらに、職員間で活動の目標やねらいを確認した上で指導内容を明確にし、共通の視点をもって生徒の姿を見取り、記録・共有する力を高めていくことで、意欲や目的をもち、自ら活動に取り組む姿を目指した生活指導の実践へとつなげていきたい。



Aさん

〇〇先輩のように洗濯ばさみを上手に使えるようになりたい！先生たちに見てもらいたい！ほめてもらいたい！！

実 態		
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験の乏しさから、基本的な生活習慣が身に付いていない。</li> <li>初めての場所や人に慣れるまで時間が掛かる。</li> <li>自分の考えを話したり書いたりすることに対して消極的である。</li> </ul>		
現 在 及 び 将 来 の 生 活 に つ い て の 希 望		
本 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーで働きたい。</li> <li>料理ができるようになりたい。</li> </ul>	
保 護 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活面で、自立してほしい。そのために、寄宿舎に入ることを希望する。</li> <li>一人立ちできるように、料理や食器洗い、洗濯、掃除など、家での仕事ができるようになってほしい。</li> </ul>	
目 標	指 導 の 手 立 て	生 活 の 様 子 ・ 変 容
<ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯ばさみの指使いに気を付けながら、ピンチハンガーに洗濯物を平行に干す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯ばさみの指使いに気を付けて洗濯物を干すよう確認する。</li> <li>ピンチハンガーにタオルを平行に干せるように洗濯ばさみの部分を色分けする。</li> <li>何か分からないことがあれば本人からの話を聞いてアドバイスをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人からピンチハンガーに上手に干せないと相談があり、洗濯ばさみの部分を色分けする工夫をしたところ、バランス良く平行に干すことができていた。</li> <li>しわ伸ばしの仕方を教えると職員の手本を見てすぐに実践していた。</li> <li>回数を重ねる毎に洗濯ばさみの指使いも慣れ、一人で洗濯物を上手に干せるようになった。</li> </ul>
他 者 評 価		
学級担任	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピンチハンガーのどこに、何を干すのかを考えたり確かめたりする姿が見られた。</li> <li>自分でやってみようとする気持ちが見られた。</li> </ul>	
担当職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピンチハンガーの洗濯ばさみの使い方が上達した。</li> <li>バスタオルのしわ伸ばしを集中しながら丁寧に取り組む姿が見られた。</li> </ul>	

実践記録シート【9月】

評価基準（生徒） A:一人でできる B:一部ヒント（言葉掛けなど）が必要 C:手伝いが必要

評価基準（職員） A:職員の見届けがなくてもできる B:職員の見届けが必要 C:職員の部分的な支援が必要

氏名	目的・手立て	様子・変容	生徒評価	職員評価	今後の指導方法
Aさん	<p>目的</p> <p>ピンチハンガー等の干し方を覚える。</p> <p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯ばさみの指使いに気を付けて洗濯物を干すよう確認する。</li> <li>ピンチハンガーにタオルを平行に干せるように洗濯ばさみの部分を色分けする。</li> </ul>	<p>様子・変容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯ばさみの指の使い方や力の入れ方はまだ慣れない様子。</li> <li>裏返しのまま干しており、裏返しを直してから干すように話す。</li> <li>本人からピンチハンガーに上手く干せないと相談があり、洗濯ばさみの部分を色分けする工夫をしたところ、バランス良く平行に干すことができていた。</li> <li>しわ伸ばしの仕方を教えると職員の手本を見てすぐ実践していた。</li> </ul>	A	B	<p>今後の指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯ばさみの指の使い方や力の入れ方は慣れてくるまで、しわ伸ばしやピンチハンガーの干し方はその都度確認し、何か分からないことがあれば、話を聞いてアドバイスをします。</li> </ul>

実践記録シート【10月】

評価基準（生徒） A:一人でできる B:一部ヒント（言葉掛けなど）が必要 C:手伝いが必要

評価基準（職員） A:職員の見届けがなくてもできる B:職員の見届けが必要 C:職員の部分的な支援が必要

氏名	目的・手立て	様子・変容	生徒評価	職員評価	今後の指導方法
Aさん	<p>目的</p> <p>ピンチハンガー等にバランス良く干す。</p> <p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯ばさみの指使いに気を付けて洗濯物を干すよう確認する。</li> <li>ピンチハンガーにタオルを平行に干せるように洗濯ばさみの部分を色分けしする。</li> <li>何か分からないことがあれば話を聞いてアドバイスをします。</li> </ul>	<p>様子・変容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上手に干せるようになってきており褒めると照れていた。回を重ねていくことで、自分なりにどこが上手になったと思うか聞くとピンチハンガーと答える。</li> <li>靴下の裏返しにも気が付いて直していた。</li> </ul>	A	A	<p>今後の指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯の干し方は、洗濯ばさみの指使いも慣れてきて、一人で上手に干せるようになってきている。干すスピードも以前より早くなってきて余裕が見られるようになった。</li> <li>経験不足なことが多く自分の気持ちや考えを伝えること、説明することが苦手な面があるので、発表する場面を多く設ける。</li> </ul>



写真 11 保護者と共に目標設定



写真 12 実践



写真 13 評価



写真 14 発表

取組の実際の様子

資料 8

宿泊体験：泊数を伴う体験活動



<p>【良くてきたと思うところ】</p> <p>スケジュール(朝)に行動できた。</p> <p>朝(起床後すぐ)のあいさつも、自分からすすんですることができている。</p>	<p>【もう一歩だったと思うところ】</p> <p>あいさつの声かもう少し高く出るあたり。</p>
<p>精神外注から見たポイント</p>	
<p>【良くてきたと思うところ】</p> <p>スケジュールを覚識は行動できていた。</p> <p>朝(起床後すぐ)のあいさつも、自分からすすんですることができている。</p>	<p>【もう一歩だったところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使った物(自分の物)をきちんと元に戻すこと。(入浴道具、洗剤バケツ等)</li> <li>・めがねを洗っていないこと。</li> <li>・布団をしいていないこと。</li> </ul>

時間体験：下校後から登校前までの体験活動

調理



買い物



風呂掃除



トイレ掃除



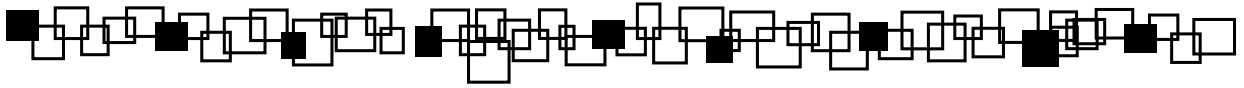
おもてなし



アイロン掛け



# 資料



- 研究のあゆみ

### 研究のあゆみ

昭和 56年度	生活単元学習、遊びの学習
57年度	合同遊び、作業学習
58年度	日常生活の指導、作業学習
59年度	日常生活の指導、作業学習
60年度	ことば（国語）・かず（数学）の要素表の作成
61年度	ことば（国語）・かず（数学）の年間指導計画の作成、自作教具集の作成
62年度	音楽・図工・美術・体育
63年度	養護・訓練

児童生徒の障害の重度化・多様化に伴い、これまでの指導内容や方法だけでは子どもたちの発達要求に十分応えることができないという状況が多く見られるようになってきた。また、基礎集団としての学級での指導を基本としながらも、子どもたちの発達段階と各教科の課題を考慮しつつ、「質」と「量」の違う複数の集団での活動を保障しながら「個」への配慮が必要だという意見が出るようになった。このことから平成元年度に研究テーマを設定し、「個別学習」についての研究・実践を進めた。

これが、「研究くりた」の始まりである。

### 「研究くりた」 研究主題

平成 元年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究 ～一人ひとりを生かす指導の形態と個別指導のあり方～
2～3年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究 ～一人ひとりを生かす指導のあり方～
4～7年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究
8～10年度	生き生きと豊かに生活していく力を育てるために ～日常生活の指導の実践をとおして～
11～12年度	「生活する力」を育てる指導実践 ～生活単元学習を中心として～
13～15年度	個別の指導計画の効果的な活用 ～よりよい授業づくりを目指して～
16年度	障害の特性に応じた指導の在り方 ～専門性の向上及び環境の整備を軸に児童生徒の伸長を目指す～
17～18年度	障害の特性に応じた指導の在り方 ～自閉性障害の障害特性に適切に対応した教育内容・方法の充実を目指して～
19～20年度	一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりを目指して ～4つの観点（主体性、知識・技能、生活への般化、社会性）から～
21～22年度	一人一人の願いを生かした授業づくり
23～24年度	一人一人の自立と社会参加を目指した一貫性のある指導の在り方 ～働く意欲を育てる授業づくりを通して～
25～26年度	自立と社会参加を目指して、主体的に学習する姿を求めた授業づくり ～「考える」「活かす」に焦点を当てて～
27～28年度	自分のよさに気付き、もてる力を発揮できる児童生徒を育てる授業づくり
29～30年度	「合わせた指導」の基本を徹底した授業づくり ～「授業改善プロジェクト」の検証と成果を踏まえて～
令和元～2年度	児童生徒が学びを実感できる授業づくり ～学ぶ姿に着目した授業研究を通して～（元年度） ～単元・題材の構成及び配列の工夫・改善を通して～（2年度）
3年度	一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善＜1年計画＞ ～学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して～
4～6年度	自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり＜3年計画＞ ～協働的な学びの充実を通して～（4・5年度のみ）
7～8年度	児童生徒が生き生きと学ぶ姿を目指した授業づくり

## おわりに

本校では、昨年度までの3年間「自ら学び続ける子ども」の育成をキーワードとした研究に取り組み、自ら学び続ける子どもの育成には「学びの必然性」と「学びによる達成感」が重要であり、その土台として「多角的な視点から捉えた児童生徒理解」が必要であることを学びました。

今年度は、その成果を基に各学部で「生き生きと学ぶ」姿を研究のサブテーマに掲げ2ヵ年で取り組む研究をスタートしました。研究の推進にあたっては、各学部の研究部員が中心となり、児童生徒の思いや願いを含めた実態把握、児童生徒の実態の整理と捉え直し、授業者同士で授業の意図を検討・共有することを目的とした事前検討会、児童生徒の具体的な姿に基づいた学びの評価に取り組みました。

児童生徒の実態把握にあたっては、定期的な個別面談の実施や児童生徒の内面の見取りについて伝え合い、また子ども自身が記入した自分の願い等を参考にしたことで、教師が児童生徒の内面の理解を深めました。その結果、児童生徒の「やりたい」「知りたい」という思いを起点にした主体的に取り組める授業を構想することにつながりました。また、事前授業検討会では、教師間で児童生徒観、題材観、指導観を共有し、単元や授業で育てたい力について設定理由から整理したことが、児童生徒の学びを価値付ける視点の教師間での共有につながりました。

その他、児童生徒理解力の向上に向けては、自立活動の研修会、教育専門監や研究主任による短時間の研修会、精神科の学校医を招いての研修会等を実施しました。また、高等部総合サービス科では、秋田県総合教育センターから講師を招いて道徳科の研修会、授業研究会を実施したことで、道徳科の基本について基本から学ぶなど、専門性の向上に努めました。

研究のまとめとなる次年度は、今年度の成果である児童生徒の実態把握のための取組を教育資料作成の手順の中に位置付けることで日々の授業づくりに生かすことを目指します。また、評価の観点を明確化しねらいやめあてに沿った指導及び支援につなげてまいります。

今年度の研究成果は本研究紀要にまとめたほか、研究概要としてリーフレット版を発行しています。併せて御覧いただき、御意見、御感想をお寄せいただきますようお願いいたします。

最後に、本校の研究推進に対し、御指導御助言をくださった全ての皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後も変わらず御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。巻末の御挨拶といたします。

副校長 田中 紀和

# 研究同人

校長 神部 守                      副校長 田中 紀和                      教頭 齊藤 理香                      大川 康博  
事務長 小野 弘美                      教諭(兼)教育専門監 牧野 幸枝                      研究主任 杉渕 陽子

## 小学部

齊藤 舞子	柳田 智子	茂内 みき	篠田るり子	山田瀬里奈	菅原 美里
沓澤 愛純	石川 瞳	伊藤 和美	首藤 真理	野内枝里子	藤原 真美
大山万里子	照井真理子	長谷川桃子	堀田 聡弥	藤原 淳一	田口 智子
大塚亜紀子	京屋 庸子	小嶋美智子	筒井 仁	臼井 道和	菅原 智子
会場 友美	秋元 仁美	鷺谷 武彦	梅田 季和	永井 純子	齋藤 彩夏
工藤 由紀	佐々木千春	富岡 雅江	久慈由起子	齋藤美奈子	佐々木里恵子
佐藤 聖子	田村 優	高西 祐紀	佐賀 有沙	渡邊将太郎	田口 晶子
中村麻希子	藤原 忍				

## 中学部

黒澤 正子	照井真紀子	五十嵐智子	小林 朋子	下村 志穂	原田もとよ
大友 信	柿崎 和恵	塚本 茜	和泉 緑	工藤 彩	目黒 雄悦
加藤 章子	菅原 文彦	大島 由紀	熊谷理香子	高橋ひな子	高橋 裕子
小林 哲	小野 格	村上世生子	杉渕 陽子	渡部 恵	成田 裕人
柴田 壮紀	高橋 陽子	佐藤 力哉	長谷部優子	安藤 真貴	三浦 弥
森本 芹果	渡部 想				

## 高等部

【普通科】					
菊地 正紀	加藤有美子	伊藤 俊彦	鈴木 英揚	信太真喜子	舘岡 裕介
門間 陽子	鈴木 崇	遠藤 葵	藤井 優香	菊地 武	市川奈津子
廣川 佳世	播摩友紀子	大滝 佳奈	鈴木 暁子	相澤 晶	菅 奈穂
佐藤 美幸	武田 聖花	熊地ゆうき	伊藤 貴浩	津嶋 孔明	千葉 隆之
嶽石 美裕	荻原 正賢	大沢 快盛	笹渕 幸廣	能登屋 弥	相原 章子
笠井 久子	佐藤 聖哉	櫻庭ひかり	松田 珠実	小林 匡	鎌田 拓朋
高橋佳代子	伊藤 悟	熊谷 彩	成田 ゆか		
【総合サービス科】					
伊藤 学	中野 貴洋	畠澤 裕佳	舘山 柊	加藤真依子	佐藤 桂
長谷川善行	竹場 久美	泉 良昌	千葉 仁	近藤 文晴	保坂 潤子

## 寄宿舎

佐藤 明子	佐藤 光子	坂本 香織	渡會 妙子	花田 滝	藤田志穂子
佐々木晶子	岩澤 佑一	五十嵐みゆき	菅原ルリ子	荻原 雅子	保坂 康子
高橋 紀晴	梁川 亮				

## 令和7年度 研究 くりた

発行年月 令和8年3月発行

発行所 秋田県立栗田支援学校

〒010-1621 秋田市新屋栗田町 10-10

TEL 018-828-1162

018-888-8171 (第2校舎)

018-828-1170 (寄宿舍)

FAX 018-828-4720

ホームページ <http://www.kurita-s.akita-pref.ed.jp/>

メールアドレス [kurita-s@akita-pref.ed.jp](mailto:kurita-s@akita-pref.ed.jp)